

官報

號外

昭和四年三月十六日 土曜日

內閣印刷局

第五十六回帝國議會衆議院議事速記第三十三號

昭和四年三月十五日(金曜日)午後一時二十二分開議

議事日程 第三十二號

昭和四年三月十五日

午後一時開議

第一 肥料管理法(政府提出)

第二 肥料管理特別會計法案(政府提出)

第三 日本興業銀行法中改正法律案(政府提出)

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 國際汽船株式會社ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第七 大禮堂室博物館復興費會事業費ノ補助ニ關スル法律案(政府提出)

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第九 關稅定率法中改正法律案(政府提出)

第十 大正十三年法律第二十四號中改正法律案(警備品等ノ輸入稅ニ關スル件)(政府提出)

第十一 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十二 造幣局特別會計法中改正法律案(政府提出)

第十三 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十四 大正十四年法律第五十一號中改正法律案(關東州ノ生産品輸入稅免除等ノ件)(政府提出)

第十五 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十六 救護法案(政府提出)

第十七 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十八 特許法中改正法律案(政府提出)

第十九 實用新案法中改正法律案(政府提出)

第二十 意匠法中改正法律案(政府提出)

第二十一 商標法中改正法律案(政府提出)

第二十二 勞働者災害扶助法案(政府提出)

第二十三 酒造組合法中改正法律案(政府提出)

第二十四 資源調查法案(政府提出)

第二十五 陪審法中改正法律案(政府提出)

第二十六 船舶職員法中改正法律案(政府提出)

第二十七 無線電信法中改正法律案(政府提出)

第二十八 衆議院議員選舉法中改正法律案(一見其郷君外一名提出)

第二十九 家藏寶典祿給與未濟ニ關スル法律案(石井次郎君外五名提出)

第三十 質屋取締法中改正法律案(鬼丸義齋君提出)

第三十一 古物商取締法中改正法律案(鬼丸義齋君提出)

第三十二 刑法中改正法律案(牧野賤男君外二名提出)

第三十三 借家法中改正法律案(小久江美代吉君外二名提出)

第三十四 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出)

第三十五 道路法中改正法律案(菅野善右衛門君提出)

第三十六 町村有建物火災保險相互組合法案(岩崎一高君外十一名提出)

第三十七 遠洋漁業獎勵法中改正法律案(原耕君提出)

第三十八 違警罪即決例中改正法律案(一松正吉君外二名提出)

第三十九 工場法中改正法律案(千葉三郎君外五名提出)

第四十 勞働組合法案(鈴木文治君提出)

第四十一 刑ノ執行又ハ拘留ニ因ル補償ニ關スル法律案(宮古啓三郎君外九名提出)

第四十二 陪審法中改正法律案(橫山勝太郎君外三名提出)

第四十三 衆議院議員選舉法中改正法律案(小久江美代吉君外四名提出)

第四十四 衆議院議員黨籍變更ニ關スル法律案(小久江美代吉君外四名提出)

第四十五 牧野法案(中島鵬六君外一名提出)

第四十六 健康保險法中改正法律案(西尾末廣君提出)

第四十七 國定教科書官給法案(樋口秀雄君外六名提出)

第四十八 耕地整理法中改正法律案(三輪市太郎君外十二名提出)

第四十九 農會法中改正法律案(三輪市太郎君外十二名提出)

第五十 行政執行法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

第五十一 膠州灣舊租借地引渡ニ關スル條約實施ニ伴フ損害ノ補償ニ關スル法律案(小谷節夫君外三名提出)

第五十二 辯護士法中改正法律案(岡本實太郎君外六名提出)

第五十三 司法代書人法中改正法律案(坂本忠雄君外三名提出)

第五十四 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(星島二郎君外六名提出)

第五十五 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(田中養達君外六名提出)

第五十六 樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル法律案(沖島鎌三君外二名提出)

第五十七 樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル法律案(小池仁郎君外五名提出)

第五十八 第一讀會ノ續(委員長報告)

第五十九 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十二 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十三 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十四 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十五 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十六 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十七 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十八 第一讀會ノ續(委員長報告)

第六十九 第一讀會ノ續(委員長報告)

第七十 第一讀會ノ續(委員長報告)

第七十一 第一讀會ノ續(委員長報告)

第七十二 第一讀會ノ續(委員長報告)

第七十三 第一讀會ノ續(委員長報告)

第七十四 第一讀會ノ續(委員長報告)

第七十五 第一讀會ノ續(委員長報告)

勳三等 川原 茂輔
議院法第三條ニ依リ衆議院議長ニ任ス
一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
大正十四年法律第五十一號中改正法律案
(關東州ノ生産品輸入税免除等ノ件)
救護法案

(以上三月十四日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
下仁田三反田間鐵道敷設ニ關スル建議案
提出者 山邊 常重君

名古屋市ニ少年審判所並矯正院設置ニ關
スル建議案
提出者 椎尾 辨匡君 鬼丸 義齋君

外客誘致ニ關スル建議案
提出者 田中 万逸君 栗山 博君

福島市ニ高等蠶絲學校設置ニ關スル建議
案
提出者 栗山 博君 菅村 太事君

川俣浪江間鐵道敷設速成ニ關スル建議案
提出者 比佐 昌平君 林 平馬君

栗山 博君 菅村 太事君
比佐 昌平君 林 平馬君

奥羽線福島米澤間電化速成ニ關スル建議
案
提出者 栗山 博君 菅村 太事君

野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 比佐 昌平君 林 平馬君

高橋元四郎君 佐藤 啓君
菅村 太事君 林 平馬君

日足鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 高橋元四郎君

日光國立公園設定ニ關スル建議案
提出者 高橋元四郎君

豫後備兵召集時期ニ關スル建議案
提出者 高橋元四郎君

農業倉庫相互保險ニ關スル建議案
提出者 池田 龜治君 胎中楠右衛門君

土井 權大君 板谷 順助君
用排水幹線改良事業ニ關スル建議案
提出者 胎中楠右衛門君 土井 權大君

板谷 順助君 池田 龜治君
相模川左岸用排水改良事業ニ關スル建議
案
提出者 胎中楠右衛門君 池田 龜治君

三輪市太郎君 板谷 順助君
地租委譲ノ場合ニ於ケル耕地整理施行地
ノ特典維持ニ關スル建議案
提出者 池田 龜治君 土井 權大君

胎中楠右衛門君 板谷 順助君
東京府松江町ニ高等工業學校設置ニ關ス
ル建議案
提出者 佐藤 正君

聯隊區管轄區域變更ニ關スル建議案
提出者 豐田 收君 土井 權大君

沖島 鎌三君 土井 權大君
鳥取縣三朝ニ溫泉治療研究所設置ニ關ス
ル建議案
提出者 豐田 收君 沖島 鎌三君

平賀 周君 沖島 鎌三君
智頭佐用間鐵道敷設速成ニ關スル建議案
提出者 豐田 收君 土井 權大君

原 惣兵衛君 土井 權大君
千代川改修工事速成ニ關スル建議案
提出者 豐田 收君 沖島 鎌三君

(以上三月十四日提出)
一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ
如シ
養蠶業並組合製絲獎勵助長ニ關スル質問
主意書
提出者 岡崎久次郎君

(以上三月十四日提出)
〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲
茲ニ掲載ス〕
一昨十四日衆議院規則第十五條但書ニ依リ
議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ
三三五 山崎傳之助君
四三六 大西 正幹君
一昨十四日辭任シタル常任委員左ノ如シ
豫算委員 松實喜代太君
一昨十四日委員長及理事互選ノ結果左ノ如
シ
衆議院議員選舉法中改正法律案(床次竹
二郎君外十九名提出)委員
委員長 粕谷 義三君
理事名川 侃市君 理事中谷 貞賴君
理事戸澤民十郎君 理事勝田 永吉君
理事奥村 千藏君 理事沼田嘉一郎君
製鹽地整理ニ關スル法律案(政府提出)委
員
委員長 吉本 陽君
理事岡本實太郎君 理事堤 清六君
一昨十四日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如
シ
衆議院議員選舉法中改正法律案委員
辭任工藤 鐵男君 補關山田 毅一君
辭任作田高太郎君 補關松田竹千代君
辭任山田 毅一君 補關工藤 鐵男君
辭任松田竹千代君 補關作田高太郎君
肥料管理法外一件委員
辭任河崎助太郎君 補關西尾 末廣君
辭任栗原彦三郎君 補關木村小左衛門君
鐵道敷設法中改正法律案委員
辭任井上 剛一君 補關岸 衛君
米穀需給調節特別會計法中改正法律案委
員
辭任高田 耘平君 補關松田竹千代君
○副議長(清瀨一郎君) 是ヨリ會議ヲ開キ
マス、諸君、本日川原茂輔君が衆議院議長
ニ勅任ニナリマシタ、仍テ茲ニ御紹介ヲ申
上ゲマス(拍手)
(川原茂輔君登壇)
○川原茂輔君 諸君、私ハ本日議院法第三
條ニ依リ衆議院議長ニ任ズトノ勅命ヲ拜シ

マシタ、是レ諸君ノ御推薦ニ基クノデゴザ
イマシテ、深ク感謝致ス所デアリマス、唯
微力短才、此重任ヲ全クスルヤ衷心甚ダ懼
ル、所デゴザイマスガ、議院ノ法律規則並
典例ニ從ヒ、公平無私ヲ以テ職ニ當ルコト
ハ、神明ニ誓フテ言明致スノデゴザイマス
(拍手)又議院ノ秩序ヲ保持シ、且ツ議院ノ
神聖ヲ保チ、權威ヲ高カラシムルコトニ關
シマシテハ、私ノ宿志デゴザイマス、此點ニ付
キマシテハ、固ヨリ議長ニ於テ最善ノ努力
ヲ致シマスガ、獨リ議長ノミヲ以テ此目的
ヲ達成スベキモノデアリマセヌカラ、議
員各位ニ於ケラレテモ此旨ヲ諒トセラ
レ、相共ニ協力シ、以テ憲政ノ發達ニ裨益
シタイト存ズルデアリマス(拍手)幸ニ諸
君ノ御助力ヲ仰ギマス、茲ニ就任ノ御挨拶
ヲ致シマス(拍手)
○副議長(清瀨一郎君) 川原議長就任ニ付
キ、年長者ヨリ御挨拶ガアリマス——大養
毅君——此場合川原議長ニ御著席ヲ願ヒマ
ス
(清瀨副議長議長席ヲ退キ川原議長代
リ著席)
(大養毅君登壇)
○大養毅君 私ハ年長ノ故ヲ以テ、諸君ヲ
代表致シテ議長ニ御挨拶申上ゲマス、此度
川原君ガ大多數ヲ以テ議長ニ御當選ナサレ
マシタコトハ、私共最も欣幸ニ存ジマス、
只今川原君ノ御連任ニナッタ通り、最も重大
ナル職務、殊ニ近來ノ議會ノ有様ヲ見マス
ルト、非常ナル互ノ熱心討論ノ末ガ、動モ
スルト大紛擾ヲ起ス、此大紛擾ハ或ハ議院
ノ品位、國ノ品位ニ關係スルコトハナイカ
ト云フコトハ、御互ニ非常ニ憂慮シテ居ル
所デアリマス、此際ニ立タレテ此秩序ヲ保
タルレト云フコトハ、實ニ議長トシテ重大
ナル責任ト存ジマス、吾々ニ於テモ勿論
及ブダケノ力ヲ以テ嚴肅ニ、靜肅ニ秩序ヲ
保ツト云フコトヲ致シタイト存ジマス、此
意味ヲ以テ謹シテ議長ノ御當選ニ對シ、厚
ク御挨拶ヲ申上ゲマス(拍手)
○議長(川原茂輔君) 議事進行ニ付テ發言
ヲ求メラレマシタ——原夫次郎君

〔原夫次郎君登壇〕

○議長(川原茂輔君) 原君ノ登壇中デアリマスガ、此際一言致シマス、議長拜命ニ付キマシテ、是ヨリ各宮家ニ伺候致ス爲メ、暫時副議長ニ此席ヲ譲リタイト思ヒマス

〔川原議長議長席ヲ退キ清瀬副議長代リ著席〕

○原夫次郎君 諸君、先日本議場ニ於ケル颯風一過ノ後受ケマシテ、本日日出度ク議長御就任ニシテ其當席ニ於テ、私が茲ニ議事進行ト致シテ申上ゲナケレバナラヌ事柄ハ、私ト致シマシテモ甚ダ不本意ノ事デアリマス、併ナガラ事柄ハ當議場ニ於ケル去ル十二日、十三日ニ起リマシタル我が議院政治、立憲政治ノ運行ニ關シテ、最も重大ナル所ノ問題ニ付キマシテ、清瀬副議長ノ處置ニ對シテ、茲ニ發言ヲ致ス次第デアリマス、事柄ハ大體ニ於テ友會ノ進行係デアル所ノ原惣兵衛君ノ、彼ノ一切ノ發言禁止ニ關スル動議ノ其處置ノ點デアリマス、即チ去ル十二日床次竹二郎君外十九名ノ提案ニ係ル衆議院議員選舉法中改正法律案ノ議事進行中、原惣兵衛君カラ提案ニ係タル此動議ナルモノハ、同君ニ依テ當議場ニ說明セラレタル所ノモノガアルノデアリマス、即チ「私ハ現在議題トナシ居リマスル衆議院議員選舉法中改正法律案ヲ委員ニ付託スルマデ委員付託ノ動議、質疑終局ノ動議、討論終局ノ動議ノ外議事進行ノ發言、身上辯明、緊急質問、懲罰ノ動議、不信任決議案、其他一切ノ動議及發言ヲ許スベカラズト云フコト」ノ動議デアリマス、此動議ヲ提出致シテ置キマシテ、此動議ニ對シマシテハ私カラ反對ノ討論ヲ致ス通告ヲ爲シテ置イタルデアリマス、然ル所原惣兵衛君ハ更ニ此動議ニ對シテ「此動議自體ニ對シテ再ビ討論ヲシナクテハナラヌト云フヤウナコトニナシタナラバ、永久ニ動議、決議ニ對シ、ソレニ皆討論々々ト言シタナラバ、本案ノ趣意ハ全ク空シクナルモノデアルト言ハシテレバナラヌノデアリマスカラ、果シテ左様ニ私自身ノ此動議ニ對シテ討論ヲ必要トスルカセヌカト云フコトハ、少クト

モ採決ヲ以テシタナラバ十分デアル、討論ノ必要ハ斷ジテナシト私ハ思フノデアリマス、此意味ニ於テ議長ニ若モ御不審ノ點ガアルナラバ、私ノ動議自體ヲ果シテ討論ニ付スベキガ至當デアるか、付シナイノガ至當デアるかト云フコトヲ、此場合採決ニ依テ其趣旨ヲ明ニセラレンコトヲ願ヒマス」ト云フ重ネテノ動議ヲ附加セラレタルデアリマス、私ハ此發言封ジノ動議ハ、更ニ討論ヲ用ヒナイデ之ヲ院議ニ諮ルベシト云フ重ネテノ是ハ動議デアルト見ナケレバナラヌノデアリマス、果シテ然レバ原惣兵衛君ノ動議自體ハ、其動議其モノニ明ニ致サレテ居ル如ク、一切ノ動議ハ之ヲ爲スベカラズト云フ動議ヲ出シテ置キナガラ、之ニ對シテ私が其動議ニ對シテ討論ノ通告ヲナスヤ否ヤ、更ニ自己自身ニ於テモ發言ノ動議ヲ提出スルコトガ出來ナイノニ拘ラズ、此動議ニ對シテハ討論ヲ許サナイト云フコトノ重ネテノ動議ヲ提出スルコト云フコトハ、如何ナル矛盾ノ動議デアるか、又當日清瀬副議長ガ此原惣兵衛君ノ發言封ジノ動議ニ對シテ、更ニ討論ヲ許サナイト云フコトノ動議ヲ、更ニ提出致スコトヲ看過スルニ至テハ、果シテ如何ナル趣意ニ依テスノ如キ重ネテノ動議ヲ提出セシメタルデアリマス、是ガ私が清瀬副議長ノ此動議ノ處置ニ對シテノ第一點ノ質疑デアルノデアリマス、是ハ十三日ノ夜ノ事柄デアリマスルガ、此動議ノ處理ニ付テハ、清瀬副議長ハ之ヲ翌日ニ廻サレタルデアリマスシテ、翌十四日ニ私ハ如何ニ是ガ處置セラル、モノデアるかト云フコトヲ、心竊ニ議場デ傍觀ヲ致シテ居タノデアリマスルガ、清瀬副議長ハ十四日ニ於キマシテハ、此動議ノ取扱方ニ付テハ、原惣兵衛君ノ討論ヲ用キナイト云フ後ノ動議ハ、矢張私ト同意見デアッテ、ソレハ動議トシテ議場ヘ出スベキモノデハナク、寧ろ是ハ議長ガ職權トシテ、職權ヲ以テ院議ニ諮ルコト云フコトデ、投票ヲ用キラレテ採決ヲ執ララル、ナラバ、其前十三日ニ於テ、原惣兵衛君ガ此討論ヲ用キナイト云フコト

ノ動議ノ趣意ヲ、此本演壇ニ於テ説明セシムベカラザルコトニ屬スルコト、思フノデアル、然ルニ一旦原惣兵衛君ヲ立タシメテ、此演壇ニ其二重ノ動議ヲ演說セシメテ置イテ、而シテソレヲ更ニ議長ガ職權ヲ以テ、直ニ是ガ採決ヲ議場ニ諮フコトハ、是ハ果シテ如何ナル御趣意ニ依テスノ如キ處置ヲ執ラレタモノデアるかドウカト云フコトガ、是ガ第二點ノ質疑ニ屬スルノデアリマス、以上ハ大體私ノ問ハントスル形式ノ點デアリマスルガ、若シ夫レ私が本日茲ニ最モ力ヲ籠メテ問ハナケレバナラナイ事柄ハ、原惣兵衛君ノ第一段ニ於ケル、斯ノ如キ發言封ジノ動議ナルモノハ、亂暴至極ナル動議デアッテ、我が憲法政治ノ上ニ於テ、議院政治ノ上ニ於テ斷ジテ許スベカラザル動議ト考ヘルノデアリマス、此原君ノ動議其モノハ、先程讀上ゲマシタガ如ク、先ヅ委員付託ノ動議デアルトカ、或ハ質疑終局ノ動議デアルトカ、或ハ討論終局ノ動議デアルトカ、是等ハ假令恕スルト致シマシテモ、又議事進行ノ發言ヲ止ムルト云フコトニ於キマシテハ、之ニ付テハ先例ガアル所デアリマスルカラ、假ニ之ヲ許スト致シマシテモ、其他ノ一身上ノ辯明デアルトカ、或ハ緊急ノ質問デアルトカ、懲罰ノ動議デアルトカ、不信任決議案デアルトカ、其他一切ノ動議ヲ提出スルコトハ出來ナイト云フコトハ、何タル動議デアリマセウ、我が議院法ノ此先例カラ見マシテモ、斯ル似奇タル動議ガ——我が憲法政治開ケテカラ茲ニ五十六回デアルガ、未ダ曾テ斯ノ如キ動議ガ先例ニナッテ居ルモノハ無イノデアリマス、是迄ノ先例ニ依ルト、第三十一回ノ議會ニ於キマシテ、大正三年二月十四日、第二休會後ノ會議ニ於テ、伊藤大八君カラ動議ヲ提出致シテ居ル、此動議ニ對シテハ質問ヲ許サナイト云フ先例ガアルノデアリマス、又茲ニ右諸案以外ノ一切ノ動議ト云フコトガアルガ、是ハ不明ニ屬シテ居ル、質問ヲ許サナイト云フコトノ動議ニ相成シテ居ル、次デ又五十二回議會、即チ昭和二年三月三日、政府提出ノ震災手形補償

公債法案外一件ノ第一讀會ニ於テ、菊池謙二郎君、東武君、高橋熊次郎君等カラ、議事進行ニ付テ發言ノ通告ニ對シテ、井本常作君カラ議事進行ニ付テノ發言ヲ禁止スルト云フコトノ動議ガアルノデアリマス、此動議以外ニ於キマシテハ、未ダ先例ノ認ムベキモノハナイ、又ナイ筈デアル、議會政治ハ年々歲々向上發展シテ行カナケレバナラヌ、昭和ノ今日ニ於テ斯ノ如キ非立憲極マル、吾々ノ言論ヲ抑壓致シテ、一切ノ動議ヲ提出スベカラズト致シテ、吾等議員ノ口ヲ金縛リニ致シテ置イテ、サウシテ自分等ノ提案ニ係ル法案ノ議事ヲ進行セシメヤウト致ス所ノ非立憲極マル、亂暴此上モナイ動議デアルト謂ハナケレバナラヌ、吾々立法ニ參與シテ居ル所ノ第一ノ職責ハ、吾々ハ言論ニ依テ總テノ法律案ヲ慎重審議致サナケレバナラナイ重大ナル責任ヲ有シテ居ル、故ニ議院政治ヲ稱シテ言論ノ府デアル所デアル、又憲法ノ規定ニ依リマスルト云フト、總テ我が帝國議會ノ議事ノ運行ニ關シテハ、之ヲ議院法若クハ議院規則ニ讓テ居ルノデアル、議院法、議院規則ノ如キモノハ、是ハ縱令議員ガ發言中デアッテモ、何時デモ懲罰動議ハ之ヲ提出スルコトガ出來ルト云フ法律ノ規定ガアルノデアル、又其他議事進行ニ致シテモ、或ハ不信任案ノ決議案ニ致シテモ、其他荷モ動議ナルモノハ、原則トシテ何時デモ是ガ提出ガ出來ナケレバナラヌノデアル、然ルニモ拘ラズ此一切ノ動議發言ヲ禁止スルト云フヤウナコトハ、是ハ我が憲法ノ規定カラ見マシテモ、議院法ノ規定カラ見テモ、衆議院規則カラ見テモ、即チ法律ノ規定其モノカラ見マシテモ、亦法律ノ精神カラ見マシテモ、斷ジテ斯ノ如キ亂暴ナル動議ヲ許サスベキ事柄デハナイノデアリマス(拍手)私共ハ原惣兵衛君ノ斯ノ如キ動議ハ、是ハ根本ニ照シテ其動議自體ガ無効ノモノデアルト考ヘテ居ルノデアル(拍手)此根本ニ於テ無効ナル動議ヲ提出致シタル場合ニ於テ

ハ、其處ニハ直ニ書記官長ヲ經テ議長ノ手
計ヘテ其動議自體ヲ宜シク公平ニ判斷ヲ致
シテ、若シ其動議ガ餘リニ議院法ヲ無視
シ、憲法ヲ無視シ、我が憲法政治ヲ賊スル
ヤウナ動議デアラハ、之ニ對シテ注意
ヲ施シ、若シ注意ヲ背カナレバ、斯ノ如
キ動議ハ斷ジテ此演壇ニ上スコトハ出來ナ
イモノデアルト思フデアアル、然ルニ書記
官長ハ之ヲ看過シ、而シテ議長ニ於テ又更
ニ斯ノ如キ動議ヲ有效ナルモノトシテ之ヲ
取扱フニ至テハ、私ハ當時議長ノ法律的精
神ガ何處ニアルカト云フコトヲ、
非常ニ疑フ持テ居タリデアリマス、憲
法、議院法、議院規則ニ照シテ、洵ニ其不
法デアルト云フコトハ明デアアルデアリマ
ス、更ニ又之ヲ常識ノ上カラ見マシテモ、
如何ニ常識ノナイ人間デアッテモ、斯ノ如キ
動議ヲ提出ヲ致シテ、茲ニ法律案ヲ提案ヲ
致シテ、又極端ニ申セバ今日以後政府案
若タハ議員提出案ニ付テハ、一切ノ質問モ
之ヲ爲スコトガ出來ナイ、一切ノ討論モ爲
スコトガ出來ナイ、唯表決ヲ以テ之ヲ
爲スコトガ出來ルト云フ、概括的ナ決議モ
之ヲ爲スコトガ出來ルト致シマシタナラ
バ、マルレバ此議院政治ト云フモノハ闇ト
謂ハナレバナラヌ、斯ノ如キドウモ亂暴
狼藉極マル所ノ動議ヲ、茲ニ吾々ガ看過セ
ナレバナラヌト云フコトハ、是ハ何處カ
ラ出發致シテ居ルカト言ヒマスルナラバ、
是ハ即チ政友會ト稱スル多數ノ團體ガ、唯
勢ニ乘ジテ斯ノ如キ亂暴ナル決議ヲ爲スモ、
ノデアアルデアリマス、之ヲ看過スル所ノ
議長ハ、私共ハ其處置ヲ甚ダ疑感ヲ以テ迎
ヘテ居ルノデアリマス、之ヲ法律上カラ見
マシテモ、實際ノ常識カラ判斷ヲ致シテモ、
今日斯ノ如キ亂暴狼藉極マル所ノ動議ヲ看
過セナレバナラヌト云フコトハ、洵ニ我
ガ憲法政治ノ發達ノ上カラ悲マザルヲ得ナ
イノデアリマス(拍手)昔電報爲右衛門ト云
フ相模取ガアタノデアアル、其電報ニハ門ト
云フ手ガアタ、政友會ハ其門ノ手ヲハメ
テ、アノ衆議院議員選舉法中改正法律案ヲ

一舉ニシテ通過セシメント致シタ、斯ウ云
フヤウナ亂暴ナ手ハ、アノ電報爲右衛門ノ
ヤウナ力士ニ對シテハ、相模道ニ於テモ禁
物デアッタト云フコトヲ吾々聽イテ居ル(拍
手)政友會ハ今日多數黨デアアル、其多數黨
ノ力ヲ以テサヘスレバ何デモ通レルト考
ヘテ、亂暴至極ナコトヲヤルコト云フコトハ
果シテ吾々ハ之ヲ看過スルコトガ出來ルカ
ドウカ、吾々少數黨ト致シテハ、議院政
治ノ上ニ吾々少數黨ト致シテハ、其武器ハ
唯吾々ノ言論デナレバナラヌ(拍手)又
多數黨ノ武器ナルモノハ、固ヨリ是ハ數デ
アル、少數黨ノ武器デアアル所ノ言論ヲ封ジ
テ、自己ノ持テ居ル多數ノ力ニ依テ、何デモ
カンデモ此立憲政治ノ逆行ニ棹サ、ントス
ルコトハ、何タル事柄デアアルデアリマセ
ウカ(拍手)起リ發言スル者多シ、現ニ此動議
ハ衆議院議員選舉法中改正法律案ガ本議場
ニ提案ニナタル去ル九日ニ於テ、齋藤君ノ
質問前ニ於テ、既ニ政友會カラ此亂暴ナル
動議ヲ提案致シタノデアアル、然ル所ノ議
場ノ大混亂ヲ來スニ至リ、遂ニ本議場ハ休
會ノ已ムナキニ至リ、而シテ各派交渉會ト
ナッテ、各派交渉會ノ結果、遂ニ政友會ガ此
提案ヲ致シタルコトヲ非ヲ覺テ、此提案ヲ
撤回致シタルデアアル、是モ明ナル事實デア
ル(拍手)此撤回ヲ致シタルコトハ、政
友會ガ大ニ良心ニ省ミテ斯ノ如ク撤回ヲ致
シタルデアアル(拍手)此提案ヲ致シテ置
イテ、而シテ愈々質疑ニ這入リマス云フト、
其提案ノ條件ト致シテハ、相當ナル質疑ハ
野黨ヲシテ爲サシムルト云フコトノ條件ニ
依テ、アノ議事ヲ進行セシメタノデアリマ
ス、然ル所唯僅ニ齋藤君ノ質問セシメ、龜
井君ノ質問セシメ、唯二人ノ質問ニ依テ之
ヲ打切ラウト致シタ、ソコデ本議場ハ再ビ
險惡トナッタノデ、其場合ニ又政友會ニ於テ
ハ、先キノ門ノ手ヲ此場合ニ出シタルデア
ル、洵ニ不信義極タル提案ノ動機ト謂ハザ
ルヲ得ナイ、私共ハ此點カラ見マシテモ、
一事不再議ノ原則カラ見テモ、政友會ノ斯
ノ如キ動議ナルモノハ亂暴至極ナルモノデ
アルカラ、我が憲法政治ニ副ハナイモノデ

アルト云フ、良心ノ反動カラ撤回ヲ致シテ
置キナガラ、改メテ更ニ斯ウ云フ案ヲ出ス
ト云フコトハ、是ハ言語道斷ノコトデアラ
ネバナラヌ、其一切ノ事情ヲ能ク承知セラ
レテ居ル所ノ清瀨副議長ニ於テ、更ニ斯ノ
如キ動議ヲ取扱フコトニ於テ、普通動議ノ
取扱ノ如ク之ヲ取扱フコト云フコトハ、洵ニ
吾々ハ我が衆議院ノ爲ニ悲マザルヲ得ナイ
事柄デアアルデアリマス、一體我が議會政治
ニ於キマシテ、色々ナ法規典例ガアル、色
色ナ是迄先例モアル、併ナガラ其先例中デ
惡先例ガアタナラバ、宜シク之ヲ議會政治
ノ進歩ノ爲ニハ、捨テルモノハ捨テ、取ル
ベキモノハ取リテ、大ニ我が憲法政治ノ有終
ノ美ヲ圖ルコトニ努メナレバナラヌノデ
アル、然ルニ清瀨副議長ノ執ラレタル所ノ
アノ處置ト云フモノハ、吾々ハドウシテモ
解スルコトガ出來ナイ、若シ斯ノ如キ動議
ガ先例ト相成ルヤウナコトデアリマスナラ
バ、遂ニ我が憲法政治ハ國民ノ爲ニ呪ハル
ルコトニナルデアアル、憲法政治ノ逆轉是
ヨリ甚シキハナイノデアアル、又我が議會政
治ヲ議員ノ一人ニ依テ、或ハ議員ノ集團ニ
依テ逆轉ヲ致スト云フコトハ、吾々ハ到底
忍ブコトガ出來ナイノデアリマス、ソコデ
此點ニ對シテ、清瀨副議長ハ執リタル處置
ニ付テ十分ナル辯明ヲセラレテ、斯ノ如キ
動議ガ後日先例ニナリマスルト云フコトヲ
望マザルト同時ニ、此先例ト云フモノハ、
ドウ云フ所カラ出發致シタモノデアルト云
フコトヲ、十分ニ後ノ人達ニ明ニシテ置ク
必要上私ガ敢テ此質問ヲ致ス次第デアリマ
ス

○副議長(清瀨一郎君) 此際議長ヨリ辯明
申上ダマス、原君ノ只今ノ御發言中、初メ
ノ二點ハ、私ガ原憲兵衛君ノ動議ニ付キ討
論ヲ許サヤ否ヤニ付テ採決シタコトニ關シ
テ居リマス、第三點ハ、原憲兵衛君ノ動議
自體ノ性質ニ關係致シテ居リマス、先ヅ第
一、第二ノ點ニ付キ併セテ茲ニ辯明致シマ
ス、議長ハ原君ガ此動議ニ付キ討論ヲ用キ
ズシテ採決ヲ求メラレタ、其要求ニハ應ジ
ナイノデアリマス、斯ノ如キ要求モ一種ノ
動議デアリマシテ、原君ノ動議ノ自體ニ
反スルコト、思ヒマス、併ナガラ原憲兵衛
君ハ自己ノ出サレタ動議ノ趣旨辯明ノ中ニ
此種類ノ動議ソレ自身ハ、討論ヲ用キナイ
デ採決サルベキ性質ノモノデアルト云フコ
トヲ、明瞭ニ言テ居ラレタルデアリマス、
而シテ本院ノ規則中ニモ討論ヲ用キズシテ
採決スル動議ハアルノデアリマス、例ヘバ
衆議院規則百二十條ノ如キハ是デアリマ
ス、唯併ナガラ原君御提出ノ此動議ニ付イ
テ、此動議ノ如キモノニ付テ、討論ヲ許
スベキヤ否ニ付テハ先例モアリマセヌ、而
シテ是ハ重大ナ事デアリマスカラ、議長ニ
於テ決シ兼メマシタ、隨テ之ヲ院議ニ諮リ
其性質ヲ定メタルデアリマス、而シテ原夫
次郎君ソレ自身モ、此院議ニ付テハ投票ヲ
サレテ居ルノデアリマス、私ハ間誤シタ措置
ヲ爲シタルハ今以テ考ヘテ居リマセヌ、第
三ノ原憲兵衛君御提出ノ動議其モノハ、合
性ニ付テノ御質問デアリマス、議長ハ憲法、
議院法、衆議院規則ニ定メタルモノハ、外
ハ、本院ノ先例ヲ尊重スルコトヲ以テ信條
ト致シテ居リマス、尤モ先例中ニ於テモ、
明ニ憲法ニ反シマスハ議院法ニ反シテ居ル
ノガアタナラバ、ソレハ斷然從ハナイ積リ
デアリマス、併ナガラ原憲兵衛君ノ此動議
ハ、大正三年二月十四日、昭和二年三月三
日ノ先例ニ從テ居リマス、是ハ原夫次郎君
今御引用ノ通りデアリマス、元來帝國憲法
第五十一條ニ依リマスレバ、憲法並議院法
ト抵觸セザル限りハ、内部整理ニ關シテハ、
本院ノ規則ヲ定メル自治權ヲ持テ居ルノ
デアリマス、前記ノ先例ハ此自治權ニ從ウ
タモノデアリマシテ、規則ノ上ニ於テハ別
段違法トハ考ヘマセヌ、又他ノ立憲國ノ例
ヲ調ベマシタガ、矢張是ト類似ノ事ハ何處
ノ國デモヤッテ居ルヤウデアリマス、尤モ
昨日工藤君ノ議事進行ノ御發議ノ際議長ヨ
リ申シマシタ通り、立憲政治ハ寛容ノ態度
ト自制ノ精神ニ依テノミ能ク運用サレルモ
ノデアリマス、デアリマスカラ此種重大ナ
ル動議ハ輕々ニ提出セラルベキモノデアリ
マセヌケレドモ、既ニ提出サレタ以上ハ、

議長ハ之ヲ採決セナシ譯ニハ行キマセヌ、之ヲ以テ辯明ト致シマス

○原夫次郎君 誠ニ御答辯ハ有難ウゴザイマスガ、私ハ此機會ニ議長ノ只今ノ宣言ニ對シテ、更ニ極ク簡單ニ一言議事進行トシテ發言ヲ許シテ戴キタイノデアリマス

○副議長(清瀬一郎君) 許シマス

(原夫次郎君登壇)

○原夫次郎君 只今議長ノ御言明ニ相成リマシタル第一點デアリマス、議長ハ先ヅ原惣兵衛君ノ發言封ジノ動議ニ對シテ、討論ヲ許スベキヤ否ヤト云フコトヲ院議ニ諮ラレタノデアリマス、其院議ニ諮ラレタル場合ニ於テ、私モ反對ノ投票ヲ致シマシタコトハ事實デアリノデアリマス、當議場ニ居ッテ此院議ニ諮ラレタ場合ニ、反對デアリ以上ハ反對ノ投票ヲナスト云フコトハ、是ハ議員ノ議權ニ屬スル、私ガ先程議長ニ御尋致シタ所ノ事柄ハ、サウ云フ事デハナイ、原君ノ其動議ヲ討論ヲ用キルカ用キナイカト云フコトヲ議場ニ諮ル其事ガ、議長トシテ間違ニテ處置デハナイカト、之ヲ御尋致シテ居ル、何トナレバ斯ノ如キ事柄ハ斷ジテ議場ニ諮ルベキモノデハナイ(ソレハ意見ノ相違デヤナイカ)ト呼フ者アリ其意見ノ由テ來ル所ヲ私ハ議長ニ御尋致シテ居ルノデアリ、一體議院法、議事規則等ニ依リマスルト議員カラ提出セラレタル動議ニ對シテハ、原則トシテ之ニ討論ヲ許スト云フコトガ當然ノ事デナケレバナラヌ、唯此場合ニ於テ提案者タル原惣兵衛君ガ、特ニ此動議ノ性質ニ鑑ミテ、此動議ニ對シテハ討論ヲ許シテ呉レルナト云フ附加シタル發言ガアツタガ爲ニ、議長ハ之ヲ院議ニ諮ウタ譯デアリノデアリマスガ、若シ原君ノ此ノ附加シタル動議ヲ無視スルト云フコトデアリマスナラバ、議長ハ何デ之ヲ院議ニ諮ラ必要ガアリマセウ、原則ニ戻テ、ドウシテモ此動議自體ヲ討論ニ付シテ、サウシテ其討

論ノ結果、更ニ討論ガ宜シキカ、討論ヲ否トスルカ、之ヲ議場ニ諮レバ宜シキ順序ニ相成ルノデアリ、然ルニ議長ガ突如トシテ先ヅ討論スルガ宜シイカ、討論ヲシナイノガ宜シイカト云フコトヲ院議ニ諮ラナドト云フコトハ、議長ト致シテ是ハ處置宜シキヲ得ザルモノト私ハ考ヘテ居ル、之ヲ議長ニ御尋致シタノデアリ、又實際ノ上カラ言ウテモ、斯ノ如キ亂暴ナル動議ヲ出シテ居ルノハ、即チ政友會多數ノ人デアリ、之ニ對シテ更ニ院議ニ諮ルト言ヘバ、ソレハ矢張多數ニ諮フコトニナツテ、其動議自體ガ提議ノ如ク決スルヤウナ處置ヲ議長ガ執シタルト云フコトガ、私ハ何トシテモ不可解デアルト謂ハナケレバナラヌノデアリマス(拍手)又第二ノ副議長ノ御闡明ト云フモノモ、私ハ遺憾ナガラ一向其意味ガ分ラナイ、先例ニ依テヤラレルヨリ仕方ガナイト言フノデアリガ、先例デモ惡イ先例デアレバ、是ハモウ斷乎トシテ斥ケナケレバナラヌ、ドウシテモ憲政有終ノ美ヲ達ゲヤウトスルナラバ、我ガ議院政治モ大ニ進歩發達ヲセシメナケレバナラヌ、議長ハ正シク其責任ニ在ル者デアリ、デアリマスカラ斯ノ如キ亂暴ナル動議ハ、根本ニ於テ能ク議長ノ手許ニ於テ之ヲ精査シテ、然ル後之ヲ斥ケナケレバナラヌ答ノモノデアルト思フノデアリ、此點ニ對シテ更ニ御面倒ナガラ、事ノ重大性ニ鑑ミテ、副議長ノ御闡明ヲ更ニ希望スル次第デアリマス

○副議長(清瀬一郎君)、原君ハ重ネテ御發言ノヤウデアリマスガ、先刻議長ノ申上ダタコトニ依テ總テ包含サレテ居ルト思ヒマス、尙ホ速記等ニ依テ御精讀アラコトヲ希望致シマス——日程第一及第二ハ同一委員ニ付託シタル議案デアリマスカラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ

マス、日程第一、肥料管理法案、日程第二、肥料管理特別會計法案ヲ一括シテ、其第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長松浦五兵衛君

第一 肥料管理法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 肥料管理法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和四年三月八日

委員長 松浦五兵衛

衆議院議長元田肇殿

附帶決議

第二 肥料管理特別會計法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 肥料管理特別會計法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和四年三月八日

委員長 松浦五兵衛

衆議院議長元田肇殿

(松浦五兵衛君登壇)

○松浦五兵衛君 只今議題ニナツテ居リマス肥料管理法及其特別會計法、此二案ニ付テ委員會ノ經過結果ヲ御報告申上デマス、委員會ハ去ル四日ヨリ八日迄開キマシテ、其間頗ル綿密ニ詳細ニ質問應答ガアリマシ

タガ、非常ニ是ハ長クナリマスカラ、細カイ點ハ總テ速記ニ譲リマスカラ御覽ヲ願ヒマス、其中極メテ主要ナル問題ト思ハレル所ノ三、四ノ點ニ付テ一應御紹介ヲ申上デマス、此委員會中民政黨ノ各位ハ全員殆ド皆御質問ニナリマシタ、政友會ヨリモ加藤君、永田君等ガ御質問ニナリマシタシ、第一俱樂部ノ諸君モ御質問ニナツテ居リマスカラ、餘リニ多人數ノ質問デアリカラ、質問應答者ノ御名前ハ申上デマセヌガ、主要ナル點ト思ハレマス先ヅ第一ハ、此肥料管理法ヲ何故之ヲ法律規定スルカ、法律ニ依ラナクテモ出來ルデハナイカト云フヤウナ意味ノ御質問ガアリマシタ、ソレニ對シテ政府ハ、是ハ既ニ相當長キニ厘ル所ノ計畫の事業デアリカラ、先ヅ其基礎ヲ確立シテ置クコトガ必要デアリ、第二ハ此規定ニ依テ其運用ノ範圍ヲ明確ナラシムルコトガ必要デアリカラシテ、之ヲ法律規定スルト云フ答辯デアリマシタ、尙ホ其管理法ノ第一條ノ中ニ、今後管理スベキ含窒素化學肥料ニ付テ、之ヲ勅令ニ委ネタト云フコトハ、今後與ルベキ此新肥料ノ營業者ニ對シテ、一種ノ脅威或ハ營業ノ自由ヲ妨害スルモノデハナイカト云フ御質問モアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ此含窒素ノ新肥料ハ今日以後ニ於テ、大ニ發達スルヤウニハ想像サレルケレドモ、併シ現在ニ於テハ極メテ管理デアツテ、法律規定スル迄ノ程度ニ達シテ居ラヌカラ、現在ハ之ヲ管理シナイノデアリ、將來必要ナル場合ニハ之ヲ管理スルカモ知レヌカラ、其際ニ容易ナル爲ニ勅令ニ委ネタノデアリカラ、差支ナイト信ズル、斯ウ云フ答辯デアリマシタ、ソレカラ次ニ管理スベキ肥料ヲ、主トシテ確

酸「アンモニア」ニ限タノハドウ云フ譯デアルカ、是ハ近來此硫酸肥料ト云フモノガ、非常ニ農家一般ニ普遍的ニ行ハレルヤウニナリ、且ツ今後ニ於テ此肥料ガ、肥料界ニ於テ主要ナルモノトナルベキ傾向ガアルノミナラズ、今後尙ホ大ニ年々増加スベキ傾向ガアルカラ、政府ハ先以テ之ヲ主トシテ管理スルコトガ適當デアルト信ジテ、斯クシタノデアルト云フ説明デアリマシタ、ソレカラ次ニ、此肥料管理法ノ目的ハ大體肥料價格ノ安定ト、及ビ配給ノ圓滑ニ在ル、然ルニ此法律ニ依テ、果シテ肥料價格ノ安定ガ出來ルカ、又殊ニ安定ト云フ意味ノ下ニハ、價格ヲ下ダレル意味ヲ含シテ居ルト思フガ、ドウデアアルカ、斯ウ云フ質問ニ對シテ、政府ハ矢張ソレハ質問ノ通り、無論價格ヲ成ベク下ダレルコトモ一ツデアアル、同時ニ安定ト云フコトガ主デアアル、而シテ其價格ヲ下ダレルニ付テハ、現在ノ市價ニ依テ、ソレニ政府ノ見込費用三圓八十錢ヲ加ヘテ賣却スル積リデアアルカラ、現在ノ如ク或ハ問屋或ハ仲買、小賣等、種々ナル手ヲ經テ手數料ヲ中間ニ澤山加ヘラレル所ノ現在價格ニ比スレバ、確ニ安クナルコトハ明デアアル、故ニ安ク供給ノ出來ルコトハ當然デアアル、又同時ニ政府ガ一定ノ數量ヲ自ラ管理シテ、直接ニ需要者ニ賣却スルノデアアルカラ、其間價格ノ安定ハ確ニ出來ル、萬一價格ノ暴騰等ヲ來ス場合ニハ、特ニ政府ハ——普通ノ時ニ賣ルノヲ常時賣ト稱シ、暴騰ノ場合ニ賣ルノハ臨時賣ト稱シテ、特ニ政府ガ或ル程度ニ保管シテ居ル所ノ肥料ヲ臨時ニ賣出ス、其肥料ハ單リ需要者ノミナラズ、商人ニモ之ヲ一様ニ賣出シテ價格ノ暴騰ヲ防ギ、矢張安定策ノ一ニ供スルノデアアル、斯

ウ云フ説明デアリマシタ、次ニ政府ガ肥料ノ管理ヲスル場合ニハ、現在ノ硫酸肥料ノ生産者又ハ商人ノ職業ヲ奪フトカ、其事業ヲ壓迫スルコトニナラヌカト云フ質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ矢張、先ヅ第一ニ政府ガ管理スル硫酸肥料ハ、是ハ内地生産品ヲ主トシテ買上ゲ、不足ノ分ヲ外國輸入品ニ俟ツノデアアルカラシテ、決シテ生産業者ノ壓迫ニハナラヌ、同時ニ商人ニ對シテモ、政府ハ政府ガ取扱フベキ數量ト云フモノハ、今後年々増加スルコトヲ見込テ立テ居ル、一年五萬噸宛増加ノ豫想ヲシテ居リマスカラ、其増加ノ範圍ノ半分ニ於テ、政府ガ之ヲ管理シ、賣却シヤウトシテ居ルノデアアテ、而モ是ハ其以前ニ其價格ヲ公表シテ賣出スノデアアルカラシテ、隨テ商人側ニ於テモ今日迄取扱フ肥料ハ、之ヲ扱フ餘地ガアルノミナラズ、政府ガ現ニ賣出ス價格モ、事前ニ明ニナッテ居ル譯デアアルカラシテ、商人側ニモ決シテ打撃ヲ與フルトカ、營業ヲ奪フト云フ如キコトハ、絕對ニナイト云フ御説明デアリマシタ、然ラバ政府ノ手デヤラレル場合ニ、此法律ノ目的ハ、肥料ノ配給ヲ圓滑ニスルコト云フノデアアルガ、果シテ政府ノ手一ツデ是ガ十分ニ圓滑ニ各地方ヘ配給ガ出來ルカト云フノデアリマシタガ、之ニ付テ政府ハ、先ヅ主要ナル地方四、五箇所ニ出張所ヲ置イテ、其處ニハ民間倉庫ヲ借入レテ、肥料ノ保管場ニモシテ置クシ、殊ニ此肥料ハ先約ヲ取ツテ、サウシテ各需要者ヘ渡スノデアアルカラシテ、或ハ製造地、或ハ輸入地等、其便宜ナ土地ヨリシテ直ニ直接ニ需要者ノ方面ヘ送出スノデアアルカラ、存外容易ク配給ガ行ハレテ、決シテ配給ニ差支ヘルコトハナイ積リデア

ル、殊ニ此肥料ノ需要時期ノ輻輳セル場合ニハ、又自ラ鐵道省等ヘモ交渉シテ、鐵道ノ運搬ニ於テモ更ニ一層ノ便宜ヲ圖テ貴方積リデアリマスカラ、其點モ心配ニ及バナイト云フ説明デアリマシタ、ソレカラ肥料ヲ取扱ハシムルニ、主トシテ各町村地方ノ産業組合ニ取扱ハセルト云フコトデアアルガ、現在ノ産業組合ハ、洵ニ優秀ナルモノモアラウケレドモ、又頗ル振ハナイモノモアル、此産業組合ガ果シテ其地方々々ノ需要ニ對シテ、活動シ得ルダケノ資力ガアルカドウカ、是ハ疑問デハナイカト云フ質問モアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、勿論主トシテ産業組合ニ配給ヲ爲サシメルガ、若シ産業組合ノナイ場合ニハ、農會其他ノ機關ヲ利用スル、而シテ産業組合ハ現在ニ於テモ三價餘額ノ遊資ヲ有シテ居ルシ、殊ニ今日マデ毎年肥料ノ買入ノミニ使用シテ居ル所ノ産業組合ノ資本モ、五千餘萬圓ニ上ッテ居ル、今政府ガ行ハントスルノハ、僅ニ二千萬圓デアアル、隨テ産業組合ガ此位ノ肥料ノ取扱ニ困ルヤウナコトハ先ヅナイノミナラズ、政府ハ更ニ進シテ庶民ノ産業組合ノ設置及ビ之ヲ助長スルコトニ付テハ、一層ノ努力ヲスル積リデアアルカラシテ、産業組合ニ取扱ハシメテ、決シテ不便ハ感ジナイト云フコトヲ答ヘラレテ居ルノデアリマシタ、ソレカラ尙ホ最後ニ政府ガ斯ク肥料ヲ管理スル所ノ裏面ニハ、或ハ肥料ヲ專賣ニスルトカ、若クハ肥料ノ官營ヲスルトカ云フヤウナ腹案ガアルノデハナイカ、斯ウ云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ、肥料ノ官營若クハ肥料ノ專賣ト云フ如キコトハ、隨分世ノ中ニ色々ナ可否ノ論モアルシ、政府モ之ニ付テハ種々調査シテ居ッテ、

現ニ幾多ノ考ハ持ッテ居リマスカレドモ、併シ現在ニ於テハ尙ホ之ヲ專賣ニスルトカ、官營ニスルトカ云フ意見ハ、定メテ居ラヌト云フ説明デアリマシタ、大要斯ノ如クデアリマシテ、此肥料管理法及ビ肥料管理特別會計法案ハ討論ニ移リマシテ、各別々ニ討論ニ移リマシタガ、之ニ對シテ民政黨ヲ代表シテ安倍君ヨリハ反對ノ御意見ガ出マシタ、ソレカラ政友會ヲ代表シテ加藤君ヨリハ賛成ノ御意見ガ出マシタ、採決ノ結果兩案共十四對十二、即チ多數ヲ以テ原案通り決定シタノデアリマス（拍手）而シテ其決定前ニ政友會ノ加藤知正君ヨリ附帶決議ガ出タノデアリマス、此附帶決議ト云フノハ斯ウ云フ文句デアリマス、「竊ニ東洋窒素肥料株式會社ノ所有ニ歸シタル「ハーバー」式特許權ニ付同社ハ今尙生産ノ企畫ヲ爲サス徒ニ特許料ヲ徴シテ巨額ノ利ヲ征シ肥料價格騰貴ノ弊ヲ爲スニ過キス仍テ政府ハ速ニ相當ノ手段ヲ講シテ此ノ弊ヲ改ムヘジ」斯ウ云フノデアリマス、是ハ諸君モ御承知デアリマセウ、日獨戰爭ノ結果トシテ、大正十年四月ニ政府ヨリ此「ハーバー」式肥料特許權ト云フモノヲ東洋窒素肥料會社ヘ拂下ダタノデアリマス、是ハ四箇年ノ年期デ、無論此式ニ依テ我國ニ於テ肥料ヲ生産スベキ條件ノ下ニ許シタノデアリマス、所ガ其後生産計畫ハ進行シナイ中ニ尙又期限ガ來マシテ、大正十四年四月更ニ改メテ十箇年ノ期限ヲ附シテ此權利ヲ與ヘタノデアリマスルガ、而モソレガ今日マデ尙ホ内地ニ於テハ生産ノ方法ヲ立テズ、矢張此式ニ依ル所ノ生産物ヲ外國カラ輸入シテ、而モ此權利ヲ有シテ居ル上云フガ爲ニ、唯輸入シタ其輸入商カラ權利代ヲ一年ニ相當巨額此會社

ガ取テ居ルサウデアリマス、是ハ此會社ガ自ラ内地ニ於テ生産スベキモノデアリニ拘ラズ、其生産ヲ爲サズシテ、唯自分ハ政府ヨリ極メテ安價ニ譲リ受ケタル特許權ヲ利用シテ、其特許料ヲ莫大ニ收得シテ居ルト云フコトハ、如何ニモ穩當デナイト云フ質問應答ガアリマシタ、ソレニ附隨シテ現ハレタ所ノ附帶決議デアリマス、而シテ此附帶決議ハ滿場一致ヲ以テ可決サレタノデアリマス、以上御報告申上ゲマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス、小山谷藏君

〔小山谷藏君登壇〕

○小山谷藏君 諸君、只今上程サレテ居リマス肥料管理案ノ審議ニ付キマシテ、私ハ極メテ重要ナル唯、一點ニ付テ農林大臣並大藏大臣ニ御尋フシテ置キタイノデアリマス、此程來委員會ニ於テ審議ヲ重ネマシタ其經過並ニ結果ニ付キマシテハ、只今委員長カラ御報告ノ通りデアリマス、私モ委員ノ一人ト致シマシテ其審議ニ參與致シタノデアリマスケレドモ、不幸ニ致シマシテ審議ヲ急ガレタ爲ニ、私ガ極メテ重大ナリト信ジタ一點スラモ、質問ヲ致ス機會ヲ持タナカタノヲ甚ダ遺憾ニ考ヘタノデアリマス、此機會ニ御尋フ致シタイト思ヒマスルノハ、政府ガ此肥料管理ヲナサレル結果トシテ、或ハ此法案ニ依テ管理サレル所ノ硫酸「アムモニア」肥料ト云フモノハ、年々其價格ガ低下シツ、アル現狀デアアルノニモ拘リマセズ、政府ガ管理スル結果トシテ、其市價ノ低下スル傾向ヲ或ハ阻止スルノデハナイカト云フコトヲ憂フルノデアリマス、政府ノ御説明ニ依リマシテモ、市價ヲ安クスルト云フコトニハ勿論努メルケレドモ、主

要ナル目的ハ公平ナル分配即チ有名ナル田中總理大臣ノ公平ナル分配ト云フ所ニ主眼ヲ置カレテアルノデアリマス、私ガ何故ニ此市價ヲ低下スル傾向ニ在ルモノヲ、政府管理ノ結果或ハ之ヲ阻止スルノデハナイカト云フコトヲ憂ヘルカト云フコトニ付キマシテハ、少シク説明ヲサセテ戴キタイノデアリマス、御承知ノ通り現在ニ於テハ主トシテ外國ヨリ輸入ヲ仰ギ、又我國ニ於キマシテモ、現今ハ相當ノ生産品ヲ出シテ居ルノデアリマス、而シテ我國ノ生産ハ爰數年ヲ出デズシテ、殆ド自給自足ノ狀態ニ至ルト云フコトモ、是亦明瞭ニナッテ居ルノデアリマス、所ガ現在我國ノ生産ニ係ルモノハ現在ノ相場即チ政府ノ管理案ニ現レタル所ノ市價標準ヲ見マシテモ、噸當リ百三十圓ト云フモノヲ押ヘテ居ルヤウデアリマスルガ、現在我國ノ生産原價ト申スモノハ凡ソドノ邊ニアルカト云フコトハ、詳細ニ知ルコトハ出來マセマケレドモ、輸入品ガ百三十圓見當デ賣買サレルト云フコトニ對照致シマシテ、我國ノ生産品モ亦是ト大同小異ノ相場ヲ以テ取引サレテ居ル、而シテ外國ニ於ケル此種ノ新シキ工業品ハ、私ガ申上ゲルマデモナク日進月歩ノ狀態ヲ以テ研究セラレ、生産費ハ低下セラレ、近キ將來ニ百三十圓ト云フモノガ百二十圓ニナリ、百圓ニナリ、或ハ百圓以下ニナルト云フコトハ決シテ想像スルニ難クナイノデアリマス、然ルニ我國ノ現在ノ生産狀態ハ、外國ノ特許ヲ輸入シテ、而シテ現在ノ生産費ヲ基礎トシタ生産機關ガ發達シテ居ラヌノデアリマスカラ、私ハ遺憾ナガラ外國ノ製造會社ト競争シテ、此新シキ工業品ヲ我國ノ製造會社ハ外國ノヤウニ生産原價ヲ低下スルダケノ研

究モシナケレバ、設備モナイト云フコトヲ憂ヘルノデアリマス、而シテ斯ウ云フ點ニ觸レマシテ委員諸君ノ御質問ニ對シ、政府ハドウ云フ答辯セラレタカト申シマスレバ、若シ外國ノ品物ガ——安イ物ガドントト這入ッテ來ル、或ハ我國ノ産業ト競争セシガ爲ニ外國品ガ「ダンピング」等ノ競争ヲスルヤウナコトガアリマシタ場合ニ於テハ、政府ハ關稅政策ヲ以テ之ニ對抗シテ、我國ノ産業ヲ保護スル積リデアルト、斯様ニ御答辯ニナッテアリマス、從來我國ノ産業政策ト致シマシテ、斯ル場合ニ關稅政策ヲ以テ保護シテヤルト云フコトハ、從來ノ傾向ニ鑑ミマシテモ、其通りサセル御方針デアルト云フコトハ、察スルニ難クナイノデアリマス、果シテサウナリトスレバ、私ハ先程憂ヘマシタ如ク、將來此新工業ノ生産原價ヲ大ニ低下サレ、而シテ肥料ノ價格ヲ大ニ低下サレナケレバナラヌ答ノモノガ、政府ノ肥料管理ノ爲ニ此低下スベキ即チ農民ニ與フベキ利益ハ此法案ノ爲ニ近キ將來ニ大ニ阻止サレルノデハナイカト云フコトヲ憂ヘザルヲ得ナイノデアリマス、諸君、此關稅政策ト云フコトニ付キマシテハ私ハ特ニ大藏當局ニ御尋シタイ、成程重要ナル産業ガ外國ノ競争ノ爲ニ脅威ヲ受ケルト云フヤウナ場合ニ於テハ、保護政策ヲ以テ之ヲ保護スルト云フコトモ、或ル場合ニ於テハ必要デアルト信ズル一人デアリマスカ、元來此硫酸工業ノ如キ新シキ事業ニ、事業會社ソレ自身ガ常ニ日進月歩ノ工程ニアルト云フコトヲ覺悟シテ、平生生産原價ノ低下ト云フヤウナコト、而シテ安イ外國品トノ競争ニ耐ヘルト云フコトニ付テ、其事業會社ソレ自身ガ相當ノ準備ヲシ、用意

ヲ致サナケレバナラヌコトハ申スマデモアリマセヌ、外國ニ於ケル斯ウ云フ新シキ工業會社ノ狀況ヲ見マスルト、例ヘバ自動車工業ニ致シマシテモ、或ハ「ラヂオ」ノ工業ノ如キ、或ハ化學工業ノ如キ、彼等ハ日常非常ナ熱心ト多大ノ經費ヲ投ジテ、新シキ研究、新シキ發明ニ向テ努力ヲシテ居ルノデアリマス、而シテ其利益金ノ大部分ハ之ヲ社内ニ保留シテ、其研究費ニ投ズルコトハ勿論ノコト、他ノ工業會社若クハ外國カラノ競争ニ對シテ、平生保留シタル所ノ準備金ヲ以テ之ニ對抗シテ、自ラ戰フト云フ準備ガナカタナラバ、其會社ハ成功シタモノトハ申サレナイノデアリマス、然ルニ我國ノ工業會社ハ、或ハ單ニ硫酸工業ノミトハ申シマセヌ、總テ全體ニ於キマシテ、斯ウ云フ日々新タナル、而シテ三年カ五年經テバ其仕事ノ根柢ヲ覆サレルヤウナ進歩ノ狀態ニアル工業ニ致シマシテモ、只今御話致シマシタガ如ク、自ラ研究調査ヲ進メルト云フヤウナコトニハ餘リ努力ガ乏シイノミナラズ、十分ナル保留ヲシテ他ノ競争ニ備ヘルヤウナ準備ガ殆ドナイヤウニ見受ケラレルノデアリマス、是ガ私ノ産業政策上殊ニ關稅政策ニ關聯致シマシテ、我國ノ産業ニ對シテ一大缺陷デハナイカト云フコトヲ常ニ憂ヘル所デアリマス、故ニ此關稅政策ニ關シテ特ニ大藏當局ニ御尋申上ゲタイノハ、斯ル場合ニ當テ政府ハ事業會社ソレ自身ヲ十分ニ御監督ニナリマシテ、只今申上ゲタガ如ク此新シキ日進月歩ノ工業ハ、會社ソレ自身ガ外國ノ競争ニ耐ヘルダケノ準備ヲ平生シテ置カナケレバナラヌ答デアル、其程度ノ監督ハ十分ニ致サナケレバナラヌ答デアル、若シ彼等自ラ其準備ヲ平生

缺キマシテ、政府ノ保護ニ依テ、即チ關稅ノ保護ニ依テノミ枝等ノ生命ヲ繋ガント欲スルヤウナ、不心得ナモノヲ默過シテ置キマシタナラバ、獨リ苦ムモノハ農民デアリマス、即チ關稅保護ニ依テ高イ生産原價ハ大ニ低下サレテ居ルノニモ拘ラズ、關稅保護アルガ爲ニ高イ肥料ヲ續テ買ハナケレバナラヌト云フ結果ニ陷テ、折角農林大臣御苦心ノ管理法案モ、此市價ノ低下ニ依テ安イ肥料ヲ供給スルト云フコトハ、何ゾ知ラン農民ニ高イ肥料ヲ供給セシメル結果トナルノデアリマス、此所謂關稅政策ニ對スル政府ノ御決心ハ只今御話申上ダル如ク、會社ノ自生ノ平生ノ事業監督マデ立入ッテ十分ナル用意ヲセシメテ置イテ、而シテ尙且ツ外國ノ競争ニ耐ヘラレザル時ニ於テノミ行フト云フ御考アリヤ否ヤ、此一點ダケ此機會ニ政府ニ御導致シマシテ、私ノ質問ハ終ルノデアリマス(拍手)

〔國務大臣山本悌二郎君登壇〕

○國務大臣(山本悌二郎君) 只今小山君カラノ御尋ハ、我國ノ硫酸「アムモニア」工業ハマダ幼稚デアッテ、外國ノ製造ハ日進月歩ノ勢ヲ以テ生産費ヲ低下シテ來ル勢ガアルニ拘ラズ、我國ノ工業ハ之ニ伴フコトガ出來ナイ狀態ニアル、隨テ將來ニ於テハ關稅ヲ以テ之ヲ保護シナケレバナラナイト云フコトニ立至ルノデハナイカ、其曉ニ於テハ之ヲ消費ヘル所ノ多數ノ農民ガ、高イ肥料ヲ買ハナケレバナラヌト云フコトニナルノデアアルガ、其曉ニ於テハ即チ此管理案ト云フモノガ肥料ヲ安ク配付スルノデナクシテ、却テ高ク配付スルト云フ結果ニ相成ルノデハナイカ、是ガ御質問ノ要點デアッタヤウデアリマス、小山君ハ我國ノ肥料工業

ヲ非常ニ悲觀サレテ居ルヤウデアリマスルガ、私ハ左様ニ今日ノ我國ノ窒素肥料工業ガ幼稚ナモノトハ考ヘテ居リマセヌ、隨テ外國品ガ漸次其生産費ヲ低下スレバ我國ノ工業モ亦之ニ追隨シテ改善ヲ加ヘ、其生産費ヲ低下スルコトガ出來得ルモノト見テ居リマス、併ナガラソレハ何レニ致シテモ、此管理法アルガ爲ニ肥料ガ高クナルト云フコトハ、私ハドウ云フヤウナ連絡デ左様ニ御考ニナルカト云フコトヲ了解致スニ苦ムノデアリマス(拍手)我國ノ工業ガ若シ外國ノ工業ニ追隨スル能ハズシテ、關稅ヲ以テ之ヲ保護シナケレバナラナイト云フヤウナコトガ到來スル、ソレハ管理法ガアッテモナクテモ、其必要ガ起タ場合ニハ、國家ノ政策トシテ之ヲ行ハナケレバナラヌカモ知レナイノデアリマス(拍手)假ニ此管理法ガナイトシテ見テ、外國品ガ澤山ニ、非常ニ安ク供給サレテ内地ニ入ッテ來ル、一種ノ「ダンピング」、一種ノ不當廉賣ヲ我國ニ向テ施ス場合ヲ想像致シマシタナラバ、我國ノ自國ノ産業ヲ保護スル立場ノ上ニ於キマシテ、之ニ對スル所ノ方策ハ無論講ジナケレバナリマセヌ、即チ關稅ヲ以テ之ニ應戰スルト云フガ如キコトハ、確ニ其一ノ方法デアラウト思ヒマス、其場合ニ假ニ此管理法ガナクテモ、ソレハ左様ナ途ニ出ダナケレバナラヌノデアアル、アッテモ矢張同ジコトデアアル、此管理法ノ運用ハ御承知ノ通りニ外國カラ輸入スル物、並ニ内地デ製造サル物ノ其時價ヲ以テ之ヲ購入シテ、ソレニ相當ノ金額ヲ附加致シテ、之ヲ農家ニ配付致スノデアリマスカラシテ、此管理法ノ爲ニ特ニ肥料ガ高クナルト云フコトハ、ドウシテモ考ヘ得ラレナイノデアリマス(拍手)即

チ左様ナ「ダンピング」ノ如キ場合ニ於テ、國ガ關稅ヲ以テ之ニ應戰シナケレバナラナイト云フ場合ニハ、肥料ハ高クナリマスカレドモ、ソレハ管理法ガナクテモ此途ニ行カナケレバナラヌノデアリマスカラ、管理法ト關稅ノ保護ト云フモノハ、直接ニハ其關係ハ何モアリマセヌ、隨テ管理法ト云フ法制ガアルガ爲ニ、將來肥料ヲ高クスル虞ガアルト云フコトハ、私ハ考ヘテ居リマセヌ(拍手)

〔政府委員大口喜六君發壇〕

○政府委員(大口喜六君) 小山君ノ大藏當局ニ對シマスル御問ハ、最早只今農林大臣ノ御答デ盡キテ居ルカト考ヘマスガ、一應大藏當局ヨリモ御答致シタイト思ヒマス、硫酸「アムモニア」ニ對シマシテハ、只今ハ強イテ關稅ヲ掛ケテ保護致サナクテモ、我國ノ工業トシテ發達スベキモノナリト信ジテ居ルノデアリマス、併ナガラ將來外國ガ益ノ工業ノ上カラ進歩致シテ來ッテ、此上安イ硫酸「アムモニア」ヲ我國ニ入レルヤウニナツタナラバ、ドウナルカト云フ場合ニ當リマスレバ、我國ノ工業ノ實際ヲ十分ニ研究致シテ、ドウシテモ我國ノ工業トシテ茲ニ一段ノ保護ヲ加ヘナケレバナラヌ、保護ヲ加ヘルコトガ我國ノ國家産業ノ發展スル所デアルト信ズレバ、其時初メ關稅ノコトニ考ヘ及ブコトデアラウト思ヒマスガ、只今ハ其必要ナシト考ヘテ居ルノデアリマス、又委員會ニ於テ御問ノ場合ニ、或ハ政府ノ者ヨリ關稅ノコトヲ申述ベタカト存ジマスガ、ソレハ結局外國ガ不當廉賣ヲ我國ニシテ參タ場合ハドウスルカ、斯ウ云フ意味デアラウト思ヒマス、相當ノ價格ヲ以テ參ルバカリデナク、不當ノ廉賣ヲシテ參ル場合ニハ、是ハ普通ノ國稅トハ御承知ノ通り別デアリマシテ、同ジ關稅定率法ノ中ニ規定ガアリマスガ、所謂不當廉賣ニ對スル方策ニナリマスカラ、是ガ不當廉賣審査委員會ニ掛ケテ、其決議ニ依テ決セラレ、バ初メテ關稅ガ掛ケ得ラレルノデアリマス、現在大藏當局デハ斯様ニ見テ居リマスカ、是デ御答ハ盡キテ居ルト思ヒマス

〔小山谷藏君登壇〕

○小山谷藏君 只今私ノ質問ニ對シテ大藏當局、並ニ農林大臣ヨリ御答辯ガアッタノデアリマスルガ、私ノ質問ニ對スル要點ニハ遺憾ナガラ觸レテ居ラヌヤウニ考ヘルノデアリマス、私ハ「ダンピング」ノ場合ニ對スル關稅保護ノコトヲ御尋シタノデアリマセヌ、斯ウ云フ新シイ工業ハ、工業者自身平生如何ニシテ生産原價ヲ低下スルカト云フコトニ、多大ノ注意ト努力ト經費ヲ自ラ投ジテ、外國ノ進歩發達ニ後レザランコトヲ努力シナケレバナラヌ筈デアアル、然ルニ日本ノ工業家ハ外國ノ事業家ニ比較スレバ、ソレニ對スル努力ガ足ラズ、勿論經費ヲ支出セズ、外國ノ工業家ハ少クトモ三年乃至五年ヲ以テ總テ原價ノ償却ヲスルト云フ位ノ用意ヲシテ居ルコトハ、政府當局ニ於テモ御承知ノ通りデアアル、然ルニ我國ノ資本家ハ徒ニ相當ノ大ナランコトヲノミ圖ッテ、何等ノ準備ヲシテ居ラヌ、外國ガ非常ニ進歩シテ安イ物ヲ送ッテ來タ時ニ、平生其準備ヲシテ居ラヌカラ、是ニ於テ政府ニ泣付イテ保護政策ヲ執ッテ呉レト云フ結果ニ陷ルノデアアル、サウ云フ場合ニ對シ政府ハ如何ナサル積リデアアルカ、平生斯ル事業家ノ所謂配當心理ニ對シテ、ドウ云フ御監督ヲナサルカ、ソレニ對スル政府ノ御決心ヲ御尋

シタノデアリマス、簡單ニ御答辯ヲ御願申
シマス

〔政府委員大口喜六君登壇〕

○政府委員(大口喜六君) 只今ノ小山君ノ
再質問ハ、或ハ商工省ヨリ御答スルガ當然
デアルト存ジマスガ、便宜私ノ所管ニ於テ
御答ヲ致シタイト思ヒマス、ソレハ小山君
ガ申述ベラレタ通りデアルト考ヘマス、我
國ノ工業ニ對シマシテハ、世界ノ大勢ヲ始
終見マシテ、世界ノ大勢ニ遅レザランヤウ
ニ、而シテ此事ハ政府當局ハ出來ル限リ注
意ヲ致シ、獎勵モ誘導モ致サナクテハナラ
ヌト考ヘルノデアリマスガ、出來ルダケノ
コトハ我國ニ對シマシテモ、尙且ツ外國ノ
方ガ進歩シテ對抗ガ出來ナイ場合ニ當テ、
我國ノ工業ハ之ヲ捨テ、宜イカ、捨テルコ
トハ出來ナイ、何處マデモ之ヲ維持シテ物
ニシナクテハナラナイト云フ場合ニ當リマ
シテハ、之ヲ能ク研究調査ヲ致シテ、是ダ
ケノ保護ヲ加ヘルナラバ、此工業ハ是マデ
ニ發達シ得ラレト見込ミマシタ場合ニ於
テ、已ムヲ得ズ相當ノ關稅ヲ掛ケルコトニ
ナルモノト考ヘマス、平生ニ於キマシテノ
心得ハ小山君御問ノ通りデナクテハナラヌ
ト考ヘマス、私共モ勿認其考ヲ持テ居ルモ
ノト御承知ヲ願ヒタイ

○副議長(清瀬一郎君) 是ニテ質疑ヲ終了
致シマシタ、是ヨリ討論ニ入リマス

〔松本忠雄君登壇〕

○松本忠雄君 私ハ只今上程中ノ現田中内
閣ノ重要ナル政策ノ一ト謂ハレマス肥料
管理法案ニ付テ、反對ノ意見ヲ述ベヤウト
スル者デアリマス、其私ノ意見ノ冒頭ニ於
キマシテ、先ヅ私共ノ農村ニ對スル信念ヲ
明ニ致シテ置キタイト思ヒマス、私共ハ今

日ノ農村ノ疲弊困憊ノ實狀ニ對シマシテ
ハ、最も眞面目ニ之ヲ憂慮致シマシテ、常
ニ是ガ振興ト救済ノ爲ニ適當ナル政策ヲ講
ジマシテ、之ニ依テ農村ノ前途ニ光明アラ
シメ、農村ノ前途ニ幸福ヲ齎サンコトヲ切
ニ希望シツ、アル者デアリマス、農村ノ現
狀ニ付テ憂ヲ致シマスルコトニ付テハ、吾
吾民政黨ハ斷ジテ政友會ノ諸君ニ讓ルモノ
ニアラザルコトヲ明ニスルト共ニ、政友會
ノ諸君モ亦敢テ我黨ニ劣ルモノニアラザル
コトヲ信ゼント欲スルモノデアリマス、隨
テ本肥料管理法案ニシテ眞ニ農村ノ利益ヲ
招來シ、農村ニ福音ヲ齎スモノデアリマス
ルナラバ、吾々ト雖モ決シテ單ナル黨派ノ
別ニ依テ、之ニ反對ヲスルコトヲ爲スモノ
ニアラズ、否爲スコトハ出來ナイ筈デアリ
マス、併ナガラ如何ニ農村ヲ想フノ情ガ切
デアリマシテモ、農村民ノ淳朴ニシテ御シ
易キヲ奇貨トシテ、徒ニ美名ヲ以テ之ヲ欺
キ、一時ノ歡心ヲ買フニ急ナルガ如キハ、
斷ジテ眞ニ農村ヲ想フ所以ニアラズト信ズ
ルノデアリマス(拍手)今此見地ニ立テ、此
肥料法案ヲ見マスルトキニ、其名ノ麗シキ
ニ拘ラズ、其口ニ言フ所ノ佳ナルニ拘ラ
ズ、實質ニ於テハ幾多ノ不備ト缺陷トアリ
マシテ、却テ農村ノ將來ニ惡結果ヲ來スベ
キコトガ明瞭ナルニ於テ、私共ハ本案ニ反
對セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)今其
理由ノ大要ヲ申上ゲタイト思フノデアリマ
スルガ、其前ニ本案ノ案ノ名稱其モノニ付
テ一言ヲ費シテ置キタイノデアリマス、我
ガ日本ノ最近三箇年間に於ケル販賣肥料ノ
消費額ノ平均額ハ、年額正ニ二億八千餘萬
圓ニ達シマス、其中硫酸「アムモニア」ノ消費
額ハ僅ニ五千餘萬圓ニ過ギナイノデアリマ

ス、即チ總額ニ較ブレバ五分ノ一ニ達シナ
イノデアリマス、然ルニ政府ハ我國ノ販賣
肥料總額ノ五分ノ一ニモ達セザル所ノ此硫
酸「アムモニア」而モ此硫酸「アムモニア」ノ
全部ニアラズシテ、將來ニ於テ増加スベキ
其數量、將來農民ノ需要スベキ全硫酸「ア
ムモニア」ノ半額、ソレヲ管理スルト云フ
所ノ案ヲ立テ、之ヲ以テ自ラ肥料管理法ト
稱スルガ如キハ、徒ニ肥料管理法ノ名ヲ借
稱スルモノナリト信ズルノデアリマス(拍
手)政府ノ此案ニ於ケル計畫ヲ拜見致シ
マスレバ、十箇年ノ計畫ニ於テ其管理スル
所ノ硫酸「アムモニア」ノ數量ハ、僅ニ百七
十八萬噸ニ過ギナイノデアリマス、十年間
ニ百七十八萬噸ノ硫酸「アムモニア」ノ賣買
ヲ爲ス案、是ガ肥料管理法ナリト言フナラ
バ、何ソ其名ノ大ニシテ其實ノ小ナルヤト
吾々ハ歎セザルヲ得ナイノデアリマス(拍
手)斯ノ如キ美名ヲ掲ゲテ内容ノ伴ハザル
案デアルガ故ニ、吾々ハ隨テ本案ニ反對セ
ザルヲ得ナイノデアリマスルガ、次ニ順次
吾々ガ本案ニ對スル反對ノ理由ヲ陳述致シ
マス、私共ガ本案ニ反對致シマスル第一ノ
理由ハ、本案ガ肥料調査委員會ノ答申ヲ無
視シタル點ニ存スルノデアリマス、政府ハ
本案ヲ議會ニ提出スルニ當ラレマシテ、屢
肥料調査會ノ委員ノ答申ニ基イタト申サレ
マス、併ナガラ事實ニ於テハ、却テ本案ハ
該調査委員會ノ答申ヲ蹂躪セルモノデアリ
マス、當テ憲政會内閣時代ニ成立ノ豫算ニ
依テ、現内閣ノ下ニ組織セラレマシタル肥
料調査委員會ガ、農林大臣ニ提出致シマシ
タ答申ナルモノヲ、私共ガ慮心ニ、堪懷ニ
之ヲ精讀致シマスルトキニ、其内容ガ硫酸
「アムモニア」等ノ無機質窒素肥料ノ我が國

内ニ於ケル生産ヲ助長スルコトヲ主ト致シ
マシテ、其生産助長ノ結果トシテ、茲ニ肥
料ノ管理ヲ提唱セラレタモノデアルト云フ
コトハ、極メテ明瞭デアリマスルニ拘ラ
ズ、政府ハ殊更ニ該答申ハ生産助長ト管理
トノ二箇ニ分離セラレタル内容ヲ有スルモ
ノナリトシ、其一トシテ此肥料管理法ヲ實行
セラレントスルノデアリマスルガ故ニ、調
査委員會ノ答申ニ所謂肥料ノ管理ガ生産助
長ノ結果トシテ生ズベキモノデアリマスル
ト云フコトハ、答申ヲ見レバ明瞭デアル、
ソレヲ蹂躪シテ、生産助長ヲ措イテ、
唯此管理ヲ急ガントスルコトガ吾々ノ反
對スル第一點デアリマス(拍手)此點ハ
吾々ガ此肥料調査會ノ答申案ヲ見レバ極メ
テ明瞭デアリマスルガ、該調査委員會ノ一
委員デアリ、而シテ學界ノ權威者デアリ、
又貴族院議員デアル所ノ一委員ガ、私共ニ
向テ語ラレタル所ニ依レバ、其委員ノ解釋
モ正ニ吾々ノ解釋ノ通りデアリマス、又ソ
レノミナラズ政友會諸君ノ中ノ本問題ノ權
威者ニシテ、又此調査委員會ノ一委員デア
タ所ノ齋藤藤四郎君モ、左様ニ解釋セラレ
テ居ルヤウデアリマス、昨年政友會ノ政務
調査會ニ於テ、齋藤藤四郎君ガ演說サレタ
其演說ヲ、政友會、黨報「政友」ト云フ雜誌
ニ依テ引證致シマス、齋藤君ハ斯様ニ申サ
レテ居リマス、此肥料管理法ノ骨子ハ前述
ノ通り無機質窒素肥料ノ大量生産ヲ圖リ、
而シテ一方ニ於テハ是等製品ヲ我が農家ニ
低廉且ツ潤澤ニ供給スルヲ以テ目的トスル
モノデアル、言フマデモナク國內生産ヲ増
加スルコトハ輸入ノ防遏トナリ、更ニ又進
ンデ輸出可能ト云フ結果ニナルノデアルカ
ラ、決シテ生産ヲ度外スルヤウナコトハナ

イノデアル、又度外シテハ此管理案モ眞ノ目的ハ達シ得ラレナイノデアルト、斯様ニ齋藤君ハ政友會ノ政府調査會ニ於テ述ベラレテ居リマス、吾々ハ之ヲ拜見致シマシテ、私共ノ此肥料調査委員會ノ答申ニ對スル解釋ノ、正ニ妥當ナルコトヲ信ズルノデアリマス、然ルニ現田中内閣ハ、此肥料調査委員會ノ答申案ノ中ノ主要ナル内容ヲ成シ、肥料政策ノ根本ヲ成スベキ所ノ生産助長ニ付テハ、何等ノ施設ヲ講ゼズシテ、獨リ其從屬ノ關係ニ在ル管理ノミ急ガントスルノデアリマスカラ、茲ニ大ナル不合理ヲ生ジ、茲ニ大ナル無理ガ生ズルノデアリマス、殊ニ此答申案ノ中ノ生産助長ニ付テハ、政府ノ一舉手一投足ニ依テ直ニ爲シ得ベキ事ノアリマサルニ拘ラズ、ソレ等ハ捨テ、顧ミズ、獨リ肥料調査委員會ノ答申ノ中ノ其從屬關係ニ在ル管理案ヲ、而モ政友會内閣ト實業同志會ト間ノ政策協定ニ背反サレテマデモ、速ニ之ヲ實行セラレントスル、其政府ノ眞意ガ那邊ニ存スルヤヲ知ルコトノ出來ナイノハ、是レ吾々ガ本案ニ反對セザルヲ得ザル第一ノ理由デアリマス(拍手)次ニ私共ガ本案ニ反對セザルベカラザル第二ハ、本案ノ内容ノ洵ニ杜撰ニシテ、其目的トスル所ノ曖昧ナル點デアリマス、本案第一條ニハ、本案ニ依テ管理スベキ肥料ノ名稱ヲ舉ゲテアリマスルガ、其肥料ノ名稱トシテハ硫酸「アムモニア」並ニ石灰窒素ノ外ハ、勅令ヲ以テ指定スベキ含窒素化學肥料ト總稱スルノミデアリマス、而シテ其勅令案ノ内容ニ付テハ、未ダ何等ノ研究モセラレテ居ラナイト云フノデアリマス、斯ノ如キ商人ノ營業自由ノ領域ヲ侵シマスル立法ヲ爲スニ際シマシテ、豫メ此勅令ニ依テ

指定セラるベキ商品ノ内容ノ大要位ハ吾々ニ御市ニナルガ當然デアアルニ拘ラズ、此點ニ付テ何等ノ研究モナクシテ、徒ニ商人ニ無用ノ沈黙ヲシテ、危惧ノ念ヲ深カラシムルト云フコトハ、斷ジテ政府ハ十分ナル研究ヲ遂ゲタル結果ナリト見ルコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)即チ本案ガ如何ニ杜撰デアアルカト云フコトヲ立證スル一點デアリマス、次ニ本案ノ第二條ハ實ニ肥料管理法案ノ目的トスル所ヲ示スモノデアリマスルニ拘ラズ、其重要ナル條項ハ極メテ意味曖昧デアリマス「政府ハ肥料ノ配給ノ圓滑又ハ價格ノ安定ヲ圖ル爲メ肥料ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得」ト認メテアリマス、肥料調査委員會ノ答申ヲ拜見致シマスルニ、其肥料調査委員會ノ答申ハ常ニ肥料ノ價格ヲ低廉ニシ、且ツ安定ナラシムル爲メ記サレマシテ、一方ニ於テハ肥料ノ價格ヲ低廉ニシ、是ト共ニ肥料ノ價格ヲ安定セシムルコトヲ目的トセラレテ居ルヤウデアリマス、然ルニ此肥料管理法案ニ於テハ、其低廉ノ文字ヲ削テ、僅ニ安定ノ二字ヲ掲ゲテ居ルニ過ギナイ所ニ、吾々ハ大ナル疑問ヲ持ツノデアリマス(拍手)政府ノ説明ニ依リマスレバ、價格ノ安定即チ價格ノ低廉ナリト言ハレマスルガ、若シ安定ト云フ二字ニ依テ、價格ノ低廉ト安定ト云フ二ツノ意味ヲ現ハシ得ルモノト致シマスナラバ、何故ニ肥料調査委員會ニ於テハ、特ニ低廉ト安定ノ二ツノ文字ヲ用キラレタルヤ、私共ハ解スルコトガ出來ナイノデアリマス(拍手)若シ安定ノ二字ニ依テ、低廉ト安定トノ二ツノ意味ヲ現ハシ得ルモノト致シマスナラバ、肥料調査委員會長山本悌二郎氏ハ、農林大臣タル山本悌二郎氏ニ向テ提出セラレタル其答

申中ニ於テ、何故ニ此安定ノ二字ヲ以テ此二ツノ意味ヲ現ハサシメズシテ、殊更ニ低廉ト安定トノ二字ヲ併セ用キラレタルヤト云フコトニ付テ、反問セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)政府當局ハ本案ヲ以テ全ク肥料ノ價格ヲ低廉ナラシムルコトヲ目的トスルモノナリト言ハレマスガ故ニ、然ラバ政府ハ進ンデ第二條ノ意味ヲ明確ナラシムルガ爲メ、第二條ノ價格ヲ低廉ニシ且安定ヲ圖ル爲メト云フ風ニ、之ヲ修正スルノ意思ハナイカト御尋スレバ、山本農林大臣ハ其意思ナシト申明セラレマシタ、政府ハ此點ニ付テ立法技術ノ問題ヲ云々致シマスケレドモ、立法技術ノ問題トシテモ、低廉ト安定トノ二ツノ文字ヲ用キテモ、吾々ハ決シテ立法技術ニハ支障ヲ來サナイヤニ考ヘラレマス(拍手)現ニ先般政府ガ提出セラレマシタ所ノ蠶絲業救済ニ關スル所ノ法律案ニハ、異常ナル低落ヲ爲シタル場合ニ於テ其價格ノ安定ヲ圖ル爲メ必要アルトキハト認メラレテ居リマス、故ニ政府ガ此法律案ニ依テ、一方ニハ價格ヲ低廉ニシ、而シテ之ヲ安定セシムル意味ガアラセラレナラバ、進ンデ其意味ヲ明瞭ニナサル、コトガ當然デアルト信ズルニモ拘ラズ、山本農林大臣ハ自ラ其修正ノ意思ナシト申明セラレマシタ、即チ私共ハ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、政府ハ此法案ヲ作テ、一方ハ肥料生産業者ニ向テ、オ前達ノ作ル所ノ肥料ノ値段ヲ高ク安定シテ、オ前達ニ利益ヲ與ヘテヤルモノナリト稱シ、一方地方ノ農民ニ向テハ、是レ肥料ノ價格ヲ低廉ニシテ、農村ノ利益ヲ圖ル法案ナリト稱スル、即チ一心兩體ノ使ヒ分ケヲナサルノ御用意ナルヤニアザラカト信ゼザルヲ得ナイノデアリマス

(拍手)政府ハ本案ノ第二條ニハ、價格ノ安定ヲ圖ル爲メ肥料ノ賣渡シヲ爲スト云フコトガアリマスガ故ニ、ソレガ價額ノ引下ヲ目的トスルコトハ明デアアルト申サレテ居リマス、併ナガラ假令賣渡ヲ致シマシテモ、若シ高イ値段賣渡サレナラバ、是レ即チ肥料ノ價額ノ引上トナリ、肥料生産者ノ利益擁護トナルコトハ明瞭デアリマス、故ニ吾々ハ唯賣渡トアルガ故ニ、是レ即チ肥料ノ價格ヲ低廉ナラシメルモノナリト信ズルコトハ出來ナイノデアリマス、此點ニ付テ政府ハ必ズヤ言ハレルノデアリマセウ、本法案ハ斷ジテ生産者ノ利益ヲ保護スルモノニアラズ、又私ノ後ニ立タルベキ所ノ本案賛成ノ討論者モ、必ズヤ此點ヲ高唱セラレザラザアリマセウ、併ナガラ政府ガ本案ヲ實行セラレントシテ、國內ノ肥料生産業者ガ一人トシテ本案ニ反對スル者ノナイト云フ事實ハ、多少其間ノ消息ヲ物語ルモノニアラズヤト考ヘラレルノデアリマス(拍手)且ツ砂田君ハ本議場ニ於テ、此法案ニ依テ肥料ノ價格ガ安クナルコトハ、全國ノ肥料商ガ之ニ反對シテ居ルコトニ依テ明瞭ナルニアラズヤト、斯様ニ申サレテ居リマス、若シ此砂田君ノ論法ヲ其儘用キ得ルモノナリト致シマシタナラバ、此肥料管理法案ヲ實行セントシテ、全國ノ肥料生産業者中一人ノ反對スル者ノナイト云フ事實ハ、即チ是レ本案ガ肥料生産業者ノ利益ヲ擁護セントスルモノナリトモ言ヒ得ルノデアリマス(拍手)即チ本案ノ最重要ナル目的ニ關シ、斯ノ如ク重大ナル疑義ガ存シ、果シテ農村ノ利益ノミヲ擁護セントセラレルモノデアルヤ否ヤノ疑ハシイコトガ、吾々ガ本案ニ反對スル所ノ第二ノ點デアリマス(拍

手)次ニ第三ニ私共ガ本案ニ反對致シマスルノハ、本案ノ效果ニ付テ重大ナル疑問ヲ持ツカラデアリマス、政府ハ本案ニ依テ肥料ノ配給ノ圓滑ト價格ノ低廉トヲ期スルト言ハレマスルガ、眞ニ政府ガ配給ノ圓滑ト價格ノ低廉トヲ望マル、ナラバ、他ニ政府ノ手ニ於テ直ニ爲シ得ベキコトガ存ズルノデアリマス、即チ政府ガ肥料需要期ニ於ケル所ノ鐵道貨車ノ補給ニ支障ナカラシムルガ如キ、若クハ又今日ノ不合理ニ高位ニアル肥料ノ鐵道運賃ノ引下ヲ行フ如キ、政府ノ手ニ依テ直ニ爲シ得ベク、而シテ其效果ノ明瞭ナルモノ、存シマスニ拘ラズ、是等ハ舉ゲテ一ツモ實行致シマセズ、本案ノ如キ其曖昧ナル效果ノモノヲ提出シ來ル所ニ、吾々ハ現田中内閣ノ肥料政策ニ對スル誠意ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)殊ニ本法ニ基ク所ノ肥料ノ賣渡ガ、從來ノ肥料取引ノ殆ド全部ノ慣習ヲ爲ス荷爲替取引ヲ許サズシテ、現金取引ニ之ヲ限リ、又内外ノ生産業者ハ全國各地ニ對スル其生産品ノ賣値ヲ殆ド均等ニシテ之ヲ示シ得ルニ拘ラズ、政府ノ管理品ガ唯、全國四五箇所ニ於ケル、其出張所所在地ノ到着値段ヲ示シ得ルニ過ギザルガ如キ狀態ニ於テ、本案ニ依テ肥料ノ配給ノ圓滑ヲ期スルガ如キハ、絶對ニ之ヲ望ムコト能ハズト信ズルノデアリマス(拍手)政府ガ自ラ一手ニ依テ爲シ得ベキ有效極メテ適切ナルコトハ爲サズシテ、此不完全ナル方法ニ依テ肥料ノ配給ノ圓滑ヲ期セントスルガ如キハ、是レ田中内閣ガ農村ノ爲ニ忠實ナル所以ニアラズト吾々ハ斷定セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)尙ホ本案ノ主要ナル目的ヲ爲シマス所ノ價格ノ點ニ付テ考ヘマスルニ、本案ノ實施ニ依

テ農民ハ果シテ從來ヨリ低價ナル所ノ肥料ノ供給ヲ受ケマスルヤ否ヤ、吾々ハ重大ナル疑問ヲ持テ居ルノデアリマス、政府ハ利ヲ征スルコトヲ目的トスル商人ガ此間ニ介在セサルダケ、ソレダケ肥料ノ安價ニ供給シ得ルト言ハレマス、併シ私共ハ大體論ト致シマシテ、即チ利ヲ征セズト致シマシテモ、形式ヲ重シ、嚴格ナル會計法ノ支配ヲ受ケ、且ツ兎角計算ヲ度外ニ置カントスル官吏ノ商法ガ、果シテ商人ノ營業以上ニ少額ノ經費ヲ以テ支辨シ得ベキニ付テ、大ナル疑問ヲ持ツ者デアリマス(拍手)今之ヲ實際ノ計算ニ照シテ見マシテモ、政府ガ吾々ニ配付シタル材料ニ依リマスレバ、政府管理ノ硫酸「アンモニア」一噸ニ付キ、俸給事務費一圓八十錢、事業費一圓三十錢ヲ要スルコトハ明瞭デアリマス、此外ニ政府ノ説明ニ依レバ、地方産業組合ノ手数料ハ大體噸當リ四五圓ヲ要スルコトデアリマス、故ニ政府管理ノ肥料ガ地方農民ノ手ニ歸スルマデハ、運賃ヲ差引イテモ尙且ツ噸當リ十圓内外ノ諸經費ハ加算セラルベキ計算ニナルノデアリマス、仕入値段ニ約十圓ヲ加算シタル硫酸「アンモニア」ノ價格ナルモノハ、果シテ低廉ナルモノナルヤ否ヤト云フコトヲ考ヘマスルニ、私共ニ示サレマシタル、政府ノ立論ノ爲ニ最モ便利ナル、過去數箇年間ニ於ケル、肥料價格ノ暴騰期タル五、六月頃ニ於ケル國內地方ノ相場ノ公定表ヲ、全部其儘ニ之ヲ是認致シマシテモ、此相場表全部ノ其相場ヲ取調ベタル所ノ土地ノ延數ハ正ニ六、百七十六箇所アリマス、其延數六、百七十六箇所ノ中、卸値段ヨリ十圓以上ノ高値ヲ持テ居ル地方ノ數ハ三百五十一、十圓以下ノ相場ヲ保ツモノガ三

百二十五箇所デアリマシテ、而モ主要ナル肥料取引地ノ如キハ悉ク十圓以下デアリマス、故ニ政府ガ此管理品ニ對シテ是等ノ諸掛リヲ加算シテ農民ニ販賣スルモノト致シマスレバ、少クトモ此從來ノ卸賣値段ヨリモ十圓以下ノ値額ヲ以テ肥料ヲ買取ルコトノ出來タ地方農民ニ對シテハ、却テ高價ノ肥料ヲ供給スル結果トナルノデアリマシテ、即チ私共ノ見ル所ヲ以テスレバ、本案ノ如キハ肥料ノ値段ヲ低廉ナラシムルモノニアラズシテ、却テ肥料ノ價格鈞上案ナリト稱スルコトガ出來ルノデアリマス(拍手)之ニ對シテ政府ハ常時販賣致シマスルモノニ對シテハ一噸三圓八十錢ヲ加算シ、臨時賣出スルモノニ對シテハ三圓八十錢ヲ加算シテ賣出スコトデアリマスルガ故ニ、十年間二百七十八萬噸ノ硫酸ヲ取扱ヒ、上ニ述ブレバ、二圓三十錢ノ事業費ヲ拂フテモ、尙且ツ九十餘萬圓ノ利益ヲ舉ゲ得ルコト云フ計算ヲ示サレテ居リマス、百七十八萬噸ノ硫酸ヲ取扱ヒ、九十餘萬圓ノ純益ヲ舉ゲ得ルコトスレバ、其純益ハ正ニ一噸當リ五十錢ニ達スルノデアリマス、即チ現田中内閣ハ此肥料管理法ヲ行フテ、之ニ依テ一噸當リ一圓八十錢ノ俸給事務費、二圓三十錢ノ事業費ヲ要シテモ、尙且ツ一噸當リ五十錢ト云フ純益ヲ占メ得ベキト云フコトヲ、一般肥料商ニ示スト共ニ、政府自ラモ之ヲ占メントスルノデアリマス、若シ民間ノ肥料商ニシテ此硫酸「アンモニア」ヲ取扱ヒ、俸給事務費其他ノ事業費ヲ此政府ノ取扱フモノヨリモ更ニ低廉ナラシメ得タナラバ、其低廉ナラシメ得タダケヲ五十錢ニ加算シタルモノハ、即チ商人ノ利益ニ歸スルコトノ明白

ナルコトヲ政府自ラ示スモノデアリマス、吾々ヲシテ言ハシムレバ、本肥料管理法ノ如キハ、硫酸「アンモニア」商人ニ對スル最低利益補償法案ナリト稱シ得ルノデアリマス(拍手)殊ニ又肥料ノ需要期タル所ノ六、七月頃ニ於テハ、政府自ラ其仕入値段ニ對シテ十三圓八十錢ヲ加算シタルモノヲ以テ賣出シテ、硫酸「アンモニア」一噸ニ對シテ正ニ十圓ノ利益ヲ占メ、而シテ自ラ占ムルモノミナラズ、一般肥料者ニ向テモ其點マデハ利益ヲ占メヨト云フコトヲ示サル、案デアリマス、即チ斯ノ如キハ政府自ラ肥料商トナシテ、一噸當リ十圓ト云フ暴利ヲ貪ルノミナラズ、一般肥料商ノ旗振トナシテ、農民ニ高價ノ肥料ヲ賣付ケントスル所ノ本案ナリト言ハザルヲ得ナイ、即チ本案ノ如キハ俗ニ所謂羊頭狗肉ノ比ニ非ズシテ、羊ノ頭ヲ掲ゲテ鼠ノ肉ヲ賣ルヨリモ甚シイモノト申サマルヲ得ナイ案デアリマス、是私共ガ本案ニ反對スル、否反對セザルヲ得ナイ所ノ第三ノ點デアリマス

(此時發言スル者アリ)

○副議長(清瀬一郎君) 御靜ニ願ヒマス

○松本忠雄君(續) 次ニ私共ガ第四ニ本案ニ反對スル所ノ理由ハ、本案ガ他日國庫ニ重大ナル負擔ヲ歸スル所ノ虞ガアルカラデアリマス、此計畫ニ依レバ肥料管理ニ要スル所ノ官吏ノ俸給ヨリ總テノ諸經費、即チ最初ノ一錢カラ、悉ク利息ヲ拂フベキ所ノ借入金ニ據ルノデアリマス、斯ノ如キ基礎ノ下ニ事業ヲ營ムコトガ、他日甚大ナル損失ニ歸スベキコトハ、米穀法案ガ吾々ノ前ニ殷鑑ヲ示シテ居リマス、殊ニ其計算ノ如キハ極メテ杜撰孟浪ヲ極メマシテ、十年間二百七十八萬噸ノ硫酸「アンモニア」ヲ取扱ヒ

ナガラ、一噸ノ目減リヲモ計上セザルガ如キハ、總テ損失ニ歸スベキコトハ全ク識者ヲ待タズシテ知ルベキデアリマス、殊ニ本法ニ依ル所ノ肥料賣出ハ、豫メ二三箇月前ニ其數量ト價格トヲ公市スルノコトデアリマスカラ、利ニ聽キ商人ハ必ズヤ此政府ノ賣ル値段ヨリモ幾分安イ値段、若クハ又同一ノ値段デアッテモ、買収人ニ有利ナルベキ賣買條件ヲ以テ、政府ヨリ先ニ是ガ賣付ヲ爲スデアラウト云フコトヲ想像シ得ルノデアリマス、斯ノ如ク致シマスルナラバ、茲ニ政府ガ仕入レマシタル所ノ肥料ハ手持品トナッテ、其儘貯藏セザルヲ得ザルコト、ナリ、茲ニ多クノ損失ヲ生ズルコトガ明デアリマス、此點ニ對シテ、政府ハ若シ斯ノ如クナリマスルナラバ、之ニ依テ本案ノ目的ハ十分ニ達シ得ルモノナリト言ハレマスルガ、若シ左様致シマシタナラバ、之ニ依テ肥料ヲ賣出スコトハ能ズシテ、而シテ之ニ要スル官吏ノ俸給ハ支拂ハザル能ハズ、之ニ要スル事業費ハ支拂ハザル能ハズ、益以テ國庫ニ對スル負擔ヲ多カラシムル結果ニ陷ラザルヲ得ナイノデアリマス、私共ハ元來政府ガ濫ニ商人ノ畛域ヲ冒シ、自ラ商行爲ヲ營ムガ如キハ、非常特別ノ場合ノ外嚴ニ之ヲ慎ムベキモノナルコトヲ信ズル者デアリマスルガ、今政府ガ本案ノ如ク其效果ノ疑ハシキモノヲ企劃シ、一方ハ商人ノ畛域ヲ冒シ、彼等ニ甚大ナル脅威ヲ與ヘ、一方ハ國庫ニ多大ノ損害ヲ及ボシ、而モ其結果農村ニ對シテ却テ安價ナル肥料ヲ供給スル能ハザルガ如キ事態ニ至ルトスルナラバ、吾々ハ本案ニ反對セザルヲ得ナイノデアリマス、是吾々ガ本案ニ反對スル第四ノ理由デアリマス(拍手)次ニ第五ニ吾々ガ本

案ニ反對致シマスル理由ハ、此肥料管理法案ヲ見テ、吾々ハ現田中内閣ノ肥料政策ニ對スル本末輕重ヲ誤ルコトヲ思フガ故ニ、此點ニ於テ之ニ反對セントスル者デアリマス、現内閣ハ頻ニ農村ノ事ヲ憂慮セラル、モノ、如クデアリマシテ、田中總理大臣ハ農村振興策ハ肥料ノ公平ナル分配ニアルト言ハレマシタ、斯ノ如ク肥料問題ニ付テハ最モ憂慮セラル、現田中内閣デアリマスナラバ、農民ノ爲ニモットの確ニシテ有效ナル肥料政策ヲ行ハナケレバナラヌ筈デアリマス、現ニ肥料調査委員會ノ如キモ現内閣ハ申譯ノニ肥料調査委員會ヲ開クノ實狀デアリマシテ、肥料調査委員會設置以來……

〔此時發言スル者多シ〕

○副議長(清瀨一郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○松本忠雄君(續) 總會ヲ開キタルコト正

ニ二回、而シテ昨年ノ七月以來此調査委員會ハ一回モ開催セラレザル實狀デアリマス、折角肥料調査委員會ヲ設ケツ、半年有餘ニ亙ッテ一回モ之ヲ開カズ、而シテ肥料調査委員會ニ對スル其審議ノ如キモ、毫モ之ヲ進メズシテ、而シテ肥料政策ニ忠實ナリ、農村ニ向テ忠實ナリトハ何ニ依テ現内閣ハ之ヲ言ヒ得ルノデアリマス、更ニ又現内閣ハ肥料問題ニ付テ最モ力ヲ致シツ、アリト言ヒナガラ、彼ノ東洋窒素工業會社ニ對スル「ハーバー」特許權問題ヲ空シク看過シツ、アルガ如キハ、全ク現内閣ハ肥料問題ニ付テ忠實ナラザル證據デアリマス(拍手)元來「ハーバー」特許權ナルモノハ先刻松浦委員長ノ述べラレタル如ク、日本政府ガ獨逸カラノ賠償金ノ一部トシテ之ヲ取リ、大正十年四月原内閣當時ニ我ガ日本ニ

於ケル數氏ノ富豪ニ對シテ、僅カ一万圓ノ値段ヲ以テ拂下ダタモノデアリマス、其一万圓ヲ以テ拂下得タル所ノ我ガ日本ノ富豪ハ、此特許權ヲ利用シテ一年正ニ六十萬圓ニ垂ントスル暴利ヲ貪リ居リマス、若シ現田中内閣ニシテ眞ニ農民ニ對シテ安價ナル肥料ヲ供給セントスルノ誠意ガアラレナラバ、何故ニ此「ハーバー」特許權ニ對シテ的確ナル所ノ手段ヲ執リ、相當ナル手段ヲ行ッテ、然後ニ本肥料管理法案ノ如キヲ提出シ來ラザルヤ反問セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)此點ニ付テ政府當局ハ頻ニ法律問題ヲ云々セラレマス、併ナガラ政友會ノ諸君ハ會テ大正六年寺内内閣當時ニ、製鋼所ガ東海鐵業會社ニ向テ銅片ヲ賣渡サントスル其契約ヲ、契約期間内ニ打ちラシメタル政友會デアリマス、而シテ自ラ農村問題ニ付テハ最モ忠實ナリト言ハレ田中内閣デアリマス、然ラバ此「ハーバー」特許權ノ如キハ速ニ之ニ對シテ適當ナル方策ヲ立テ、之ヲ取上ゲルカ、取上ゲルコト能ハズトスルナラバ、之ニ依テ是等ノ富豪ガ徒ニ特許料ヲ徴スルコトヲ廢セシメテ、日本全國ノ農民ニ向テ安價ナル肥料ヲ供給サセルベキ適當ナル努力ヲ爲スベキガ當然デアルニ拘ラズ、之ヲモ爲サズシテ而シテ自ラ肥料ノ公平ナル分配ヲ爲サントスル、自ラ農村ニ忠實ナリト言フガ如キハ、餘リニ本末輕重ヲ顛倒シタルモノナリト謂ハナケレバナラヌ(拍手)吾々ハ斯ノ如キ本末輕重ヲ顛倒シタル田中内閣ノ肥料政策ニ向ッテ、誠意アリト信ズルコトノ出來ナイ、是レ吾々ガ本案ニ反對セザルヲ得ナイ所ノ第五ノ點デアリマス、以上之ヲ要シマスルノニ、政府ガ之ニ依テ企圖セント致シマ

シタ目的ハ、愈々本案ヲ實行致シマシテモ、之ヲ達成スルコトノ出來ナイコトハ明白デアリマス、ノミナラズ却テ累々農村ニ及ボシ、國庫ノ負擔ヲ重カラシムルニ至ルコトヲ信ズルノデアリマス、私共ハ農村今日ノ實情ニ付テ深憂禁ズル能ハザルモノガアリマス、併シ是ガ爲ニハ斷テ農村ガ今日ノ窮狀ニ至ッタ其原因ニ立戻ッテ考ヘナケレバナリマセヌ、農村ガ今日ノ疲弊ニ至リマシタ其原因ハ、固ヨリ一ニシテ止マリマセヌ、併ナガラ過去ニ於ケル政治家ガ農村ノ爲ニ適切ナル政策ヲズルコトヲ怠ラコトガ、農村ノ今日ノ疲弊ニ陷レタル所ノ重大ナル原因デアルコトハ、吾々ハ之ヲ信ゼザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)我國近代ノ政治史ヲ顧ミマスノニ、明治三十三年立憲政友會組織以來、今日ニ至ルマデ三十年、其三十年ノ間ニ唯僅ニ大正四年ヨリ大正六年ニ至リマス間、大正十三年ヨリ昭和三年ニ至リマス此二ツノ短期間ヲ除イタ以外ハ、政友會ハ常ニ衆議院ノ多數黨デアッテ、或ハ自ラ朝ニ立ッテ國政ヲ料理シ、或ハ其當時ノ政府ヲ援ケテ自ラノ政策ヲ行ハシメ來タノデアリマス、若シ政友會ガ其間眞ニ農村ノ爲ニ適當ナル所ノ政策ヲ行ハントスル誠意ガオアリニナツタナラバ、此三十年ノ間ニ當然之ヲ爲サナケレバナラナカッタ筈デアリマス、即チ政友會ノ諸君ガ過去三十年ノ間ニ、口ニハ農民黨ト稱シテ農民ノ歡心ヲ買ヒナガラ、農民民ノ醇朴ニシテ欺キ易キニ乘ジ、口ニ唱ヘル所ヲ手ニ行ハズシテ今日ニ及ビマシタガ爲ニ、農村ハ遂ニ今日ノ疲弊困憊ニ陷タノデアリマス(拍手)即チ農村ノ今日ノ疲弊ニ陷レタル其政治上ノ責任ハ、諸

君、政友會方正ニ之ヲ負ハナケレバナラナ
イノデアリマス(拍手)然ルニ政友會ノ諸君
ガ尙自ラ省ルコトナクシテ、斯ノ如ク名ノ
徒ニ美ニシテ、内容ノ伴ハザル法案ヲ提出
シ來、之ニ依テ再ビ農民ヲ欺カントスル
ハ、益、其罪ヲ重クスルモノナリト言ハザル
ヲ得ナイノデアリマス(拍手)昔ハ「儀狄酒
ヲ作」テ禹王ニ進ム禹王之ヲ試ミテ甘シト
ナシテ曰ク後世必ズ酒ヲ以テ國ヲ滅ボス
モノアラント、即チ儀狄ヲ却ク」ト史ニ記サ
レテ居リマス、若シ吾々ニシテ今日肥料管
理法案ノ美名ニ酔ウテ、斷乎トシテ之ヲ却
ケルノ明ナクンバ、敢テ後世ヲ待ツマデモ
ナク、近キ將來ニ必ズヤ之ニ依テ農村ニ禍
シ、國庫ニ累ヲ及ボサンコトヲ恐レザルヲ
得ナイ、即チ吾々ハ本案ニ反對セザルヲ得
ナイノデアリマス、吾々ハ本案ニ反對致シ
マシテモ農民ヲ愛セザルニ非ズ、農村ヲ思
ハザルニ非ズ、否眞ニ農村ヲ思ヒ、眞ニ費
民ヲ愛スルガ故ニコソ、本案ニ反對セザル
ヲ得ナイノデアリマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 土井權大君

(土井權大君登壇)

○土井權大君 私ハ本案ニ賛成スル者デ
アリマス、詳細ナル議論ハ私ノ後ヨリ同僚
加藤君ガ出ラレマシテ述べラレマスルガ故
ニ、私ハ(加藤誰ダイ)ト呼フ者アリ)加藤
知正君デス(相手ニハ惜イ)ト呼フ者アリ)
然ラバ私ガ全部引受ケマシテ討論スルコ
トニ致シマス

(此時發言スル者多シ)

○副議長(清瀬一郎君) 靜肅ニ願ヒマス

○土井權大君(續) 諸君、農村振興ノ三大
要件ハ何デアルカト言ヘバ、第一ニ農家ノ
收入増加ニ關スル政策ヲ打立テルト云フコ

トデアルコトハ御承知ノ通り、第二ハ何デ
アルカト言フナラバ、農家ノ經費其他支出
減少ニ關スル政策ヲ立テルトコトデアリマ
ス、是亦御承知ノ通り、更ニ第三ノ要件ハ
何デアルカト言ヘバ、農家ノ經濟安定ニ關
スル政策ヲ打立テルトコトデアル、此三ツガ
取モ直サズ農村振興ノ三大要件デアリマ
ス、我ガ政友會ニ於キマシテハ常ニ此三大
要件ニ着眼ヲ致シテ、各般ノ調査研究ヲ進
メタノデアリマス、即チ今回政府ヨリ提案
セラレマシタル、今期議會ニ於テ政府ヨリ
提案セラレマシタル米穀買入資金増加ノ件、
或ハ絲價安定ニ關スル法案、或ハ家畜保險
法、是等ハ如何ナルコトヲ示シテ居ルノデ
アルト言ヘバ、取モ直サズ農家收入増加ニ
關スル政策ノ實現デアルト吾々ハ信ズル
(拍手)更ニ兩稅ノ委讓、即チ地租委讓、營
業收益稅ノ委讓(「ソナナコトハ關係ガナ
イ」ト呼フ者アリ)關係ガナイトハ言ハレナ
イ、農家ノ支出減少ト致シテ農家ノ負擔輕
減ニナルノデアル、肥料管理案ハ生産費ノ
輕減ト相成ルノデアル、取モ直サズ農家ノ
支出輕減ニ關スル政策ノ實現デアリマス、
更ニ自作農法、開墾助成法改正ノ如キハ、
御承知ノ通り農家ノ經濟安定ニ關スル政策
ノ實現デアリマス、今日農村ト致シテ如何
ナル問題ガ最も根本ノ問題デアルカト言ヘ
バ、御承知ノ通り農村社會問題ト致シテハ、
一ニ小作爭議、一ニ中堅階級ノ滅亡、一ニ
都會集中ノ弊、是ガ唱ヘラレテ居ル、其原
因ハ何レニアルカ、其原因ハ土地愛著心ト
云フモノガ無クナリ、土地ノ所有ヨリ離レ
ルト云フコトモ一大原因ヲ成シテ居ルノデ
アリマス、諸君、此意味合ヨリ致シテ、農
家ノ經濟ノ安定ヲ圖ラウトスルニ付テハ農

家ニ土地ヲ與ヘ、而シテ小作爭議ト云フモ
ノヲ防止シ、更ニ都會集中ノ弊ヲ打棄テ、
更ニ中堅階級ノ滅亡ヲ防ギ、是等ノ意味合
ヨリ致シテ我ガ内閣ニ於テハ自作農、並ニ
開墾助成法ノ改正ヲ致シテ居ル、即チ以上
ノ如キハ悉ク我黨多年提唱致シテ居ル所ノ
農村振興ノ三大要件、一ニ曰ク支出ノ輕
減、二ニ曰ク收入ノ増加、三ニ曰ク經濟ノ
安定、之ニ適テ居ル次第デアリマス(拍
手)政友會ガ何カ農民ノ爲ニ盡サナイト言
フガ如キ御議論ガアリマシタガ、只今申上
ゲマシタルコトハ論ヨリ證據、如何ニ農村
振興ノ爲ニ力ヲ盡シテ居ルカト云フコト
ヲ、如實ニ物語ッテ居ルト謂ハナケレバナラ
ヌ、特ニ今ノ議題トナッテ居リマス肥料管
理案ノ如キハ、農家生産費輕減政策トシテ
最も重要ナル案件ト謂ハナケレバナラヌ、
且又農產物増加ニ資シ、食糧問題解決ノ上
カラ申シテモ、最も必要ナル案件ト吾々ハ
信ズル次第デアル、何故左様ナコトヲ言フ
ニ至ッタカト申スナラバ、最近三箇年間ノ統
計ヲ調査致シマスルニ、販賣肥料ノ我國ニ
於ケル總消費額ト云フモノハ、一年ニ三億
一千万圓トナッテ居ル、昨年ノ如キハ三億四
千万圓ト計上サレテ居ルノデアリマス、而
シテ此肥料ノ價格ノ狀態ハドウデアアルカト
云フト、年々其價格ハ向上ノ傾向ガアル、
而モ消費者デアル所ノ農家ノ手ニ入ル場合
ニ於テハ年々歲々其價格ガ向上サレテ居ル
傾向ニ相成ッテ居ル、之ニ對シテ農產物モ騰
貴致シテ居ルデアラウカ、安定致シテ居ル
デアラウカ(大違ヒ)ト呼フ者アリ)大違ヒ
デアルト言ハレマスガ故ニ、私ハ昨年ニ於
ケル米ノ價ト、肥料ノ價トノ比較ヲ申上ゲ
マス、昨年即チ昭和三年一月ヨリ十二月ニ

至ルマデノ米價高低ノ指數ハ、之ヲ平均致
シテ見マスルト最高ガ三十二圓、最低ガ二
十八圓(即チ米ハ一割二分五厘ノ低落ヲ示シ
テ居ルノデアル、之ニ反シテ肥料ハドウデ
アルカト言ヘバ、大豆粕ハ百斤ニ付最低四
圓二十二錢、最高四圓四十五錢、即チ肥料ハ
五分ノ騰貴トナッテ居ル(「硫酸ハドウダ」
ト呼フ者アリ)硫酸ハ御承知ノ通り窒素肥
料デアアル又豆粕モ御承知ノ通り窒素ヲ含
有シテ居ルト云フコトモ御承知ノ通り(「分ラ
ヌ」ト呼フ者アリ)分ラヌト云フガ爲ニ私ハ
言フノデアル——即チ以上ノ統計カラ致シ
マシタナラバ、肥料ノ價格ハ段々高クナリ、
米ハ安クナルト云フ實狀ヲ明ニ示シテ居ル
ノデアル、此統計ヨリスルナラバ、將米農
業國策ト致シテ如何ニシテ肥料ヲ安ク農民
ニ供給スルカ、如何ニシテ配給ヲ圓滿ニス
ルカ、之ヲ考ヘルコトガ必要デアルト云フ
コトハ多言ヲ要シナイ所デアリマス(拍
手)然ラバ肥料ノ窒素、磷酸、加里、此三
要素ガ如何様ニ使ハレテ居ルカト云フ
統計モ調ベル必要ガアル、最近三箇年間ノ
販賣肥料ノ總消費額ハ、只今申マシタ
如ク三億一千万圓デアアル、右ノ内八割ハ窒
素質ノ肥料デ、之ヲ金目ニスルト二億一千
八百万圓トナル、而シテ農家生産費中肥料
代ハ抑、何割ヲ占メテ居ルカ、之ヲ調ベ
テ見ルト三割六分五厘、是レダケ肥
料代ニ占メラレテ居ルノデアアル、而シテ無
機窒素、所謂硫酸肥料、是等ノ使用量ハ幾
ラデアアルカト云フナラバ、最近四十九萬噸、
即チ窒素肥料總量ノ四割七分、約五割ト申
シテモ宜シイ、是ガ無機窒素ニナッテ居ル、
其残りハ所謂有機窒素ト相成ッテ居ル、斯ウ
云フ統計ニ相成ッテ居ルノデアリマス、以上

ノ實情 以上ノ統計ニ鑑ミマシタナラバ、即チ肥料ノ中樞ハ何デアルカ、人間デ言ヘバ背骨ハ何デアルカ、曰ク窒素肥料デアアル、此事ハ私ガ言ハズトモ明ニ統計デ示シテ居ル、此中樞ヲ制シテ、如何ニシタナラバ肥料ノ價格ヲ調節シ、低廉ナル肥料ヲ農家ニ供給スルコトガ出來ルカ、是ハ苟モ農村振興ノ御精神ノアル方デアラナラバ、必ズヤ心ヲ茲ニ及ボサナケレバナラヌノデアアル(拍手)今回政府ガ硫酸「アンモニア」石灰窒素ヲ管理シテ、其肥料ノ配給ノ圓滿又ハ價格ノ安定ヲ圖ル爲ニ、是等ノ肥料ノ賣捌ヲ爲スト云フコトハ、取リモ直サズ食糧ノ充實、農村經濟ノ作興ヲ期スル爲ニ、極メテ適切ナル施設ト私ハ考ヘテ居リマス(拍手)更ニ農民ノ聲ヲ聽イテ戴キタイ、農民ハ如何ナルコトヲ叫ンデ居ルカト云フナラバ、御承知デモアリマセウガ、先日全國ノ農會長會議ト云フモノガ三會堂ニ於テ開カレタ、其時ニ當テ如何ナル決議ヲ致シタクト云フナラバ、肥料管理法ハ農家ノ生産費ヲ輕減スル最モ必要ナル施設ナルガ故ニ、是非此實行ヲ迫ルト云フ決議ヲ致シテ居ル(拍手)蓋シ我輩多年高唱致シテ居リマスル所ノ農村振興政策ノ一部實現ニ外ナラナイノデアリマス、決シテ吾々ハ看板ダケヲ掲ゲテ農民ヲ偽ラウ、所謂羊頭ヲ掲ゲテ狗肉ヲ賣ラウト云フ陋劣ナル心理ハ毛頭持テ居ラナイノデアアル(拍手)然ラバ只今色ト松本君カラ御議論ガアリマシタデ長ク申シマセヌ、唯案件ダケヲ參考ニ申上デテ討論ニ代ヘマス、管理案ノ名目ガドウデアアル、斯ウデアルト云フコトヲ言ハレマシタガ、中ニ名前ト云フモノハ附ケ惡イモノデアアル、小サナ男ニデモ大吉ト云フ名前ヲ附ケ

テ居ルコトモアル(拍手)丁度憲政會ガ内閣ヲ組織サレテ居リマシタル時ニ、農業政策ノ實現ト致シテ大規模開墾ト云フ文字ヲ書イテ居ル、然ラバ幾ラノ經費ヲ要求サレテ居ルカト云ヘバ、名前ハ大規模開墾デアリマスガ、僅ニ十萬圓デ大規模開墾デアリマス、其當時私ハ十分政府ニ對シ、當時ノ憲政會内閣ニ質問ヲ致シテ置イタコトハ御承知ノ通りデアラウト思フ、是ハ抑、何デアアルカ、即チ名ヲ附ケルコトノ困難ナルコトハ、之ニ依テモ明デアルト思フ、ソレカラ肥料調査會ノコトヲ第二ドウトカ斯ウトカ言ハレマシタガ、肥料調査會ハ執行機關ニアラズシテ諮詢機關デアルト云フコトハ、松本君御承知デアリマセウ、是ダケ申セバ早分リデアアル、必シモ是ガ決議致シタカラ之ヲ實行シナケレバナラヌト云フ、左様ナル官制ニナツテ居ラヌコトハ御承知デアリマセウ、ソレカラ其次ニ内容ガ杜撰デアアル、第一條ニ硫酸「アンモニア」含有窒素化學肥料云々ト云フコトヲ言ハレマシタガ、含有窒素ノ化學肥料ト云フモノハ、マダ左程發達致シテ居ラヌ、此事ハ能ク肥料ノ實狀ニ付テ研究下スツタナラバ、其事ハ御諒解出來ルデアラウト思フ、ソレカラ價格安定ト云フコトヲ言ハレマシタガ、此文字ノ使ヒ方ト云フモノモ、中ニムズカシイモノデアアル、例ヘバ急ナ場合デモ、所謂一旦緩急アレバト使ヒ、或ハ國ガ亡ボサレヤウトスル場合ニ、國家存亡ト云フ、存スルト云フ文字ヲ使フ、故ニ價格安定ト云フ中ニハ、積極的安定ト消極的安定トアル、恰モ財産ニ消極的財産ト積極的財産ガアルノト同ジコトデアアル(拍手)ソレカラ其次ニ此肥料管理法ニ對シ、商賣人ハ反對スルケレドモ生産者ハ

反對シナイ、ソレガ爲ニ販賣業者ガ反對スルト云フ以上ニハ、生産業者モ反對シナケレバナラヌ論理ニナルトカ何トカ言ハレマスガ、此管理法案ヲ能ク御讀ミテ願ヒタイト云フノハ、卸賣カラ小賣ガ多數ニ介在ヲ致シ、消費者タル農家ヘ持テ參ル場合ニ於テ、此小賣業者ガ暴利ヲ貪リ、或ハ思惑ヲ致シ、或ハ賭博ノ目的ト致スト云フガ如キコトガアル爲ニ、此肥料ノ價格ト云フモノハ、實際消費者ノ手ニ入ル時ニハ高クナルノデアリマス、此賭博、此思惑ヲ牽制シヤウトスルノデアアル、生産者ハ博奕打デアリマセヌ、堅實ナル實業家デアアル、ソレカラ鐵道貨車ノ配給デアルトカ、或ハ運賃ノ低下デアルトカ言ハレルガ、是モ勿論必要デアリマセウ、併ナガラ管理案ノ大ナル目的ハ、只今申シタガ如ク思惑投機、之ヲ如何ニ牽制スルカト云フコトニ在ルノデアリマスカラ、其事ヲ御考ヘ下サツタナラバ、運賃ノコトモ、貨車配給ノコトモ、自ラ明瞭ニナルダラウト思フ、荷爲替ノコトヲ色ミト御話ニナツタデアリマスガ、即チ此商賣ヲ致ス上ニ於テ荷爲替ヲ付ケルト云フノハ、信用ガナイカラデアアル、所謂買手モ信用ガナイ、賣手モ信用ガナイ、此場合ニ——(冗談言フナ)ト呼フ者アリ)冗談デヤナイ、即チ信用ハ、諸君、愈、信用ガアルトスルナラバ、荷爲替ヲ付ケズシテ其儘現送致シテ、品物ガ著致シタナラバ、其品ニ對シ代金ヲ受ケルコトモ出來ル、更ニ愈、賣手ニ信用ガアルナラバ、荷物ガ著致サズシテ前ニ現金ヲ受ケルコトガ出來ル——信用程度ノ問題デアルト云フコトハ能ク分ッテ居ル、アナタ方ノ講釋ヲ聽カズトモ能ク分ッテ居ル、即チ政府ガ肥料ヲ賣捌クガ爲ニ、政

府ニ對シテ現金ヲ送ルト雖モ、其現金ヲ奪ヒ取ラレハシナイカト云フ心配ハナイ、詰ラナイ會社、詰ラナイ商賣人ニ遭フト、現金ヲ送レバ其現金ノミヲ取ラレテ、荷物ヲ送ラナイト云フコトガアル、併ナガラ政府ニ對シテ現金ヲ送レバ、必ズ品物ヲ送テ來ルト云フ安心、信用ガアル爲ニ、必シモ荷爲替ニ依ラズトモ現金ヲ送ルトハ明デアアル——吾々憚リナガラ荷爲替ノコトヲ知ラズシテ議政壇上ニ起チ、國民ノ代表トナルコトハ致シマセヌ(拍手)更ニ價格ガ段々ト高クナルデアラウ、政府ノ手數料ガ臨時賣ナドノ場合ニ三圓八十錢取ル、故ニ隨分高イモノニ賣ラナケレバナラヌト云フ御説デアリマスガ、是亦統計ヲ見ルト直ニ其然ラザルコトヲ證明スルコトガ出來ル、昭和三年ノ硫酸ノ價格ノ表ヲ見レバ、最低價格一噸ニ付テ百十八圓ニナツテ居リマス、政府ノ手數料ガ十三圓八十錢、然ラバ賣上ト云フモノハ百三十一圓八十錢トナルノデアリマス、所ガ一方其當時ニ於ケル所ノ最高——假ニ政府ノ持堪ヘル「ストック」ヲ持テ居ル場合ニ、政府ハ其時ニ幾ラノ損ヲスルカ利益ヲスルカ、最高トシテ昨年ノ硫酸價格表ハ一噸百五十三圓五十錢トナツテ居ル、即チ手數料ヲ加ヘテ百三十一圓八十錢デ、之ヲ賣捌イテモ尙ホ政府ハ二十一圓七十錢ト云フ此利益ガアツタ、斯ウ云フヤウナ統計ニ實ハ相成ツテ居ルノデアリマス、其他産業組合ノ手數料ガドウデアアル、斯ウデアルト言ッテ、色々ノ御心配デゴザイマシタケレドモ、産業組合ハ御承知ノ通り組合組織ニナリ、所謂會社デアルトカ何カト違ヒマシテ、極メテ其持分ト云フモノガ平均的ニ相成ツテ居ル、大キナ

資本ヲ一人ガ持寄ルコトガ出来ナイ組織ニ
ナリテ居ルコト云フコトハ、松本君モ御承知ノ
通りデアル、故ニ産業組合ガ手数料ヲ取り組
マシテモ、其手数料ハ組合員ニ對シテ平等ニ
分配サレルヤウナコトニ相成テ居ル、故ニ
何等サウ云フモノニ付テ、農民ガ高ク物ヲ
買フト云フ御心配ハ御無用デアリマス（拍
手）況ヤ他ノ商賣人、他ノ小賣商人ト云フ
モノハ、所得税モ支拂ハナケレバナラヌ、

組織ノ改善ト云フコトニ力ヲ盡サナケレバ
ナラヌ、農村問題ヲ唯單ニ反對センガ爲ニ
反對スルト云フガ如キハ、却テ農民ニ對シ
テ不忠實ナル遺リ方ナリト謂ハナケレバナ
ラヌ（拍手）以上ノ理由ニ依テ反對ノ論ニハ
反對ヲ致シ、政府原案ニ滿腔ノ誠意ヲ以テ
賛成致ス次第デアリマス
○副議長（清瀬一郎君） 高田耘平君

〔高田耘平君登壇〕

營業收益税モ支拂ハナケレバナラヌ、然ル
ニ産業組合ハ所得税ハ免除デアル、營業收
益税モ免除デアル、此點モ能ク御考慮ハナケ
レバナラヌノデアリマス、政府モ亦稅ヲ取
リマセヌ、サウ云フ點モ能ク御考ヲ願ハナ
ケレバナリマセヌ、マア其外一々左様ナコ
トヲ申セバ、子供ノ喧嘩ノヤウナコトニナ
リマスカラ、此程度ニシテ置キマス（拍手）
唯終リニ申述ベテ置キタイノハ、今日ノ農
村ノ疲弊困憊ハ政友會ノ罪ナリト云フコト
ヲ言ハレタ（其通り）ト呼フ者アリ斷ジテ
然ラズ、其通りデアルト云フ人ハ、無學デ
アルト云フコトヲ證明シテ居ル、御承知ノ
通り十八世紀ノ後半期ニ於テ産業ノ革命ガ
起リ、所謂大規模、大組織資本主義ト云フ
言葉ガ起リタコトハ御承知ノ通りデアル、明
治御維新以來如何ニナツタカト云フニ、所謂
資本主義制度ト云フ總テノ施設ガ我國ニ行
ハレタ、然ルニ農村ノミガ尙ホ單獨經濟組
織ノ下ニ居ルガ爲ニ苦シデ居ルノデアリマ
ス、即チ農村ノ疲弊困憊ハ産業革命ノ結果
デアル、更ニ進ンデ言ウナラバ、農村ノ經
濟組織ヲ農民自體ガ自覺致シテ改善ヲ致シ
テ居ラヌト云フコトニ相成テ居ル（拍手）
是等ノ點ニ付キマシテハ、政友會ト云ハズ、
民政黨ト云ハズ、御互ニ留意致シテ、産業

○高田耘平君 本案ニ付キマシテ、即チ肥
料管理法及肥料管理特別會計法ノ二案ニ付
キマシテ、甚ダ遺憾デゴザイマスケレドモ、
反對ノ已ムヲ得ナイ理由ヲ申上ゲテ見タイ
ト思ヒマス、實ハ本案ハ肥料調査會ニ於テ
大體ノ成案ヲ得タモノデゴザイマス、而シ
テ其肥料調査會ナルモノハ、昭和二年度ノ
豫算ヲ編成スルニ方テ、若槻内閣ガ肥料ノ
如何ガ農村問題ニ極メテ重要ナル關係アリ
トノ理由ヲ以テ、昭和二年度ノ豫算ニ計上
シ、其計上セラレタル豫算ニ依テ肥料調査
會ガ開カレテ立案シタルモノデゴザイマス
カラ、詰リ前内閣ノ豫算ニ依テ出来タモノ
デゴザイマスカラ、大抵ノ事ナラバ私ハ贊
成致シタイト思ヒマス、併ナガラ内容ヲ調
査スレバスル程、如何ニモドウモ杜撰ノ點
モアリ、缺點ガ多イ故ニ、私ハ已ムヲ得ズ
反對スルト申上ゲルノデゴザイマス（拍手）
本案ノ目的ハ其說明書ニアル通り、食糧ノ
充實、農村經濟ノ振興ノ爲ニ、無機質窒素
肥料ノ中硫酸ヲ管理シテ、其配給ノ圓滑ト
價格ノ安定ヲ期スルト云フノデゴザイマ
ス、此目的ヲ達スルコトガ出来レバ無論同
意致シマス、出来ナイト云フコトヲ知リタ
ルガ故ニ、私ハ反對スルノデゴザイマス、
然ラバ吾々ニ意見ガナイカト云ヘバ、ソレ

ハ或ル場合ニ於テハ國庫ニ損失ヲ來ス虞ガ
アル、又或ル場合ニ於テハ却テ産業組合ノ
根本ヲ破壊スル虞ガアルト云フヤウナコ
ト、而シテ決シテ肥料ノ値段ヲ下落セシム
ルコトノ出来ナイヤウナ案ヲ以テスルヨリ
モ、産業組合ヲシテ直接肥料製造會社ヨリ、
府縣ニ在ル所ノ聯合組合ノ手ヲ通ジテ、或
ハ全國ノ購買聯合組合ノ手ヲ通ジテ、政府
ガ斡旋ノ勞ヲ執リテ、直接ニ製造會社ト、サ
ウシテ産業組合トノ間ノ賣買ノ斡旋ニ依テ
完成セシムルコトガ出来マシタナラバ、是
コソハ政府ガ御世話スル所ノ手数料費用
ガ省ケテ、ヨリ以上ニ安キ肥料ヲ農家ニ供
給スルコトガ出来ルト存ズルカラ反對スル
ノデアリマス（拍手）私ハ本案ノ結果ハ國
庫ニ損失ヲ及ボシ——是ハ松本君ガ大體
申上ゲタカラ申上ゲヌデモ宜カラウト
思ヒマス、但シ私ハ或ル程度ノ損害ヲ及
ボシテモ、本當ニ農民ニ安キ肥料ヲ供給
スルノ見込ガ立ツノナラバ、賛成シテモ宜
シイト思ヒマス、處ガ政府ノ案ハサウデナ
イ、政府ハ損ヲシテハイケンナイノデアル、
損ヲシテハイケンナイトナレバ、決シテ安イ
肥料ヲ供給スルコトハ出来ナイコトニ相成
ルト思ヒマス、其理由ハ後ニ申シマス、更
ニ配給ノ將ニ圓滑ニ赴カントスルノヲ阻害
致シマス、而シテ此微々タル計畫ヲ以テシ
テハ、ドウシテモ安定ナド期スルコトハ出
來マセヌ、先程——斯ナ事ハ申上ゲタク
ナイノデスケレドモ、土井君ガ農民運動ガ
肥料管理案ノ通過ヲ要求スルカラ、議會モ
之ニ共鳴シタラ宜カラウトノ意味ノ事ヲ大
袈裟ニ吹聴ニナリマシタ、此間農民大會ニ
左様ナ決議ノアッタコトヲ吾々モ承知シテ
居リマスガ、併ナガラアレハ全ク管理案ノ

内容ヲ知ラナイ府縣ノ農會代表者等ノ數十
名ガ私ノ所ニ御出デニナツテ、肥料管理案ニ
賛成セヨト言フ、ドウモ私共ニハ分ラヌケ
レドモ、今ノ程度デハ私ハ賛成出来ナイ
アレハ決シテ諸君ノ期スルガ如キ安イ肥料
ノ供給ノ出来ナイモノデアル、諸君ハ肥料
管理案ニ賛成セヨト私ニ迫ルガ、然ラバ諸
君ハ肥料管理案ノ内容ヲ御覽ニナツタカト
伺ツタ所ガ、内容ハ見マセヌ、唯政府ガ宜
ト云フカラ宜カラウト云フ單純ナモノデア
リマシタ、決シテ農民ノ大多數ノ者ガ肥料
管理案ノ内容ニ付テ、嚴重ナル比較研究ヲ
遂ゲテ御賛成ニナツテ居ルノデハゴザイマ
セヌカラ、唯農民大會ニ於テ肥料管理法ヲ
賛成セヨト云フ御話ガ吾々ニアッタト云フ
コトニ依テノミ、全日本ノ農民ノ輿論デア
ルト御考ニナルノハ、極メテ間違タル判
斷デアルト云フコトヲ私ハ申上ゲタイノデ
アリマス、過般本會議ノ時ニ、私ノ此方法
ニ依テ果シテ安キ肥料ヲ一般農民ニ提供ス
ルコトガ出来ルカ否ヤト云フ質問ニ對シマ
シテ、農林大臣ハ常識的ニサウナルト云フ
御話ガアッタ、更ニ進ンデ私ハ具體的ニドウ
云フ御考デアアルカト云フコトヲ伺ツタ處ガ、
大臣ハ御出ニナラヌデ砂田政府委員ガ御
出ニナツテ、肥料商ガ反對スルノガ其證據
アルト云フテ居ラレタ、或ル意味ニ於テサウ
モ取レマスガ、肥料商ノ反對シテ居ルノ
ハ、私ガ見テハ問屋連中バカリデアリマ
ス、地方ノ肥料商ハ反對ガアリマセヌ、何
トナレバ斯ナモノガ有テモ無クテモ痛
痒ハ敢テ感ジナイカラデアリマス（拍手）是
ハ事實デアリマス、成程反對スル人モアル
カモ知レヌケレドモ、本案ノ無價值ナコト
ヲ知ラナイ人ノ反對デアアル、即チ本管理案

ノ運用ニ依テ國家ニ損失ヲ來スト云フ事柄ハ、是ハ松本君カラ大體申上ゲマシタカラ略シマス、唯機敏ナル商賣人ト其商賣人ノ極メテ今日ノ競争ノ激烈ノ間ニ立ッテ、政府ガ果シテ極メテ嚴正ナル法規ノ下ニ於テ商行為ヲ營ンデ、商賣人ト同ジ値段ニ賣ルコトガ出來ルカ否ヤト云フ事柄ハ、是ハ常識的ニ御考ニナッテ判斷ノ付ク事デアルト私ハ思フ、故ニ政府ガ損ヲシテマデモヤルノデアルト云フナラバ、是ハ意味ガ違ヒマス、政府ハ損ヲスルノデハナイ、儲ケルト云フノデアアル、是ニ於テカ私ハ決シテ儲ケルトコトガ出來ナイノミナラズ、必ズ損ニ歸スルト云フコトハ是ハ斷定致シマスケレドモ、政府ハ損ヲシナイデアルト云フガ、私ハ損ニナルト思ヒマス、損ニナル理由ハ茲ニ略スルノガ當然ト思ヒマス、私ハ是ヨリ以下極メテ簡單ニ反對ノ理由ヲ數點申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、第一ハ調査ガ不十分ナルコトデアリマス、何故調査ガ不十分デアルカト言ヘバ、先程申上ゲマシタ通り、私ハ政府ガ産業組合ノ手ヲ經テ農民ニ供給スルノト、商賣人ガ供給スルノト、値段ガ何方ガ安イカ高イカ、政府ハ安ク供給出來ルト言フカ、然ラバ具體的ノ數字ヲ舉ゲテ御説明ヲ願ヒタイト本會議ニ於テモ申上ゲタ、處ガ本會議ニ於テ農林大臣ハ委員會ニ於テ詳細ニ申上ゲルト言フタ、委員會ニ於テ更ニ私ハ其内容ヲ伺ヒマシテモ、決シテ具體的ノ答辯ハ一度モゴザイマセヌ、即チ是ハ私ハ御調査ノ甚ダ不十分ナル理由デアルト申上ゲタモ差支ナイト思フノデアリマス(拍手)第二ハ政府ガ商行為ヲ營ムノデアアル、三千万圓ノ金ヲ利用シテ商行為ヲ營ムノデアアルカラシテ、株式會社ニ於ケル所ノ企業目論見書様ナモノガナケレバナラナイデハナイカ、即チ其内容ニ付テ何處カラドウ云フ方法デアリテ、而シテ其費用ガ幾ラ掛テ、合數ガ幾ラ掛テ、經費ガ幾ラ掛

カルト云フヤウナ具體的ノ目論見書ガナケレバナラナイト思ヒマシテ之ヲ要求致シマシタ、處ガ其當時無カッタノデアリマス、ソコデ急遽トシテ作ッタ、其翌日出シタモノハ何デアルカト言ヘバ、十箇年ニ互ル收支豫定表、代價對照表ナルモノヲ御出シニナッタノデアリマス、而シテ委員ノ中ヨリ松本君及ビ其他ヨリ、其經費ノ内容ニ付テ詳細ニ承ルト云フト、具體的ノ御答ハ之ニ付テ出來ナイノデアリマス、是ガ私ハ調査ノ不十分デアルト云フ理由ノ第二デアルト思フノデアリマス、第三ハ肥料管理特別會計法ノ第九條ニ「損益計算ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト書イテアルノデゴザイマス、小川委員ヨリ此規定ニ關スル勅令ハ大抵出來テ居ル筈デアアル、是ハ如何ナル場合ニ於テモ、省令ニ依ルトカ勅令ニ依ルトカ云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、其案ハ政府ニ於テ出來テ居ルノデゴザイマス、大抵ノ場合ハ出來テ居ルテ出スガ當然デアアル、此要求ヲ致シマシタ處ガ、政府ハ今尙此勅令案ヲ御出シニナリマセヌ、是本案ニ付テ政府ノ調査ガ不十分デアルト申シマシテモ差支ナイ所以ノ第三デゴザイマス、第四ハ十箇年間ニ硫酸ヲ賣ルト云フ計畫ガ、極メテ基礎薄弱ナル見地ニ立ッテ居ルト思フノデアリマス、肥料管理計畫要綱ナルモノガ委員ニ配付ニナリマシテ、之ニ御添附ニナリマシタル所ノ表ヲ拜見スルト云フト、需要見込額ヲ昭和四年度ヨリ年々五萬噸ゾ、増加スルモノト定メタノデゴザイマス、私ノ確ニ左様ニ硫酸ノ需要ガ將來ニ増加スルノデアアルカト云フコトノ質問ニ對シマシテハ、其御答ハ肥料調查會ナドデモ大抵ソレデ宜カラウト云フコトデアアル、是以上ニ御答ガナイヤウニ存ジマス、殊ニ吾々政府ノ御提案ニナリマシタル所ノ各種ノ調査表ヲ拜見スルト云フト、此無機質窒素肥料ノ消費額ノ統計ヲ見ルト云フト、大正八年ヨリ昭和三年迄九箇年間ノ平均ノ消費量ノ増加ハ——此九箇年間ニ於テ、一箇年間ノ消費量ノ増加ト云フモノハ平均シテ二萬二千七百噸ニ過ギナイノデゴザイマス、更ニ最近ノ三箇年間即チ昭和元年、二年、三年ノ消費額ノ増加ノ狀況ヲ調べテ見ルト云フト、昭和元年ノ消費額ガ約四十萬噸——以下ハ略シマス——昭和二年ノ消費額ガ三十八萬噸、昭和三年ノ消費額ガ四十三萬噸デゴザイマシテ、其増加ノ趨勢ハ激減シテ、平均ヲスルト云フト三箇年間ニ於テ、一箇年ニ平均一萬五千噸ゾ、シカ増加シナイノデゴザイマス、他ノ半面ニ於テドウ云フ結果ヲ來スカ、ドウ云フ狀況ヲ來スカ、即チ新肥料ト申シマスガ、三要素ヲ具備スル肥料デアルサウデアリマス、私ハ能ク内容ヲ知リマセヌガ、新肥料ガ最近非常ナ勢ヲ以テ増加致シマシテ、最近二三年間ハ年々五六割ノ増加ヲシテ居ルノデゴザイマス、年々其通りニ殖エテ居ル、即チ硫酸ニ代ッテ新肥料ガ隨分増加ノ趨勢ヲ著シタモノデアアルト判斷シテモ差支ナイト私ハ思フノデアリマス、何故サウナッタカト云フコトニ付キマシテ私能ク存ジマセヌガ、二三ノ御方ノ御話ニ依リマスト云フト、是ハ絕對的ノモノデハアリマセヌガ、硫酸ヲ單一肥料トシテ使フコトハ、作物ノ種類ニ依テ、或ハ土質ニ依テ、非常ニ惡イ結果ヲ來ス虞ガアルト云フ、是ハ獨逸國リデハ非常ニ損害ヲ蒙ッタノデアリマスガ、日本ニ於キマシテ、水田ニ於テハ害ガ無イトカ色ニナリ富モゴザイマセウガ、兎ニ角硫酸ト云フモノヲ單一ニ過量ニ使ヘバ必ズ相當土地ノ荒廢ヲ來スト云フコトハ學者ノ定論デゴザイマス、故ニ知識ノ進シタル農民ハ、此單一肥料ヲ使フヨリモ、三要素ヲ具備シタル新肥料ヲ使フト云フコトガ、農家ソレ自身ノ耕作上何等危險ノナイモノデアルト云フコトニ氣ガ付イテ、所謂硫酸ノ消費量ト云フモノ

和三年迄九箇年間ノ平均ノ消費量ノ増加ハ——此九箇年間ニ於テ、一箇年間ノ消費量ノ増加ト云フモノハ平均シテ二萬二千七百噸ニ過ギナイノデゴザイマス、更ニ最近ノ三箇年間即チ昭和元年、二年、三年ノ消費額ノ増加ノ狀況ヲ調べテ見ルト云フト、昭和元年ノ消費額ガ約四十萬噸——以下ハ略シマス——昭和二年ノ消費額ガ三十八萬噸、昭和三年ノ消費額ガ四十三萬噸デゴザイマシテ、其増加ノ趨勢ハ激減シテ、平均ヲスルト云フト三箇年間ニ於テ、一箇年ニ平均一萬五千噸ゾ、シカ増加シナイノデゴザイマス、他ノ半面ニ於テドウ云フ結果ヲ來スカ、ドウ云フ狀況ヲ來スカ、即チ新肥料ト申シマスガ、三要素ヲ具備スル肥料デアルサウデアリマス、私ハ能ク内容ヲ知リマセヌガ、新肥料ガ最近非常ナ勢ヲ以テ増加致シマシテ、最近二三年間ハ年々五六割ノ増加ヲシテ居ルノデゴザイマス、年々其通りニ殖エテ居ル、即チ硫酸ニ代ッテ新肥料ガ隨分増加ノ趨勢ヲ著シタモノデアアルト判斷シテモ差支ナイト私ハ思フノデアリマス、何故サウナッタカト云フコトニ付キマシテ私能ク存ジマセヌガ、二三ノ御方ノ御話ニ依リマスト云フト、是ハ絕對的ノモノデハアリマセヌガ、硫酸ヲ單一肥料トシテ使フコトハ、作物ノ種類ニ依テ、或ハ土質ニ依テ、非常ニ惡イ結果ヲ來ス虞ガアルト云フ、是ハ獨逸國リデハ非常ニ損害ヲ蒙ッタノデアリマスガ、日本ニ於キマシテ、水田ニ於テハ害ガ無イトカ色ニナリ富モゴザイマセウガ、兎ニ角硫酸ト云フモノヲ單一ニ過量ニ使ヘバ必ズ相當土地ノ荒廢ヲ來スト云フコトハ學者ノ定論デゴザイマス、故ニ知識ノ進シタル農民ハ、此單一肥料ヲ使フヨリモ、三要素ヲ具備シタル新肥料ヲ使フト云フコトガ、農家ソレ自身ノ耕作上何等危險ノナイモノデアルト云フコトニ氣ガ付イテ、所謂硫酸ノ消費量ト云フモノ

ハ、増加ノ趨勢ガ激減シテ、之ニ代ッテ三要素ヲ具備シタル新肥料、所謂「アンモニアス」其他ガ急ニ増加シタルニハアラズヤト判斷スル所以デゴザイマス、斯様ナ狀態デアルノニ、昭和四年度ヨリ一箇年五萬噸宛増加スルノデアルト云フ計畫ハ、全體何ヲ基礎ニシテ斯様ニ架空ノ數字ヲ御示シニナッタノデアアルカ、殆ド解スルニ苦シムノデアリマス、即チ本計畫ハ、一箇年二五萬噸宛増加スルト云フ計畫ヲ御立ニナッタ事柄ハ、計畫ヲ立テテ爲ニ斯様ナ數字ヲ羅列シタノデアリマシテ、何等根據ノナイ極メテ薄弱ナル計畫デアルト申上ゲタモ、政府當局者ニ於テハ之ニ對スル御答ガ出來ナイト私ハ思フノデアリマス、假ニ政府ノ御計畫ノ通り五萬噸宛増加致スト見タ所ガドウナルカ、假ニ此計畫ノ通り肥料ノ需要ガ進ムト見マシテ研究ヲ致シテ見ルト、昭和四年度ニハ僅ニ五千噸賣ルニ過ギナイ、昭和五年度ニハ三萬三千噸賣ルニ過ギナイ、而シテ十年後ニ至ッテ、其當時ノ消費量ガ今後一箇年五萬噸宛増加スルト見テ、是ガ九十五萬噸トナッテ、其二割九分ノ約二十七萬五千噸ヲ管理スルニ過ギナイノデアリマス、十年後ニ至ッテ僅ニ硫酸ノ總消費量ノ二割九分ヲ國家ガ管理スルニ過ギナイノデアリマス、此場合ニ於テ私ハ昭和元年度ニ農林省カラ發表シタ調査ニ依テ見ルト、全窒素系ノ肥料ノ累計ハ豆稻其他總テ合セマス、二百六十四萬七千八百噸ノ多キニ達シテ居リマス、而シテ同年ニ於ケル硫酸ノ消費量ハ四十萬噸デアリマシテ、約百分ノ十五ニ相當シテ居ルノデアリマス、ソコデ今他ノ窒素肥料ノ需要ハ増加致サナイデ、硫酸ノミガ政府ノ豫定通り増加スルト假定致シマシテ、十年後ニドウナルカト云ヘバ、計畫通りニ硫酸ノミガ増加シテ、他ノ窒素系ノ肥料ハ増加シナイト見タ場合ニドウナルカト言ヘバ、即チ昭和十三年度ニ於

テ九十五万噸ノ需要ニ對シテ、其管理額ニ
十七万五千噸ト云フモノヲ、全窒素肥料ノ
總噸數二百六十四万七千八百噸ニ比ベ
ト、管理額ハ十年後デモ十分ノ一デアリ
マ、是ハ總噸數デゴザイマシテ、窒素ノ分
量ニ付テ申上ダテ居ルノデアリマセヌ、
窒素ノ分量ニ於テハ以上ニナルコトガア
ルデアリマセウ、ケレドモ、兎ニ角總噸數
ニ付テ申上ダルト、今後十年後デナケレバ
十分ノ一ニ達シナイ、是ハ他ノ肥料ハ一切
増加シナイト假定シテ、ゴザイマス、十年
後ニ至テ僅ニ十分ノ一ニ過ギザル所ノ
肥料ヲ國家ガ管理シテ、ソレデ肥料ノ價格
ノ安定ト配給ノ公平ヲ得ルト云フコトハ、
如何ニモ大袈裟ナ吹聴デアルヤウニ私ハ思
フ、加之前段申上ダマシタ通り、五万噸増
加計畫ハ全然基礎ガゴザイマセヌデ、先程
申上ダマシタヤウニ、新肥料ニ對スル農民
ノ需要ガ今後合理的ニ増加シテ行クト云フ
コトハ明デアルト致シマシタナラバ、十箇
年間ニ此計畫ヲ徐々ニ實行スルト云フヤウ
ナ此計畫ハ、其途中ニ於テ既ニ必要ナキニ達
スルト私ハ信ズル次第デゴザイマス、即チ
私ハ本計畫ハ極メテ根據ナキ基礎ニ依テ立
テタル計畫ニシテ、而シテ斯ノ如キ少量ヲ
以テシテハ、到底肥料ノ配給ノ圓滑ト價格
ノ安定ヲ期スベカラズト信ズル理由ノ第一
デゴザイマス、ソコデ起ル問題ハ、政府ハ
産業組合ノ手ヲ通ジテ果シテ農民ニ安キ値
段ノ肥料ヲ、商賣人ヨリ以下ノ値段ノ肥料
ヲ供給シ得ルヤ否ヤト云フ、極メテ具體的
ノ事實、最も必要性ノアル問題ニ付テ、私
ノ所見ノ一端ヲ申上ダテ見タイト思フ次第
デゴザイマス、其點ニ付テ政府ノ御答辯
ハ、前申上ダマシタ通りデアリマスカラ略
シマスガ、第一此管理法ニ依テ見マシテ
モ、政府ノ産業組合ニ御賣リニナル値段ガ
如何デアルト云フコトデゴザイマス、其
値段ハ法律ニ示シテ居ル通り時價デ販賣ス

ルノデゴザイマス、時價トハ何デアルト
言ヘバ、其時ノ東京、大阪等ノ市場ニ於テ、
問屋ガ各地方ノ商人ニ賣ル値段ト申シテ大
體差支ナイトノコトデゴザイマス、即チ其
當時ニ於ケル所ノ市價ト見テ大體差支ナイ
ト思フノデアリマス、即チ時價デ政府ガ賣ル
ノデゴザイマス、此場合ニ於テ政府ハ確ニ
損ヲスル、何トナレバ商賣人ガ買入レ、貯
藏シ、引渡ニ要スル手数料、政府ガ買入レ及
其他ヲスル手数料トニ於テ、政府管理ノ諸費
用ト商賣人ノ費用ト其間ニ差ガアルカラ、
市價デ賣ルコトニ依テ政府ガ或ル程度ノ損
ヲスルコトハ明瞭デアリマス、併シ私ハソ
ノ事ニ付テハ申上ダマセヌ、損ヲシテモ
農民ニ安價デ肥料ガ供給出來レバ差支ナイ
ト云フノガ私ノ意見デアルカラ、或ル程度
ノ損ハ構ハヌノデアリマス、故ニ時價デ賣
ルト云フコトデアリマスカラシテ、産業組
合ニ政府ガ直接賣ル値段モ、問屋筋ガ地方
ノ商人ニ賣ル値段モ、同ジデアルト申上ダ
テ差支ナイノデゴザイマス、併ナガラ其後
ニ於テノ問題ハドウナルカト云ヘバ、政府
ガ産業組合ニ賣ル、而シテ商賣人ハ政府ト
同ジ値段デ問屋カラ買テ農民ニ賣ル場合
ニ於テ、何方ガ安く賣レルカト云フコトニ相
成ルノデアル、是ニ於テ所謂山本農林大臣
ノ常識判斷ガ必要ニナル、所ガ其常識判斷
ハ遺憾ナガラ私ノ調査ノ範圍デハ外レタ、
山本農林大臣ハ常識上安く賣レナケレバナ
ラヌト申シマスガ、實際ハサウデゴザイマ
セヌ、更ニ此誤解ハ農林大臣バカリデハゴ
ザイマセヌ、實ハ此本會議ニ提案ニナル前ニ、
昨年デアリマシタカ、二三ノ調査委員會ノ位
置ヲ占メタ重要ナル人ノ御意見ヲ伺ヒマシ
タ所ガ、其人ハ斯ウ言フ、君ハサウ言フケ
レドモ、政府ガ儲ケズニ産業組合ニ賣ルノ
デカラ、運賃タケデ濟ムノダ、成程運賃タケ
デ濟ムベアイ、併ナガラ是ハ産業組合ノ内
容如何ヲ知ラザル所ノ誤解ヨリ生ジタルコ

トデアルト思フ、肥料調査委員ト云フ方々
ハ、大抵學者トカ政治家トカ、東京邊リニ
居ラレル人デゴザイマシテ、遺憾ナガラ地
方ノ産業組合ノ狀況ナドヲ能ク御知リニナ
ラヌ人ガ多イト思ヒマス、故ニ調査委員ノ
方々ハ、運賃ヲ加算スレバ、産業組合モ損
ヲシナクテモ賣レルト思フ、テ居ラレルノデ
アルガ、是ハ誤解デアルト云フ遺憾トスル、
ソコデ政府ガ産業組合ニ賣ラセル場合ニ
於テ、凡ソ幾何ノ手数料ヲ産業組合ガ肥料
需要者カラ取テ差支ナイカト云フ、政府委
員ノ具體的ノ御説明ヲ拜聴スルト、大體ニ
於テ購買組合聯合會等ノ費用ヲ入レテ、一
噸ニ付テ四五圓ノ手数料ガ掛ルト答ヘラレ
タ、成程四五圓掛ルデアリマセウ、ソレ以
下デハドウシテモ組合ガ立タナイ、手数料
ハ組合ノ利益デアアル、然フバ商賣人ハドウ
云フ風ニ賣テ居ルカト云フト、非常ニ特殊
ノ場合ヲ取除イテハ、現在ニ於テハ内地品
デ言ヘバ一袋ニ付テ十錢、高イ所デ二十錢、
十五錢平均位デ大抵賣テ居ルノデゴザイ
マス、一袋十五錢トスレバ、一噸ク二十六
袋デゴザイマスカラ、普通ニ商賣人ノ賣ル
ノハ三圓九十錢バカリノ利益デアリマス、
即チ政府ガ産業組合ヲ通ジテ賣ル値段モ、商
賣人ガ地方ニ於テ賣テ居ル値段モ大體ニ
於テ違ヒガナイ、サウ申スト政府ノ方デハ
此表ヲ御出シニナル、即チ中央市場ノ價格
ト、地方ニ於ケル小賣ノ價格トノ比較ヲシ
テ、二十圓モ三十圓モ高イ所ガアルト云ハ
レル、成程高イ所モアリマセウガ、是ハ季
節的或ハ場所的ノモノデゴザイマス、先達
政府ガ委員會ニ御出シニナシタ其表ノ中デ、
私ノ選舉區ノ栃木縣鹽谷郡ニ氏家町ト云フ
ノガアルガ、最高ノ小賣價格ヲ示シテ居ル
ノデゴザイマス、殆ド栃木町邊ヨリ三倍
ノ利益ヲ取テ居ルヤウニ出來テ居ル、私極
メテ奇怪ナル現象デアルト存ジマシテ、之
ヲ詳細ニ調査致シマシタ、所ガ此地方ハ大

體ニ於テ硫安ヲ使ハナイ地方デアアル、畑ハ
殆ドナク、水田ニハ何故使ハヌカト云フト、
多量ノ用水ガアル所デ、之ヲ使ヒマシテモ
流出ノ虞ガアルカラ使ハナイノデアリマシ
テ、ドウ云フモノニ使フカト云フト、僅ナ
ガラ野菜畑ニ使フノデアアル、一袋ト纏メテ
買ハナクシテ、一斗トカ、五斗、三斗ト買
フモノヲ調べテ之ガ高イト云フノデアアル、
斯様ナ實例ガ澤山アル、更ニ季節的ノ高イ
所モアル、是ハ群馬縣ノ館林町デアリマス
ガ、昭和三年五月ノ調査ニ於テ、其利益ハ一噸
ニ付テ五十四錢デアアル、六月ニ至テ一圓八
錢、七月ニ至テ十二圓六十九錢トナルノデ
ゴザイマス、之ヲ見ルト、實際ヲ知ラナイ
御方ハ成程ドウモ商賣人ハ惡イ事ヲスル、
商賣人ガ暴利ヲ貪ルト誤解ナサルデゴザイ
マセウガ、實際ハサウデハナイ、即チ五月、
六月ハ彼ノ地方ニ於ケル硫安ノ消費時期デ
アルカラ安イノデアアッテ、七月ニナルト殆ド
需要ガナイノデアリマス、需要ガナイカラ
品物モ商賣人ノ手許ニナイ、唯野菜ヤ何カ
ニ使フ爲ニ一斗、二斗ト買ヒニ來ル、サウ
スレバ高クナルノハ當リ前デアアル、左様ニ
肥料ノ無クナツタ場合、肥料季節ノ經過シ
タ時ニ一袋ト纏ラズ五斗、一斗モ買フタモ
ガ非常ニ高イ統計ニ現レテ來テ、地方ハ高
イノデアアル、配給ガ惡イノデアアル、商人ハ
儲ケルノデアルト云フ論斷ハ、私ハ實際地
方ノ實情ヲ知ラザル間違。タ意見デアルト
論斷スル次第デアリマス(拍手)即チ時期ニ
依テ、場所ニ依テ、非常ニ高イモノガ表ニ現
レマスカレドモ、是ハ一袋ト纏ラズ一斗ト
デゴザイマセヌデ、一斗、二斗、或ハ一斗ト
云フヤウナ極メテ少量賣賣ルノデゴザイマ
スカラシテ、斯様ニ高ク賣フナケレバ商人
ガ引合ハナクナルノデゴザイマシテ、大體
ヲ言ヘバ適當ノ時期、適當ノ場所ニ於キマ
シテハ一噸ニ付キ四五圓ノ純益ヲ以テ賣ル
モノデアルト云フコトハ明ナル事實デゴザ

イマス、サウスレバ政府が産業組合ノ手ヲ通ジテモ、決シテ之ヨリ安ク賣ルコトハ絶對ニ出來マセヌ、若シ安ク賣ラセレバ、産業組合其モノハ潰レテシマウト諒承シナケレバナラヌト私ハ思フ(「簡單」ト呼フ者アリ)御尤ノ御言葉デアリマスガ、非常ニ誤解シテ居ル方ガアリマスカラ、誤解ヲ解ク爲ニ多少ノ時間ヲ費スコトヲ御許シテ願ヒタイト存ジマス、過般委員會ニ於テ、産業組合ガ果シテ何程位ノ手數料ヲ取ツテ農民ノ賣ルノデアルカト云フ質問ヲ致シマシタ、所ガ政府委員ハ各方面ノ、極メテ手數料ノ少ナイ所ヲ吾々ニ示シタ、或ル場所ニ於テハ一圓、或ル場所ニ於テハ一圓五十錢、或ル場所ニ於テハ一圓八十錢等デアルト稱シタ、ソレハサウ云フ所モアリマス、商賣人デモ一圓モ、五十錢モ、六十錢モ損ヲシテ居ル者モ澤山アル、或ル場所ニ依テハ一噸ニ付一圓カ或ハ一圓五十錢ノ利益ヲ供給シテ居ル所モゴザイマセウガ、是ハ極メテ取除ケデゴザイマス、大體ニ於テ政府委員ノ御説明ノ通り、一噸ニ付四五圓ノ手數料ヲ取ルニ非ザレバ、到底組合ノ經營ヲ維持スルコトガ出來ナイト云フコトデゴザイマス、ソコデ私ハ政府ノ産業組合ニ對スル信用程度ヲ研究シテ見タイト思フ、政府ハ今度肥料ノ管理ヲ爲スニ當リテ、非常ニ此産業組合ヲ確カナモノデアルカノ如ク言ヒ出シタ、主トシテ産業組合ニ賣出サセル、農會ニハ成ベク賣出サセヌ、是ハ勿論御尤ナ御意見デアルト思フ、日本ニ産業組合ガ多數アリマスケレドモ、私共ハ遺憾ナガラ産業組合ガ商行爲ヲ敢テシテモ間違ヒナイ産業組合ハ、數アル中デ少ナイト思ヒマス、政府モ其御意見デアルト思フ、私ハ何故其意見デアるかト言フナラバ、昨年御承知ノ通り三千万圓バカリヲ低利資金トシテ農村ニ御貸付ニナタ、肥料ノ資金トカ云フ名目デ、選舉ノ前御貸付ニナラントシタ

ガ、其金ヲ産業組合ヲ信ズナラバ、何故全部産業組合ヲ通ジテ御貸付ニナラナカッタノデアるか、三千万圓ノ中デ、産業組合ヲ通ジテ貸付ケタモノハ五百万圓位デ、残りノ二千五六百万圓ハ、全然産業組合ヲ信ゼズシテ農工銀行及勸業銀行ヲ經由シテ高イ歩ヲ拂テ貸シタデアリマセヌカ、是ハ要スルニ政府ガ産業組合ヲ信ジナイト云フ、一ツノ理由ニ相成ルト思フノデゴザイマス(此時發言スル者アリ)ドウゾ砂田サン、御立腹ナク此演壇ニ登テ御答ヲ願ヒマス、假ニ産業組合ヲ通ジテ政府ガ賣ラシメルコトガ幾分ナリ安ク出來ルト假定致シマシテモ、茲ニ如何ナル結果ヲ生ズルカト云フコトヲ見ナケレバナラヌノデアリマス、成程場所ニ依テハ非常ニ——産業組合ノ進ンダ所ハ別デゴザイマスルガ、普通ノ所ニアリマシテハ、産業組合ト云フモノハ、大體ノ場合ニ於テ無産階級、全然資産ノ無イ農民ヲ信ジマセヌ、是ガ即チ産業組合ガ眞ニ其機能ヲ發揮出來ナイ理由ノ一ツデゴザイマス、實際ハ其通りデゴザイマス、ソコデ今度ハ安イ肥料ヲ産業組合ニ政府ガ賣ル、ソレガ商賣人ヨリ安ク賣レルト假定致シマシタ場合ニ於テドウナル、硫酸ノ全部ヲ國家ガ管理スルナラバ別デゴザイマス、産業組合ガ賣ラントスル肥料ノ全部ヲ供給スルナラバ別デゴザイマスルガ、其中ノ僅ヲ供給スル場合ニ於テ、ドウ云フ風ニ政府ガ産業組合ニ安ク供給シタル肥料ガ分布サレルト思フノデアるか、私共ハ斯ウ云フ結果ヲ生ズルト思フ、多クノ場合ニ於テハ、其地方ノ有力者、産業組合ニ直接ノ關係アル人、所謂地方ノ有志、實力ノアル人ニ多ク此安キ肥料ガ賣渡サレテ、産業組合ニ全然關係ナキ貧シキ農民、小作人等ニハ、幾ラ産業組合ガ供給セント致シマシテモ、富裕階級ノ農民ガ安キ肥料ヲ多ク取ツテシマツテ、貧民階級ニハ一切之ヲ供給スル能ハ

ザル現状ハ確ニ事實デアルト私ハ思フ(拍手)斯ク申上ゲマスレバ、即チ是ニ於テ肥料ノ公平ナル分配ドロコデハナイ、極メテ不公平ナル所ノ肥料ノ分配デアル、地方ノ有志ト云フ人、産業組合ニ直接ノ關係アル人ニハ安イ肥料ヲ供給シ、無産階級及農民ノ小作人階級ニハ、商賣人カラ高イ肥料ヲ買ハネバナラヌト云フ状態ニアルノデゴザイマス、即チ斯ウ云フコトニ依テ肥料ノ不公平ナル分配ヲ來スコトハ明デアリマス(拍手)更ニモウ一步譲テ、安ク相成ルト假定致シマシタ場合ニ於テ、モウ一ツ生ズル所ノ弊害ハ、産業組合ハ成程其數ハ澤山アリマスルケレドモ、産業組合ノ機能、殊ニ産業組合ノ中ノ購買販賣組合ノ機能ヲ充分ニ發揮サレテ居ル所ハ、極メテ小部分デゴザイマス、故ニ若シ商賣人ノ賣ル肥料ヨリモ、産業組合ガ政府ヨリ買テ賣ル肥料ガ安イト致シマシタナラバ、極メテ一局部ニハ安イ肥料ガ供給サレテ、他ノ大部分ニハ商賣人カラ高イ肥料ガ供給サレルト云フコトニナルノデアリマスルカラシテ、此場合ニ於テモ肥料ノ不公平ナル分配ヲ來スコトハ極メテ明ナル所デゴザイマス(拍手)更ニモウ一ツ私共ノ憂フル所ハ、今日マデ地方ノ縣農會、郡農會等ニ於テ、肥料ノ共同販賣ヲ致シマシタガ、其成績ト云フモノハ中々旨ク行カナイト云フコトハ、是ハ各府縣ニ於テ起テ居ル事情デアルト思フノデゴザイマス、勿論全部トハ行カヌデゴザイマセウガ、大體ニ於テ郡農會ノ共同購入モ、縣農會ノ共同購入モ失敗ニ終テ居リマス、何故サウ云フ結果ヲ來シタカト言ヘバ、是ハ是等ノ機關ト云フモノハ、農民ヨリ申込ヲ取ツテ之ヲ引渡サマデニ相當ノ時間ヲ要シ、其時間ヲ要シテ居ル間ニ、肥料ハ非常ニ低落シタト云フヤウナ場合ガ多クアルノデアリマスカラ、其場合ニ於テハ産業組合ハ肥料ヲ買受ケタケレドモ、之ヲ一般農民ニ配給ス

ル頃ハ價格ガ非常ニ下落シテ、農民ハ他ノ商賣人ヨリ買テシマツテ、農會ガ是ガ處理ニ窮シタト云フコトガ多クアルノデゴザイマス、是ハ勿論産業組合ガ直接商賣人ヨリ買テ賣ル場合ニ於テモサウデゴザイマスガ、政府ノ遣方ハ極メテ時間ガ掛ル、價格ノ公示ヲナス等其他種々ノ理由ニ依テ、政府委員ノ答辯ニ依リマシテモ、殆ド二箇月ハ掛ルサウデゴザイマス、即チ申込ヲ受ケテ、ソレカラ配給スルマデニハ二箇月掛ルノデゴザイマス、其間ノ價格ノ變動ニ依テハ、變動ノ狀況ニ依テハ、ソレガ爲ニ組合ノ根本ヲ破ルト云フヤウナコトニナル虞モアルノデゴザイマス、是ハ勿論産業組合ガ直接商人ヨリ買フ場合ニ於テモアル事デゴザイマスガ、商賣人ヨリ産業組合ガ買フヨリモ、政府ノ手ヲ經テ買フト云フコトガ非常ニ多クノ時間ヲ要スル、時日ヲ要スルカラシテ、其時日ヲ要スルダケソレダケ價格ノ變動ガ生ジ、或場合ニ於テハ低落シ、ソレガ爲ニ産業組合ガ大破綻ヲ來スト云フ虞モアルト云フコトハ、是亦看過スベカラザル事實デアルト私ハ思フノデゴザイマス(拍手)モウ一ツ私共ノ心配スルノハ、臨時賣ノ爲ニ、政府ノ謂フ臨時賣ノ爲ニ、却チ配給ヲ不完全ニシ、價格ノ不安定ヲ來スノデゴザイマス、何故サウ云フ結果ヲ來スカト言ヘバ、商賣人ガ何等ノ障害ナシニ自由競争スル場合ニ於テハ、其地方々々ノ數年來ノ需要消費ノ程度ヲ能ク調査致シマシテ、之ニ對スル所ノ必要ナル品物ヲ買入レ、之ヲ配給セントスルノデゴザイマスガ、茲ニ一ツノ邪魔物ガ出來ルノデゴザイマス、其邪魔物ハ何デアるかト言ヘバ政府デゴザイマス、政府ハ或一定ノ倉庫ニ貯藏シテ置イテ臨時賣ニ供スル、併ナガラ暴騰ノ場合ニ於テ賣ルト云フノデアるか、其暴騰ガ何時ダカ分ラヌ、何時ガ暴騰スルカ分リマセヌカラ、是ニ於テ商賣人ガ何處其處ニアル肥

料ハ何万噸、何千噸アルガ、ドノ相場ニナレバ政府ガ賣出スカト云フコトハ分リマセヌカラシテ、即チ商賣人ガ自分ノ賣ル品物ノ手控ヲスルコトハ當然デアルト私ハ思フ、左様ナ場合ノ起ルコトハ當然デアアルガ故ニ、自由競争ニ委シテ置ケバ各地ニ圓滿ニ配給サレモノガ、政府ガ暴騰ノ場合ニ於テ之ヲ賣リ渡スト云フコトガアル爲ニ、其賣渡スコトニ依テ市價ノ低落ヲ恐レテ、即チ買フベキモノヲ買ハズシテ、其結果ハ却テ配給ノ不圓滿トサウシテ價格ノ不安定ヲ來スト信ズル次第デゴザイマス(拍手)即チ臨時賣ノ機能ハ政府ガ十分ニ之ヲ運用スルコト能ハズ、何故運用ガ出來ナイカト言ヘバ、所謂此計畫ニ現ハレテ居ル通りニ、臨時賣ノ場合ニ於テモ、定時賣ノ場合ニ於テモ、政府ハ或一定ノ價格ヲ公布シテ賣ルノデゴザイマス、商賣人ノヤウニ直グ賣ルコトハ出來ナイノデゴザイマスカラシテ、此場合ニ於テ臨時賣ノ機能ヲ十分發揮シテ運用スルコトハ出來ナイト同時ニ、其運用セントシテ貯藏シテ置ケ肥料ノ爲ニ、却テ肥料ノ配給ノ不完全ト價格ノ不安定ト來スト云フ結果ニ相成ルト、私ハ固ク信ズル次第デゴザイマス、加之内地ノ硫酸ノ内地生産ノ狀況ガ、ドウナテ居ルカト云フコトヲ見ルト云フト、明ニ近キ數箇年ノ中ニ輸入ヲ待タズシテ、内地ニ於テノ生産ガ内地需要ニ應ジ得ルノミナラズ、進シテ外國ニ向テ輸出スベキ數量ガ内地ニ於テ生産サレルト云フコトハ、極メテ現實ナルコトデゴザイマス、是ハ其途ニ精通スル人ノ話ヲ聞クト云フト、各方面ノ事業家ガ、此計畫ヲ立テマシテ、昭和十年迄ニ六百万噸ニ達スルト云フコトデゴザイマス、サウ致シマスレバ政府ノ計畫ハ、昭和十二年ニナッテ九十五万噸デゴザイマス、其三年前ニ百万噸ニ達スルト云フコトニ依テ、内地ニ於ケル配給ハ完全ニ行ハレルトニ相成リマシ

テ、隨テ市價モ安定スルト云フコトハ明デゴザイマス、此問題ニ付キマシテハ、私極メテ重要ナル問題ト信ジマシテ、豫算分科會ニ於テ、商工大臣ノ御意見ヲ伺ヒマシタル所ガ、商工大臣ハ遠カラザル將來ニ於テ、必ズ硫酸ハ自給自足ノ域ニ達スルト云フコトヲ申サレマシタ、尙ホ委員會ニ於キマシテ、商工省ノ政府委員吉植君ノ説明ヲ求メマシタ所ガ、之ニ對スル各辯ハ先程農林大臣及大藏省府委員ノ御答辯ト違タ説明ノヤウニ思フノデゴザイマス、即チ私ガ外國物ノ投資、或ハ外國品ノ非常ニ低落シタ場合ニ於テ、政府ハドウシテ内地工業ヲ保護スルノデアルカト質問ニ對シテ、吉植政府委員ハ關稅政策ニ依テ或ル期間、ソレト對抗出來ル、五年トカ七年トカ云フ年限ノ中ニハ同ジ「レベル」ニ迄行ケルト云フ見込ガ立ッタル、其間タケハ關稅政策ヲ保護シナケレバナラヌ、是ハ先刻話シテ通り此案ヲ捨ヘル當時、豫メ商工省ト農林省ト打合セテ、大藏省トモ了解シテ居ルガ、サウ云フ心配モ起リ得ル、斯ウ云フコトハ想像デモ、推定デモ絕對ナコトデハナイト思フ、有リ得ルコト、思フノデアル、サウ云フ場合ニハ此方法デ農林省モ商工省モ大藏省モ議論ナシニ關稅政策ニ依テ是デ行カウ、斯ウ云フ風ニ話ヲ付ケテ置イタ次第デアリマス、若シ今ノ御話ノヤウナ獨逸ガ不當廉賣、「ダンピング」ト云フコトデ、ヤッテ來レバ法律デ防グコトガ出來マスガ、左モナクテ、ジリト本當ニ持久戰ニナッテ來タ時ニハ、我國ハ關稅政策ニ依テ是ト闘ハナケレバナラヌ、斯ウ云フ主管省ノ政府委員ガ明言シテ居ルノデゴザイマスカラシテ——但シ是ガ宜イカ、惡イカ、此關稅政策ニ依テ製造工業者ヲ保護シテ、而シテ農民ニ高キ肥料ヲ供給スルト云フ結果ニ相成ルコトガ宜イカ、惡イカ存ジマセヌ、其議論ハ別デゴザイマスルガ、現内閣ハ少クトモ此方

針ノ下ニ立ッテ居ルト云フコトハ、主管省タル商工省ノ政府委員ガ明言シテ居ルコトデゴザイマスカラ、即チ關稅政策ニ依テ内地ノ生産工業ヲ完全ニ保護スルト云フコトガ現内閣ノ政策デアルト致シマスレバ、近キ將來ニ此百万噸計畫ト云フモノハ必ズ完成スル譯デゴザイマス、必ズ完成致スコトハドウ云フ結果ヲ來スカト云ヘバ、内地ノ需要ハ十分ニナリ、配給ハ圓滿ニナリ、サウシテ價格ハ安クナル、安定スルト云フコトハ明デゴザイマス、尙ホ價格ノ狀況ガドウナッテ居ルカト云ヘバ、非常ニ最近高低ガ少クナッテ、價格モ亦非常ニ安クナッタノデゴザイマス、即チ大正十四年度ニハ二〇三デアリシモノガ、昭和三年ニハ二二八ニ下ッタノデゴザイマス、又一年中ノ價格ノ變動ノ範圍モ大正十一、二年ノ頃ハ最高ト最低ガ四、五十「パーセント」デアリシモノガ、昭和二年ニハ百分ノ二十三ニナリ、昭和三年ニハ一五ト云フ數字ヲ現シタノデゴザイマシテ、非常ニ價格ガ年々下ッテ來タ、而シテ高低モ非常ニ少クナッタト云フコトハ、著明ナル事實デゴザイマス、斯ノ如キ數年ノ近キ將來ニ於テ内地ニ於テノ生産ガ十分ニナッテ、配給ガ完全ニナリ、價格ハ安定スルト云フ場合ニ於テ前申上ダタヤウニ最早硫酸ノ肥料消費ノ趨勢ハ非常ニ減ッテ來タ今日ニ於テ、此法律ヲ出シテ、一面ニハ國庫ニ損害ヲ及ボシ、他面ニ於テ各種ノ弊害ノ伴フ所ノ法案ヲ茲ニ決議スル必要ハナイト思フノデゴザイマス、然ラバ是ニ於テ一ツノ問題ガアルノデゴザイマス、ソレハドウ云フ問題デアルカト云ヘバ、産業組合ニ御精通アラセラル、所ノ土井君ノ御話デゴザイマス、是ハ御尤ノ理窟デアアル、即チ産業組合ガ賣ルコトニ依テ、土井君ノ御話ヲ引用スレバ、假令價格ハ政府ノ賣ルコト、或ハ又商賣人ヲ經テ農民ガ買フ値段ト、大差ガナクとも、産業組合ノ賣ル値段ト、

商賣人ガ賣ル値段ガ同ジデアッテモ、産業組合ハ自分ノ資金デ經營シテ居ルノデアアルカラシテ、一噸ニ付テ四五圓ノ利益ト云フモノハ産業組合ノ利益ニナルノデハナイカト云フ、此點ハ承服致シマス、此點ハ其通りデゴザイマス、併ナガラ此事ヲ實行スルコトニ付キマシテモ、何モ政府ノ手ヲ經ナクテモ私ハ出來ルト思フ、現ニ各方面ノ優良ヲ購買組合ハ政府ノ御厄介ニナラズシテ、府縣ノ聯合會ヲ通ジ、或ハ中央ニ於ケル購買販賣聯合會ヲ通ジマシテ、直接問屋ヨリ安イ肥料ヲ買ッテ居ルノデゴザイマス、是ハ事實デゴザイマス、政府ガ時價ヲ以テ賣ルト云フコトハ——或ハ時價ヲ以テ賣ルト云フコトニスルト、私ハ非常ニ損ヲ受ル事思ヒマスガ、兎モ角モ政府ガ賣ル迄ニハ噸ニ付テ三、四圓ノ經費ヲ要スルノデゴザイマス、政府ガ輸入商ヨリ買ヒ、或ハ製造人ヨリ買ッテ之ヲ産業組合ニ賣ル迄ニ三圓ナリ四圓ノ經費ハドウシテモ掛ル、或ハ四五圓掛ルカモ知レヌ、斯様ニ政府ガ危險ヲ冒サズシテ産業組合ト製造業者、輸入商賣人トノ間ヲ、購買、販賣聯合組合ノ手ヲ通ジテ買ハシメ、其機關ガ本當ニ働カナクッタラバ、政府ハ農務局ニ適當ナル人ヲ置イテ、サウシテ此聯合組合ト相談シテ、今日以上ニ其間ニ立ッテ斡旋ノ勞ヲ執リマシタナラバ、政府ガ買ッテ賣ルヨリモ、安ク良キ肥料ヲ安全ニ供給シ得ルコトハ確デアルト私ハ信ズルノデゴザイマス(拍手)私ハ決シテ此問題ニ付テ無碍ニ反對スルモノデハナイ、斯様ニ政府ガ直接管理セズトモ極メテ簡單ナル方法ニ依テ、漸次組合ヲシテ賣ラシムルト云フコトガ、政府ガ賣ルヨリモ安イ肥料ヲ賣ラシムルコトガ出來ルト云フコトニ依テ、此問題ハ解決スルコトガ出來ルト思ヒマスカラ、之ニ反對スル次第デゴザイマス、最後ニ申サナケレバナラヌ事柄ハ、政府ガ果シテ本案通過ニ付テ誠意アリヤ否

ヤ、果シテ本案通過ヲセントスルノ御見込
ガアルカドウト云フコトデアリマス、去
九日ニ本案ハ第一讀會ノ續トシテ上程サレ
テアツタノデゴザイマス、私共ハ無論其九日
ノ日ニ本案ハ何トカ審議決定サルベキモノ
デアルト固ク信ジテ居タ、自作農維持制定
政策ト此政策ハ其内容ハ極メテ貧窮デア
レドモ、今ノ政府ノ非常ニ重要ナル政策
トシテ宣傳シタルデアリマス、其宣傳ニ誤
ラレテ内容ヲ見ズシテ、地方ノ農民ガ共鳴
シテ居ルノデアリマス、所ガ詮議シテ見レ
バ斯ノ通り、若シ政府ガ眞ニ此案ヲ通過セ
シメタイト云フ誠意ガアルナラバ、何故去
九日ノ日ニ此案ノ審議ヲ延期セシメタル
アルカ、極メテ時代ニ逆行スル所ノ區制案
ノ改正案ヲ出シテ、憲法付屬ノ法律ノ改正
ヲ今頃ニナツテ出シテ、ソレガ爲ニ政府ノ最
モ重要ナル政策ト云フ二ツノモノヲ九日、
十日、十一、十二、十三、十四、ト六日間
ヲ遅ラカシタ、是ハ要スルニ政府ハ此案ニ
付テ通過セシムル誠意ガナイノデハナイ
カ、成程農林大臣及農林當局ハ御熱心ト思
ヒマスアレドモ、商工大臣及大藏省ナドハ
コシナモノハ仕方ガナイカラ、農林大臣ノ
面目ヲ立テル爲ニ作タモノデアルカラ、マ
アドウデモ宜イト云フ考ガ關係ノ中ニ漲
テ居ル結果ガ、斯ク相成タニ非ズヤト私ハ
信ズル次第デアリマス、即チ現内閣ハ此二ツ
ノ政策ヲ重要ナリト稱シナカラ、内閣全體
ト致シマシテハ之ヲ通過セシムルノ誠意極
メテ少キモノトシテ、私ハ反對ノ理由ノ一
ツニ加ヘル次第デゴザイマス

○副議長(清瀬一郎君) 志波安一郎君

(志波安一郎君登壇)

○志波安一郎君 本案ニ依テ肥料ノ配給及
ビ價格ノ安定ヲ實際ニ於テ目的通り遂行シ
得ルカト云フコトニ對シテハ、私ハ其趣旨
ニ固ヨリ異存ハナイ所デアリマスルガ、其

内容ニ至リマシテ果シテ政府ノ所期ノ目的
ヲ遂行シ得ルカト云フコトニ付テハ、相當
不安ヲ持ツノデアリマス(拍手)故ニ私ハ特
ニ其不安ノ點ヲ警告致シマシテ、本案ニ贊
成スル者デアリマス、農村問題中ニ於キマ
シテ最も重要ナル點ハ、現在其生活ニ泣イ
テ居ル農民ノ生活狀態ヲ救フベク、努メナ
ケレバナラヌコトグラウト信ジマス、デア
リマスルガ、生活ニ最も深キ關係ヲ持ツモ
ノハ農民ガ生産スル其生産物ノ價格ヲ上ダ
テヤルカ、若クハ生産費用ヲ低減セシメル
コトガ是モ必要デアラウト云フコトヲ私ハ
考ヘル、生産費ヲ低下セシメル方法ハ何ニ
依テスベキカ、生産費中最モ重キヲ爲スモ
ノハ即チ肥料デアリマスルカラ、此肥料案
ニ對シテ政府ガ今日此肥料ノ解決ニ向ッテ
一歩ヲ進メタイト云フ場合ニ於テ、吾々其
内容ニ於テ一部ノ不安ガアリト雖モ、之ヲ
一蹴シ去レテ否決スル程ノ勇氣ヲ農民ニ對
シテ持タナイノデアリマス(拍手)農民ノ現
狀ハ申スマデモナク諸君ノ御承知ノ通り、
農ニ霜ヲ戴イテ出デ、タニハ月ヲ踏シデ歸
ルノデス、サウシテ夜々トシテ努力シタル
結果、果シテ人間並ノ生活ヲ爲シ得ルカト
言ヘバ、決シテソレハ出來ナイデ居ル、三
代掛シテモ尙ホ債務ヲ脱出スルコトガ出來
ズシテ、遂ニ國民中或ル階級ノ種族ニ屬ス
ル國民カノ如キ眼ヲ以テ見フレテ居ルト云
フコトハ、實ニ爲政者トシテ眼ヲ運ラサナ
ケレバナラヌ點デアラウト云フコトヲ吾々
ハ考ヘルノデアリマス(拍手)決シテ現在ノ
ミナラズ、三百年以前カラシテ農民ニ對シ
テ政治家ガ甚ダ冷淡デアツタト云フコトハ、
洵ニ遺憾千萬デアリマス(拍手)此狀態ヲ永
ク續クテ行ツタト致シマスレバ、國民中多數
ノ國民デアアル其農民ニ思想上ノ惡化ヲ來シ
タト致シマシタナラバ、政治家ノ責任ハド

ウナルデアリマセウカ、今日米穀ノ下落
ヲ叫ンデ、サウシテ東京マデ旗ヲ押立テ、
來ルト云フヤウナ時代ニ、吾々ハ此案ノ幾
ラカノ缺點ヲ見テ、之ヲ否決スルト云フコ
トハ、農民ニ對シテ思想惡化ノ誘因トナリ
ハシナイカ!云フコトモ亦考ヘナケレバナラ
ヌ點デアアルマイカ(拍手)今日ハ最も窮狀
ヲ叫ンデ居ル時デアリマス、故ニ吾々ハ茲
ニ考慮ヲ要スベキ時グラウト云フコトヲ考
ヘルノデアリマスルガ、現在ニ於テ此農村
ヲ吾々ガ巡テ視テ能ク分リマスガ、一方
ニ於テハ開墾助成法ト云フモノガアルニ拘
ラズ、到ル所ニ耕地ガ遊ンデ草茫々トシテ
居ルト云フコトハ、全ク彼等ノ生活ガ
今日脅カサレテ、其生活難ノ爲ニ都會
地ヲ指シテ流込シタル結果農地ガ荒レテ來
ル、助成シテ開墾シテ見タトキニハ農民ガ
居ナクナツタ、其結果ハ遂ニ何モナラナイ、
食糧問題モ解決ガ出來ナイト云フコトニナ
ルデアリマセウカ(拍手)斯様ナ有様ヲ見
マシタナラバ、吾々トシテ一刻モ早く彼等
ヲシテ生活ヲ安定セシムベク努メル必要ガ
アルグラウト云フコトヲ考ヘル故ニ、吾々
ハ此案ニ若シヤ不安ノ點ガアツタト致シマ
スナラバ、其點ハ是ヨリ改善スルト云フコ
ト、唯農村問題ニ付テ肥料ノ解決ニ一歩ヲ
進メタト云フコトニ對シテ、將來改善ヲ目
的トシテ、サウシテ此案ニ贊成シテ、農民
ニ同情スベキ時代ガ到達シタノダト云フコ
トヲ吾々ハ考ヘルノデアリマス、最も簡單
ニ私ハ茲ニ二三吾々ノ不安ト思フ點ヲ申述
ベテ見タイト思フ、此案ハ其趣旨ニ於テハ
宜シイガ、果シテ二千萬圓ト云フ最高限度
デ以テ、總アル有機質肥料ニ對シテマデモ、
其騰貴ヲ防グカヲ有スルヤ否ヤ、二千萬圓
ハ二千萬圓ダケノ效果アリトスレドモ、政
府ガ言フガ如キ總テノ肥料ニ向ッテマデモ、
ソレヲ抑制スルダケノ力ヲ有スルヤト云フ

コトハ、是ハ疑問ガアルノデアリマス、ソ
レハ政府ノ運用宜シキヲ得タナラバ、或ル
程度マデハ效果ヲ爲スデアリマセウカ、吾
吾ハ之ヲ以テ十分ニ目的ヲ遂行シ得ル程度
マデ行カナイト云フコトヲ、私ハ考ヘルノ
デアリマス、願クハ其運用宜シキヲ得テ農
民ヲ救済シ得タナラバ、是レ非常ナル幸
アルト思フ、次ニハ又此爲ニ國家ニ損失ヲ
來ス虞ナキヤト云フ問ニ對シテ、左様ナコ
トハアルマイト云フ御答辯デアリマシタ
ガ、ドウモ其點ニ付テハ今迄モ御述ニナリ
マシタガ、甚ダ不安デアアルノデアリマス、
政府ノ費用損失ニ對シテハ臨時賣ノ儲ニ依
テ之ヲ補填スルト云フテ居リマス、而モ十
年間ノ通算ニ依テ左様ニ計算ガ出ルノデア
ルカラ、心配ハナイト仰シヤッテ居リマス
ガ、臨時賣ヲ爲スベキ時ハ、農民ニ甚ダ苦痛
ヲ與ヘナケレバナラヌ時デアリマス、詰リ肥
料ガ騰貴致シマシテ、農民ノ苦痛ヲ感ズル時
デアリマス、左様ナコトガ度々參リマシテ
ハ困リマス、騰貴シタ場合ニ賣出ス、其肥
料ノ儲ニ依テ政府ノ缺損ヲ補填スルト云フ
コトデアアルナラバ、一方騰貴スレバ農民ニ
苦痛ヲ與ヘ、一方騰貴セザレバ政府ノ缺損
ヲ補填スル途ガナイト云フコトニナツテ參
リマス、何レニ致シマシテモ、果シテ豫期
スル通りニ臨時賣ヲ爲スベキ時機ガ到來ス
ルヤ否ヤ、若シ來ナカッタナラバ缺損補填
ヲスル途ナシト云フコトニモ言ヘルノデア
リマスカラ、之ヲ以テ完全ナモノデアルト
云フコトハ、吾々ハ言ヒ能ハヌノデアリマ
ス、次ニ感ジマスルノハ、肥料商ノ營業ヲ
壓迫スルコトハナイカ、無機質肥料ノ賣出
ニ依リマシテ商人ノ營業ヲ壓迫スルトスレ
バ、是亦社會問題ノ一ニナツテ參リマス、是
カラ段々確安等ノ供給ガ増加致シマスレ
バ、一方農民ノ需要ニハ限度ガアリマス、
其限度内ニ於テハ一ノモノガ殖エレバ他ノ

方ハ減ズルト云フコトハ當然ノ結果デアリマス、硫酸ノ需要ノ増加スルト同時ニ、一方豆粕等ニ至テハ需要ガ減ジテ参リマス、是ハ當然肥料商ヲ脅カス所ノ一ノ原因ニナルノデアラウト考ヘルデアリマス、尙ホ倉庫ニ入レテ置イテ、何時賣出サレルカ分ラヌト云フ結果、仕入控ヲ致シマスナラバ、先刻仰シヤッタ通り其價格ハ下落シナイデ、或ハ騰貴スル虞ガアル、需要供給ノ關係カラ、品不足ニナレバ騰貴スルコトハ勿論デアリマスガ、ソレヨリ吾々ガ憂慮スルコトハ、若シ田舎ニ於テ品不足ト云フコトニナリマシタ結果、農民ガ施肥スベキ時期ニ肥料ガナイト云フコトニナリマスレバ、農民ニ取テ大ナル苦痛デアルト云フコトヲ感ジマスルガ故ニ、斯様ナ點ニ於テハ、尙ホ餘程注意ヲシナケレバ、從來ヨリモ苦痛ヲ感ズルコトガ出來テ來ルデアラウ、其次ニ此肥料ハ産業組合ニ向テ現金ヲ以テ買ハセル、政府ガ賣出スノハ現金デナケレバ賣出サナイト云フコトニナッテ居リマスガ、其賣渡スノニ現金デアルト言ヘバ、今日マデノ習慣ハ田舎ニ行テ見マス、皆肥料商ヲ相手ニ肥料代ヲ借用シテ、來年ノ出來秋ニ於テ支拂フト云フ習慣ニナッテ居ル、然ルニ之ニ對シテハ現金ヲ以テ買ヘト云フコトニナルト、實際ニ於テ農民トシテハ其目的ニ對フコトガ出來ナイカラ、政府トシテハ當然之ニ低利ノ金ヲ御廻シ下サルモノト信ズル、又左様ナ意見ヲ持テ居ラレルト云フコトヲ聞キマスガ、其廻シ方如何ニ依テハ、矢張農民ハ此肥料ヲ買取ルコトガ出來ナイコトニナリハセヌカト云フコトヲ思フノデアリマス、是マデ低利資金ヲ廻サレル時分ニ、或ハ府縣町村等ヲ經テ、サウシテ町村ノ名ニ依テ借リタルモノヲ當業者ニ轉貸スルト云フ如キ方法ナラバ、或ル

方面ニ於テハ貸付ガ出來ルケレドモ、或ル方面ニ於テハ轉貸不可能ト云フコトニナリ、國民中此恩典ニ浴スル者ト、浴シ得ザルモノト出來、甚ダ不均一ノコトニナッテ参リマスノデ、吾々トシテハ此點ヲ大ニ憂慮スルノデアリマスカラ、今後ハ總テノ階級ニ向テ貸與ヘラレル方法ヲ講ジ、サウシテ之ヲ買ハスヤウニシテ貰ハナクテハ、肥料管理法ハ成立チマシテモ、佛造テ魂ガ入ラヌト云フ類ニ陥ルノデアリマス(拍手)ドウカ其點ヲ御注意ヲ願ヒタイ、デ申上ダレバ色々不安ノコトモアリマスガ、是マデ澤山述ベテ居ラレマスカラ私ハ申シマセヌ、今近來ノ肥料販賣ヲ見テ見マス、色々ノ點ニ付テ改善スベキ途ガアリハシマイカ、或ハ特約販賣ナド、言ッテ、一部ノ人ガ利益ヲ壟斷シテ一般ノ商人ノ損失ニナルノミナラズ、延イテハ農民ノ不利トナルト云フヤウナコトガアリマス、又今日附帶ノ決議トナッテ居ル事ノ如キモソレデアリマス、總テニ對シテ能ク注意ヲ拂ッテ、尙ホ調査研究ヲ致シマシテ、肥料政策ニ對スル根本的解決方法ヲ確立スルト云フコトヲシナケレバ、此案其儘デハ百年ノ大計ガ成立ツトハ、ドウシテモ吾々ニハ思ヘナイノデアリマス、其意味ニ於キマシテ吾々ト致シマシテハ、是ハ兎ニ角肥料問題ニ對シテ第一歩ヲ踏出シタモノナリトシテ、今申ス如キ不安ヲ吾々ハ感ズルノデ、其點ニ向ッテ御注意ヲ申上ダル意味ニ於テ、茲ニ警告ヲ讀上ダテ本案ニ對シ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス「一、本案ハ運用其ノ宜シキヲ得ザルニ於テハ目的ノ達成困難ナルノミナラズ國庫ノ損失ヲ招来シ且ツ肥料販賣業者ヲ抑壓スルノ虞レアリ政府ハ其ノ實施ニ當リ深甚ノ注意ヲ拂ヒ萬遺憾ナキヲ期スベシ、一、本案ニ由ル肥料ノ賣渡ニ際シ政府ハ農家ヲ

シテ其必要トスル資金ノ供給ニ均霑セシムベク最善ノ途ヲ講スベシ、一、本案ハ肥料問題ノ根本的解決ヲナスニ足ラズト認ム政府ハ更ニ調査研究ヲ重ネ速ニ其ノ國策ヲ確立スベシ(拍手)

○副議長(清瀨一郎君) 以上ヲ以テ討論ヲ終結致シマシタ、議題トナッテ居リマス兩案ヲ一括シテ採決致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ハ起立

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀨一郎君) 起立多數ト認メマス、兩案トモ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕〔賛成〕〔ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

肥料管理法案 第二讀會

肥料管理特別會計法案 第二讀會

〔異議ナシ〕〔ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀨一郎君) 別ニ御發議モアリマセヌカラ、兩案トモ第二讀會ニ於テハ委員長報告ノ通りニ決シマシタ、是ニテ兩案ノ第二讀會ヲ終了致シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ兩案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕〔賛成〕〔ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ兩案ノ第三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

肥料管理法案 第三讀會

肥料管理特別會計法案 第三讀會

〔賛成々々〕〔反對〕〔ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀨一郎君) 兩案ニ賛成ノ諸君ハ起立

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀨一郎君) 起立多數ト認メマス、仍テ兩案トモ可決確定致シマシタ(拍手起立)

○原惣兵衛君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出米穀需給調節特別會計法中改正法律案ヲ議題トシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕〔ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀨一郎君) 原君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕〔ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀨一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——米穀需給調節特別會計法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長高山長幸君

米穀需給調節特別會計法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一米穀需給調節特別會計法中改正法律案 (政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告ニ候也

昭和四年三月十五日

委員長 高山長幸

衆議院議長川原茂輔殿

〔高山長幸君登壇〕

○高山長幸君 只今議題ニ上リマシタ米穀需給調節特別會計法中改正法律案ノ委員會ノ經過並結果ニ付テ簡單ニ御報告申上ダマス、御承知ノ通り此問題ニ付キマシテハ、議員提出ノ法律案ト政府提出ノ法律案ト二法律案ガアルノデアリマスルガ、先ヅ最初ニ委員會ニ付託サレマシタ三輪市太郎君外

六十三名ノ提出ニ係ル改正法律案ニ付テ御報告申上ダマス、委員會ヲ開クコト四回、委員諸君ノ中カラ朝鮮、臺灣ニ於ケル產米ノ事項、或ハ米穀法運用ノ結果ニ付テノ特色ノ御質問ガアリマシタガ、之ニ對シテ國務大臣及政府委員カラ答辯ガアリマシタガ、要スルニ法律案ハ米價低落ノ現狀ニ鑑ミ、地方農民ノ休戚ニ關スル極メテ重要ナル法案デアリマスルガ、其精神目的ハ極メテ簡單デアアルノデアリマス、即チ運用資金ノ限度ヲ増加シ擴張スルト云フコトニ外ナラヌノデアリマス(拍手)本月四日ノ委員會ニ於キマシテ、川崎安之助君ノ御發議ニ依テ、特別委員ヲ三名選定致シマシタ、即チ三輪市太郎君、福井甚三君、池田龜治君ノ三君ガ此委員トナリマシテ、私委員長トシテ此三名ノ委員諸君ト内閣總理大臣並大藏大臣ニ交渉ヲシテ、政府ヨリ速ニ提案ヲスルヤウニ督促ヲ致シタノデアリマス、今日地方農民ノ狀態ニ於テハ、一日モ早ク此問題ヲ解決シテ、此農民ノ窮狀ヲ救フコト云フコトハ、一日ヲ緩ウスルコトノ出來ナイ必要デアッタト考ヘルノデアリマス(拍手)然ルニ偶、選舉法中改正案ノ議決ガ數日ニ互ッテ結了致シマセナカッタ結果、此問題ハ空シク數日ヲ遷延サレテ、漸ク昨日ノ本會議ニ於テ委員付託トナッタ次第デアアルノハ、甚ダ遺憾トスル所デアリマス、本日委員會ニ於キマシテ、此政府提出ノ改正法律案ハ滿場一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、隨ヒマシテ彙ニ提出ナリマシタ三輪市太郎君外六十三名ノ改正法律案ハ、提出者カラ撤回セラ

ルル意圖デアリマス、速ニ議決アラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告ハアリマセヌ、是ヨリ討論ニ移リマス——三輪市太郎君

○三輪市太郎君 質疑デアリマスカ

○副議長(清瀬一郎君) 討論デス——質疑ノ通告ハアリマセヌカラ、直ニ討論ニ入りマス、貴方ガ第一順位ノ討論者デアリマス(三輪市太郎君登壇)

○三輪市太郎君 只今議題トナリマシタ政府案ニ對シテハ贊成ヲスル者デアリマス、御承知ノ通り此政府案ノ提案サレル以前ニ、吾々同志ハ同様ノ案ヲ多數ヲ以テ提出致シマシテ、其數字ハ二億萬圓ノ増額ヲ求メルノデアリマシタガ、政府案ハ七千萬圓デアッテ、此數字ハ満足トハ言ヘナイノデアアル、又吾々ノ提出致シタル案ニ付テモ、實ハ衆議院ハ多數ヲ以テ通過スルモノト思考致シテ居リマシタガ、一面ニハ衆議院ガ假ニ通過致シマシテモ、貴族院トノ關係ヲモ考慮シ、又政府モ進ンデ茲ニ金額ハ少イト雖モ提案サレタ以上ハ、假令吾々ノ案ガ通りマシテモ、政府當局ガ此運用上ニ吾々ノ望ムガ如キ態度ニ出ラレヌトシテ見ルト、其效果ハドウデアアルカト云フコトノ疑モ生ズルノデアリマシテ、寧ろ政府案ハ金額ガ少クテモ、豫テ聲明サレタ通りニ、來ルベキ五十七議會迄ニハ根本的ノ政策ヲ樹テ、ソレデ米穀法ノ運用方針ヲ完全ニ樹立スルト云フコトノ御方針モ承ッテ居ルノデアアルカラシテ、一年間ノ調節トシテハ、茲ニ七千万圓ヲ増加サレテ見レバ、其運用宜シキヲ得ルニ於テハ差支アルマイカト思ッテ、アソコマデ進ンダ吾々ノ提案ヲ撤回スルノハ、涙ヲ吞ンデ撤回スルノデアアル、此上ハ政府ノ誠意アル所ニ信賴シマス、殊ニ現今ハ御承知ノ通り、中農以下即チ小農ノ米ヲ賣ルベキ時期デアアルカラシテ、速ニ此政府案ヲ通過ナサシメテ、政府ニ宜シク運用ヲシテ戴キ、即チ政府ヲ信賴シテ吾々ノ案ハ撤回スルノデアリマス、併セテ此政府案

ニ賛成スルノデアリマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 只今三輪君ガ撤回サル、ト言ハレタノハ、本院ニ於テハ三輪市太郎君外六十三名提出、米穀需給調節特別會計法中改正法律案ト名付ケタモノヲ指スノデアリマス、此撤回ハ他ノ提案者全部ヨリモ望マレテ居ルノデアリマス、之ヲ許スニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシノ聲起ル)

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ前記ノ案ハ撤回ニナリマシタ——田中隆三君

(田中隆三君登壇)

○田中隆三君 私も同志ヲ代表致シマシテ、本案ニ對スル贊成ノ趣旨ヲ一應申上ダタイト存ジマス(拍手)昨日本會議ニ於テモ申上ダマシタ、又今朝委員會ニ於テモ政府ノ御趣旨ノアル所ヲ能ク承リマシタ、シテ見マスルト、此法案ハ暫定的ノモノデアアル、一時的ノモノデアアル、應急的ノモノデアアルト云フコトデアリマス(拍手)其暫定的、應急的、一時的ト云フコトハ、ドウ云フコトデアアルカト申シマスレバ、米穀法ノ運用資金ガ二億七千万圓ナケレバナライト云フ意味デアハナイ、二億七千万圓トカ、三億萬圓トカ云フ、其數字ダケノ運用資金ガナケレバナライト云フ意味デアハナイ、現在ニ於ケル運用資金ト云フモノハ、段々固定シタモノモアリ、缺損シタモノモアッテ、残り少ナニナッテ居リマス、運用シ得ベキ金ハ昨日モ申上ダマシタ通り三千万圓位シカナイ、ソコデ其三千万圓ニ七千万圓ヲ加ヘテ、一億圓ノ實力ヲ以テ、米價調節ニ關スル何等カノ施設ヲスルノ實力ヲ茲ニ備ヘヤウト云フノガ、此本案ヲ政府ガ提出セラレタ御趣旨デアアルノデアリマス、サウ致シマスレバ、之ヲ條理ヨリ論ズレバ、茲ニ既ニ

缺損ニナッテ、所謂其實力ヲ缺イテ居ル所ノ七千万圓ヲ缺損填補ニスレバ、ソレデ矢張同目的ヲ達スルコトモ出來、又條理ニ適タコト、私共ハ思フノデアリマス(拍手)併ナガラ缺損填補ト致シマシテモ、私ノ勘定トハ違ヒマシテ、矢張政府ノ會計ニ關スル重大ナル事項デアルトシテ、矢張是ハ法律案ヲ提出シテ、法律改正或ハ法律ヲ新設スル手續ニ依ラナケレバナライノデアリマス、デ會期モ切迫シテ居リマスルシ、重要ナル案モ山ト積ンデ居ル此際デゴザイマスカラ道理ノ上ニ於テ吾々ハ缺損填補ノ法案ヲ出サウトシテモ、ソレハ今日ノ場合ニ於テ無理ナコト、思フノデス、甚ダ遺憾ニ存ジマスルシ、政府モ只今申上ダマシタヤウナ風ニ、是ハ暫定的デアリ、便宜的デアリ、一時的デアアル、法律ノ全般ニ付テハ色々ナ説モアリ、根本的ニ適シテ其事情ヲ調査研究シテ、改ムベキモノハ之ヲ改メ、場合ニ依テハ此法案ヲ廢止スルト云フコトマデモ進ンデ、根本的ノ調査ニ直ニ取掛ルト云フ御趣旨デアリマスカラ、其御趣旨ト、只今申上ダマシタ暫定的、便宜的ト云フ所ノ趣意ト兩方合セ、又私共ノ心持カラ言ヒマスルト云フト、七千万圓ト云フ缺損ヲ填補シテ、現在持ッテ居ル餘カト合セテ一億圓ノ實力ニ依テ政府ハ然ルベキ方法ヲ立テヤウ、但シ其一億圓ト云フモノモ、政府當局モ流石ニ御用心モアリ、又御考モアッテ、之ヲ使ッテ米ヲ買上ダルトハ仰シヤイマセヌ、或ハ是ハ傳家ノ寶刀トナッテ、此一億圓ノ力デ市場ヲ睨ンデ、睨ンダケデ調節ノ目的ヲ達スルカモ知レマセヌ、併ナガラ何時其實刀ガ抜カレテ、所謂之ヲ實際ニ用キラレルト云フヤウナコトガアルカモ知レマセヌ、是等ハ責任アル政府當局ノ爲サルコトデアリマスルカラ、私共ハ靜ニ其成行ヲ見テ居

リマシテ、次ノ議會ニ於テ又其方策ニ誤リ
アルナラバ、遠慮ナク攻撃シヤウト思ヒマ
ス、今日ハ已ムヲ得ズシテ之ニ賛成スルト
云フ趣旨ダケヲ申上ダテ置キマス(拍手)
○副議長(清瀬一郎君) 討論ハ結局致シマ
シタ、採決致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開
クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシノ聲起ル〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通
リ可決確定セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成ノ聲起ル〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部
ヲ議題ト致シマス

米穀需給調節特別會計法中改正法律案

第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御發議モアリ
マセヌ、仍テ第三讀會ヲ省略シテ委員長報
告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○原惣兵衛君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ日程第十八乃至二十二
ハ之ヲ繰上ダ、順次其審議ヲ進メラレンコ
トヲ望ミマス

○副議長(清瀬一郎君) 原君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第十八乃至二十一ハ同一委員ニ付託セラ
レタル議案デアリマス、且又牽聯ノ議案デ
アリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議ア
リマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、日程第十八、特許法中改正法律案、日
程第十九、實用新案法中改正法律案、日
程第二十、意匠法中改正法律案、日程第二
十一、商標法中改正法律案、右四案ヲ一括
シテ其第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ
報告ヲ求メマス——委員長鈴木英雄君

第十八 特許法中改正法律案(政府提

出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一特許法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和四年三月七日

委員長 鈴木 英雄

衆議院議長元田肇殿

第十九 實用新案法中改正法律案(政

府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一實用新案法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和四年三月七日

委員長 鈴木 英雄

衆議院議長元田肇殿

第二十 意匠法中改正法律案(政府提

出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一意匠法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和四年三月七日

委員長 鈴木 英雄

衆議院議長元田肇殿

第二十一 商標法中改正法律案(政府
提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一商標法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和四年三月七日

委員長 鈴木 英雄

衆議院議長元田肇殿

〔鈴木英雄君登壇〕

○鈴木英雄君 只今議題ニ上テ居リマス
ル特許法中改正法律案外三件ノ特別委員會
ノ經過及結果ニ付キマシテ報告ヲ致シマ
ス、右四件ハ第五十一回帝國議會ニ於ケル
民事訴訟法ノ改正ニ基クモノデアリマス
テ、其主要ナル點ハ審判手續、除斥、忌避、
證據調、出訴手續、再審等ノ規定ノ改正デ
アリマス、而シテ其改正ハ民事訴訟法改正
ノ範圍ヲ基礎トシ、成ベク其趣旨ト歩調ヲ
合セントシタルモノデアリマス、委員會ハ
前後二回開會シマシテ、各委員ト政府委員
トノ間ニ質問應答ガアッタノデアリマス
ガ、其詳細ニ付キマシテハ速記録ニ譲リマ
ス、委員外ノ清瀬議員ヨリ準備手續、法定
期間延長ノ權限ヲ有スル者、除斥ノ原因ト
爲スベキ事項、忌避ニ付テノ決定ニ對スル
不服ノ申立、其他ノ事ニ關係致シマシテ、
十一項ニ互ル意見ノ申出ガアッタノデアリ
マス、是亦速記ニ載セテアリマスガ、之ニ
對シマシテハ政府ヨリ答辯ガアリマシテ、
當局ニハ特許局主管法規ノ根本的改正ノ希
望ガアル、其調査費ハ來年度ノ豫算ニ計上
セラレ、既ニ本院ニ於テ之ヲ可決シテ居ル
ノデアリマスカラ、清瀬君御主張ノ諸點ニ
付キマシテハ、右ノ調査費ニ依テ設ケル委
員會ニ於テ考慮スルトノ言明ガアッタノデ
アリマス、仍テ右ノ了解ノ下ニ委員會ハ本

案ヲ滿場一致可決致シマシタ次第デアリ
マス、右報告致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 討論ノ通告ハアリ
マセヌ、此四案ヲ一括シテ採決ヲ致シタイ
ト思ヒマス、四案ノ第二讀會ヲ開クニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、
第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決
セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成ノ聲起ル〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直ニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

特許法中改正法律案 第二讀會(確定議)
實用新案法中改正法律案

第二讀會(確定議)

意匠法中改正法律案 第二讀會(確定議)

商標法中改正法律案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御發議モアリ
マセヌカ、仍テ第三讀會ヲ省略シテ、四案
トモ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ

○原惣兵衛君 日程第十八乃至二十二マデ上
程セラレテアルノデアリマスカラ、二十二
ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 日程第二十二、勞
働者災害扶助法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマ
ス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長三
輪市太郎君

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第十八乃至二十一ハ同一委員ニ付託セラ
レタル議案デアリマス、且又牽聯ノ議案デ
アリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議ア
リマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第十八乃至二十一ハ同一委員ニ付託セラ
レタル議案デアリマス、且又牽聯ノ議案デ
アリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議ア
リマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第十八乃至二十一ハ同一委員ニ付託セラ
レタル議案デアリマス、且又牽聯ノ議案デ
アリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議ア
リマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第十八乃至二十一ハ同一委員ニ付託セラ
レタル議案デアリマス、且又牽聯ノ議案デ
アリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議ア
リマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第十八乃至二十一ハ同一委員ニ付託セラ
レタル議案デアリマス、且又牽聯ノ議案デ
アリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議ア
リマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第十八乃至二十一ハ同一委員ニ付託セラ
レタル議案デアリマス、且又牽聯ノ議案デ
アリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議ア
リマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第十八乃至二十一ハ同一委員ニ付託セラ
レタル議案デアリマス、且又牽聯ノ議案デ
アリマス、仍テ一括議題ト爲スニ御異議ア
リマセヌカ

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和四年三月七日

委員長 三輪市太郎
衆議院議長 元田肇殿

〔小字及一ハ委員會修正〕

勞働者災害扶助法

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ之ヲ適用ス但シ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ於ケル事業及鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ヲ除ク

一 常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スル砂鑛業、石切業其ノ他土石ノ採掘又ハ採取ノ事業

二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存修理、變更若ハ破壊ノ工事ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ

(イ) 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理、變更若ハ破壊ノ工事ヲ爲スヲ業トスル者ノ爲ス工事ニシテ其ノ費用勅令ヲ以テ定ムル金額以上ノモノ

(ロ) 鐵道若ハ軌道ノ事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ行フ者ガ其ノ事業ノ爲ニ爲ス直營工事

(ハ) 國、北海道府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ爲ス直營工事

三 鐵道又ハ軌道ノ事業、乗合自動車ニ依ル運送ノ事業其ノ他勅令ヲ以テ指定スル運送ノ事業ニシテ常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

四 船舶ヨリ又ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ事業、停車場、倉庫業者ノ倉庫又ハ保税地域ニ於ケル貨物ノ取扱ノ事業其ノ他勅令ヲ以テ指定スル貨物ノ取扱ノ事業ニシテ常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

第二條 事業者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働者ガ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スベシ

前項ノ事業者トハ勞働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ヲ謂フ但シ事業ノ全部又ハ一部ガ數次ノ請負ニ依リ爲サル場合ニ於テハ各請負人ハ其ノ請負ヒタル事業ニ付之ヲ事業者トス

前項但書ノ場合ニ於テハ各事業者ハ其ノ請負ヒタル事業ノ勞働者ニ付連帶シテ扶助ノ義務ヲ負擔スベシ

第三條 前二條ノ勞働者ノ範圍ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ハ第二條ノ規定ニ依リ扶助義務ニ付保險契約ヲ締結スベシ

事業者保險業法ノ定ムル所ニ依リ傷害保險ヲ目的トスル相互會社ヲ設立シ又ハ之ニ加入シタルトキハ前項ノ義務ヲ履行シタルモノトス

事業者第二條ノ規定ニ依リ扶助ニ相當スル給付ヲ爲スコトヲ目的トスル共濟組合ヲ設立シタルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ第一項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第五條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ事業ノ行ハル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第六條 事業者故ナク扶助ノ義務ヲ履行セザルハ第四條第一項ノ規定ニ違反シタルザレトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 事業者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ事業者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條 事業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十條 本法中事業者ニ關スル罰則ハ國、北海道府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ之ヲ適用セズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔三輪市太郎君登壇〕

○三輪市太郎君 議題トナリマシタ勞働者災害扶助法案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、此委員會ノ委員諸君ノ中ニハ、直接利害ノ關係ヲ有セラレル方モ數名アリ、又本案ノ成立ヲ望マレル委員モ兩三名アリマシテ、就中民衆黨ノ西尾委員ノ如キハ、實ニ詳細ヲ極メタ議論モサレマシタガ、一々之ヲ御報告スルコトハ却テ諸君ノ御倦怠ヲ招クトモ思ヒマス、結局反對サレル委員諸氏モ、亦本案ノ成立ヲ望マレル諸氏モ眞劍ニ議論ヲモ戦ハサレマシタシ、研究モサレマシテ、西村君ノ如キハ雙方ノ意ノ在所ヲ能ク汲取ツテ、種々懇談ノ勞ヲ取ラレシ結果茲ニ一致點ヲ見出シテ、ソレガ修正トナツテ現ハレタノガ、諸君ノ御手許ニ既ニ配付サレテ居ル修正案デアリマス、之ニ對

スル説明ハ却テ長クナリ、簡單ト云フ御望デアアルカラ多クハ申シマセヌガ、唯一言此處ニ申上ゲテ置キタイノハ、此修正案ニ類似ノ案ガ外國ノ數箇國ニ實施サレテ居ルデアリマス、是ハ何レ他ノ討論者ニ依テ述ベラレルコト、思ヒマス、モウ一ツ申上ゲテ置キタイノハ勅令ト云フコトニ付テ一部ノ御方ニハ御疑念モアルヤウデアアルガ、無暗ニ有ユル方面ニ適用スルト云フ意味デナイノデアリマス、是ハ慎重ニ研究サレテ、勅令ニ依テ定ムルト云フノデアアルカラシテ、御心配ノナイコトヲ序ナガラ申上ゲテ置キマス、結果ニ於キマシテハ修正ノ點モ其他ノ政府原案モ滿場一致ヲ以テ委員會ハ可決致シマシタ、併シ此滿場一致ト云フコトニ付キ又御議論ガアルトイケナイカラ、一言申上ゲテ置キマスガ、其滿場一致ノ場合ハ政友會ハ勿論民衆黨ノ人モ第一控室ノ方モ御出席ニナツテ居テ、討論ニ入ル場合ニ於テ民政黨ノ諸君ガ御退場ニナリマシタガ、兎ニ角此採決ノ場合ニ其席ニ在ラレタル各派ノ委員ニ於カセラレテハ、滿場一致決シタノデゴザイマス、殊ニ西尾君ノ如キハ此修正案ト雖モ満足トハ言ヘナイガ、サリナガラ本案ノ成立ヲ望ム爲ニ賛成ヲスルト云フ御意見デアリマシタ、要スルニ其場合ハ滿場一致ニハ相違アリマセヌ、此段御報告ヲ致シマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、井谷寅吉君——議場ニ居ラレヌヤウデアリマスカウ棄權ト認メマス、討論ニ入リマス——末松偕一郎君

〔末松偕一郎君登壇〕

○末松偕一郎君 私人會議ニ於ケル唯一ノ社會政策デアリ、又勞働立法デアル本案ニ對シテ、反對ヲ表明セザルベカラザルコトニナツタコトヲ甚ダ遺憾トスル者デアリ

マス、私ハ此反對ノ理由ニ入ルニ先チマシ
テ、委員會ニ於ケル議事ノ經過ニ付テ、此
議場ニ訴ヘ、併セテ政友會諸氏ノ御反省ヲ
願ヒタイト思フノデアリマス、實ハ此委員
會ハ、色々質問應答ヲ重ネラレマシテ、二
月十五日ニ於テ質問打切ニナリ、其後ニ於
テ三月七日マデ委員會ノ開會ガナカッタノ
デアリマシタガ、三月七日ニ至リテ突如トシ
テ委員會ヲ開カレマシテ、而モ此重大ナル
法案ニ對シテ、多數ノ修正ノ動議ガアッタノ
デアリマス、其動議ニ對シテ、吾々ハ質問
ヲシ、而モ數人ノ質問通告者ガ殘リテ居ル
ニ拘ラズ、質問ハ打切ニナッタノデアリマ
ス、尙又之ヲ直ニ委員會ニ於テ採決シヤウ
トシタノデアリマスカラ、吾々ハ此重要ナ
ル法案、而モ其中ノ最も主ナル點ガ修正サ
レテ居ル、其修正ニ付テ僅ニ一時間バカリ
ノ質問應答ニ依リ、而モ吾々ハ民政黨トシ
テ幹部ニ相談スル機會モナク、又黨議ニ之
ヲ圖ル機會モナイト云フコトニ於テ、其議
事採決ノ延期ヲ乞フタノデアリマス、然ル
ニモ拘ラズ、多數ヲ恃ンデ直ニ此採決ヲ致
シタト云フコトハ、吾々甚ダ遺憾ニ考ヘ
ルノデアリマス、サウ云フ理由ヲ以テマシテ、
吾々ハ最後に採決ニ於テハ、其意思ヲ表明
スルコトガ出來ナイ、十分研究スル機會ガ
ナイノデアリマシタカラ、退場シタノデア
リマシテ、此點ニ付テハ私ハ多數ヲ以テ橫
暴ヲヤッタト云フ點ニ付テ、茲ニ遺憾ノ意ヲ
表シテ置クノデアリマス、而シテ此法案ニ
付キマシテ色々缺點ガアルノデアリマス
ガ、時間ガ切迫スル爲ニ今日ハ成ベク簡單
ニ反對ノ趣旨ヲ申シテ置キタイノデアリマ
ス、本案ハ工場法及工業法ノ權衡上屋外ニ
於ケル百五十八万ノ此所謂屋外自由労働者
ニ對シテ、工業法或ハ工場法ト同ジヤウナ
保護ヲ與ヘヤウト云フ原案デアリマシテ、

吾々ハ労働者ノ保護ニ對シテ、原案ノ趣旨
ニ於テハ勿論賛成ナノデアリマス、併ナガ
ラ此案ナルモノガ甚ダ杜撰デアッテ、而モ其
杜撰デアアル案ニ更ニ修正ヲ加ヘ、全ク所謂
實行不能ノ案ニ致シタノデアリマス、此點
ニ於テ吾々ハ遺憾ナガラ此案ニ反對セザル
ヲ得ナイコトニナッタノデアリマス、元來此
案ガ如何ニ杜撰デアリ、又労働者ヲ保護ス
ルト云フヤウナ、所謂贗案デアアルカト云フ
コトハ、山本宣治君ガ本會議ニ於テ、詳シ
ク申述ベタノデアリマシテ、今日ニ於テハ、
山本君ノ此本會議ニ於ケル説明ガ洵ニ悲慘
ナル遺言ニナッテ居ルノデアリマス、山
本君ノ言フ所ニ依レバ、此政府ノ提案ト云
フモノハ杜撰極マル、粗製濫造ノ誤魔化シ
案デアッテ、實行不能ノ疑ガアルト云フコト
ヲ言ハレテ居ルノデアリマス、而シテ此原
案ニ於テ最も不完全ト認メラレテ居ルノ
ハ、所謂扶助義務者ノ點デアリマス、此法
案ノ扶助義務者ナルモノハ、即チ各種請負
人ガ連帶シテ、第一次ノ請負人カラ總テ、
二次、三次、四次ト云フヤウナ風ニ幾多ノ請
負ヲスル場合ニ於テ、其悉クノ人ガ連帶シ
テ請負ヲスルト云フ點ニ於テ、非常ナル缺
點ガアルノデアリマス、我健康保險法ニ於
キマシテハ、國家ト事業者ト及労働者ガ各
各其危險ヲ分擔シ、其保險金ヲ拂シテ居ル
ノデアリマス、此法案ニ於テハ、事業
者ガ全部ノ負擔ヲ致シテ居ルノデアリマ
ス、而モ其事業ノ全部又ハ一部ヲ數次ノ請
負ニ依テ爲サレル場合ニ於テハ、各請負人ハ
其請負ヒタル事業ニ付キ、之ヲ事業者トスル
ト云フ規定ニナッテ居リマシテ、尙又其第三
項ニ於テハ、其各事業者ハ労働者ニ對シ、
連帶シテ扶助ノ義務ヲ負擔スルコト、ナ
テ居ルノデアリマス、之ニ依テ所謂扶助ノ
義務ト云フモノガ各事業者ニアル爲ニ、資

力ノナイ所ノ事業者ハ此義務ヲ完ウスルコ
トハ出來ナイシ、又此連帶ノ關係ニ於テ、
其義務ノ辨濟ニ付テ如何ニ色々ナル法律問
題ガ起ルカト云フコトハ、所謂連帶債務ノ
本來ノ性質デアッテ、殊ニ斯ル事業ニ付テ
連帶責任ヲ負フト云フコトハ、事實上甚ダ
困難デアアルノデアリマス、連帶義務ヲ負ハ
シタノハ、元來ハ此五十四議會ニ於テハ、
單獨ノ第一次ノ請負業者ニ於テ義務ヲ負ハ
シテアッタノデアリマス、ソレデハ直接ニ
労働者ヲ使シテ居ル所ノ事業者ニ對シテ其
事業者ガ免角監督ヲ怠ルトカ、各種ノ災害
ニ關シテ密接ナル關係ガナイ爲ニ、十分ニ
其義務ヲ盡シ労働者ガ保護サレナイト云フ
ヤウナ關係上、之ヲ連帶ニ致シタノデアリ
マスガ、併ナガラ連帶ニ於テ此案ガ非常ナ
ル所ノ杜撰ナルモノニナッタノデアリマス、
是ガ爲ニ當業者ハ猛烈ナル反對ヲシ、尙ホ
又無產黨ノ人モ色々ノ此案ノ杜撰ナル點
ニ於テ種々ナル質問ヲ致シタノデアリマ
ス、斯ル狀況ニ於キマシテ遂ニ此案ニ修正
ヲ加ヘルト云フコトニナリマシテ、先刻御
話スルヤウニ當業者ノ反對ガアリ、其點ニ
於テ與黨ノ結束ガ齟レルト云フヤウナコト
デ一氣呵成ニ此案ヲ通過シタモノト吾々ハ
認メテ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシ
テ當局者ノ方ニ於キマシテモ、又無產黨ノ
御方モ之ヲ保險ノ制度ニスルト云フコト
ニ付テ色々議論ガアッタノデアリマスガ、然
ルニ政府ハ吾々ノ質問ニ對シテ保險制度ハ
甚ダ宜シクナイト云フコトデ、六ツノ理由
ヲ以テ、此保險制度ノ不可ナルコトヲ説明
シテ居ッタノデアリマス、其主ナルモノハ保
險制度ニ依レバ、災害ヲ防止スルト云フ設
備ヲスルコトニ於テ當業者ガ不眞面目ニナ
リ不熱心ニナルト云フヤウナコトヲ主タ
ル理由トシ、其他保險制度ニ關シテ其不可

ナル理由ヲ種々舉ゲテ居ッタノデアリマシ
タガ、其理由ノ色々アッタニ拘ラズ、今回ノ
修正案ハ之ヲ保險制度ニ依テヤラウト云フ
コトニ變化シテ來タノデアリマス、而シテ
此原案ニ於テ色々ノ不備ナル點ガアリマ
ス、是ハ此際省略スルト致シマシテ、今
回ノ此修正案ニ對スル點ニ付テ私ハ其甚ダ
杜撰ニシテ實行不能デアアルト云フコトヲ述
ベタイト思フノデアリマス、此修正案ナル
モノハ三條ノ次ニ四條ヲ持テ來マシテ即
チ保險ニ依テ之ヲ運用シヤウト云フノデア
リマス、勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ハ第
二條ノ規定ニ依ル扶助義務ニ付保險契約ヲ
締結スベシト云フコトニナッテ居ルノデア
リマス、然ルニ御承知ノ如ク此種ノ保險
ニ付テハ未ダ調査ガ出來テ居ナイノデア
ル、殊ニ災害保險ト云フヤウナモノハ我國ニ於
テ二三ノ會社ホカナイノデアリマス、此二
三ノ會社モ而モ火災保險トカ或ハ海上保險
ト云フヤウナモノ、兼營デアッテ、基礎ガ甚
ダ今日ニ於テハ薄弱デアアル、ノミナラズ實際
ニ於テ此種ノ保險ガ行ハレテ居ルカト云ヘ
バ、是ガ殆ド行ハレテ居ナイノデアリマス、況
ヤ保險契約ハ自由契約デアッテ、若シ事業者
ガ保險ヲ附ケヤウト云ウテモ、之ヲ保險業
者ガ拒ンダ際ニ於テハ、殆ド此法案ナルモ
ノハ立竦ミニナッテ、ソコニ於テ直ニ實行不
能ト云フコトガ現ハレテ來ルノデアリマ
ス、ノミナラズ民營保險ト云フモノハ甚ダ
其利益ガ少イ爲ニ、保險料ガ高クナルノデ
アリマス、例ヘバ米國ノ全體ノ傷害保險會
社ヲ見マシテモ、收納保險料ニ對シテ四割
五分ト云フヤウナコトニナッテ居ル、又紐育
ノ十箇ノ傷害保險會社ハ三割七分、其他英
國ノ三十六箇ノ傷害保險會社ガ千九百十六
年ニ支拂ノ總保險金ハ、收納保險金ノ四割

弱ニナッテ居ル、斯ウ云フヤウナ譯デ、兎ニ角保險料ニ對シテ支拂額ガ非常ニ多クナル、要スルニ民營トシテハ此種ノ保險ト云フモノハ、各國ノ例カラ見マシテモ甚ダ振ハナイ、不利益ナ事業デアルト云フコトハ明ニナッテ居リマス、之ヲ外國ノ例ヲ取ル迄モナク、我國ノ健康保險ノ例ニ取リマシテモ、諸ノ經費ト云フモノハ、外國ノ例ニ依リマスルト云フト一割四分モアルノデアリマスケレドモ、我國ノ健康保險ノ實例ニ依リマス、諸經費ハ僅ニ一割ニ過ギナイト云フヤウナコトニナッテ居ル、兎ニ角政府ノ事業トシテ保險業ヲ經營スル際ニ於テ、如何ニ民營ニ比シテ有利デアルカト云フコトハ、實例ヲ申上ゲル迄モナク理論上明ナ所デアルト思フノデアリマス、又之ヲ民營ニスルト云フト、保險金ノ支拂ニ付テ色々ノ紛擾ガ起リマス、業務上ノ傷害デアッタカ、或ハ疾病デアッタカト云フヤウナ點モ起リマセウシ、或ハ成ベク保險金額ノ支拂ヲ少クシヤウト云フヤウナコトニ依テ、訴訟ト云フヤウナコトモ起ルノデアリマス、サウ云フヤウナ次第デ、是ハ民營トシテヤルト云フコトハ甚ダ困難デアルノデアリマス、然ルニ此案デハ第六條ニ於テ千圓以下ノ罰金ヲ以テ民營保險ニ加入スルト云フコトヲ強制シテ居ル、然ルニ先ニ御話スルヤウニ此民營保險會社ト云フモノハ、今日僅ニ二三デアッテ、是ガ都鄙到處ニ起ル所ノ請負業、而モ我國ノ土木建築ノ請負業者ハ四五万アルニ拘ラズ、實際此義務ヲ負擔シテ之ヲ支拂ヒ得ル所ノ能力ノアルモノハ僅ニ五「パーセント」デアルト云フコトデアリマスカラシテ、此種ノ多數ノ保險ニ加入スベキ所ノ事業者ガ、各地ニ於テ如何ニシテ此法律ヲ運用スルノデアリマセウ、私ハ此修正案ノ第四條ハ第二項ニ於テ既ニ行

詰ッテ、到底實行出來ナイト云フコトヲ知ルノデアリマス、又第二項ニ於テ「事業者保險業法ノ定ムル所ニ依リ傷害保險ヲ目的トスル相互會社ヲ設立シ又ハ之ニ加入シタルトキハ前項ノ義務ヲ履行シタルモノトス」ト云フコトニナッテ居リマスガ、從來保險會社ノ免許ニ付テハ、政府トシテ多年ノ間一定ノ方針ガアルノデアリマス、果シテ此法律ノ改正ニ依テ、政府ハ從來定メテ居ル所ノ此方針ヲ變更シテ多數ノ保險會社ヲ、即チ相互會社ヲ認ムルト云フ勇氣アルヤ否ヤ、私ハ此點ハ商工大臣ガ果シテサウ云フコトヲ認メラレバ否ヤト云フコトヲ甚ダ疑フ者デアッテ、此點ニ付テモ商工當局ノ意見ヲ十分ニ確メタイト思タノデアリマシタガ、先ニ御話スルヤウナ次第デ、未ダ其意見ハ確メナイノデアリマスケレドモ、恐クハ政府ガ此法案ヲ施行スル爲ニ多年ノ問題デアリ、隨分色々ノ沿革ヲ有スル所ノ保險會社ヲ濫設スルト云フコトヲ許スト云フコトハ、到底私ハ出來ナイト思フ、故ニ第二項ト云フモノハ明文デアッテ到底之ヲ實行スルコトハ出來ナイモノデアアル、又此第三項ニ於テ、共濟組合ヲ設立スル時ニハ行政官廳ノ許可ヲ受ケテ第一項ノ規定ニ據ラザルコトガ出來ルト云フコトニナッテ居リマス、共濟組合ナルモノハ、是ハ實際土木建築等ノ當業者ガヤッテ居ルノモアリマスケレドモ、是ハ恐クハ非常ナ特例デアッテ、斯ル多數ノ事業ニ從事スル者ガ、共濟組合ヲ特ニ設ケヤウト云フコトハ、是亦共濟組合ノ本質ヲ辨ヘナイモノデアリマシテ、恐ラク是亦實行不能ニ終ルモノト思フノデアリマス、申ス迄モナク我國ノ官營共濟組合ハ多數アルノデアリマス、殊ニ之ニ近イ土木事業従事者ノ共濟組合ノ如キモノモアリマスケレドモ、是等ハ各政府ガ保

護シテ居ル、其費用ノ三分ノ一以上ヲ政府ガ補給シ、而モ是ハ法律上ニ於テモ公共團體ト認メテ色々ノ特點ガアルノデアリマズ、斯ル特點ヲ持テ、或ハ政府ノ監督ニ依テ初メテ弊害ガナクシテ此種ノ共濟組合ガ出來ルノデアッテ、此多數ノ土木建築其他交通運輸ニ關スル、即チ本案ノ目的トスルヤウナ業者ガ此種ノ共濟組合ヲ作ラウト云フコトハ、私ハ殆ド出來ナイト思フノデアリ、萬一出來タナラバ到底勞働者ヲ保護スルノ實力ノナイ所ノ共濟組合デアッテ、弊害百出殆ド此法律ハ實行ガ出來ナイコトニ終ルモノト確信スルノデアリマス、元來此法律案ハ吾々此政府ニ於テ斯ル法案ヲ成立セシムルト云フコトハ、甚ダ遺憾ニ考ヘルノデアリマス、此政府ガ如何ニ時代錯誤ノ考ヲ持テ、社會政策或ハ勞働問題等ニ付テ殆ド理解ガナク、色々ノ點ニ於テ非立憲ナコトヲヤッタカト云フコトハ、先般我黨ノ諸君ヨリ屢、申サレテ居ルノデアリマス、然ルニ唯一ノ法案トシテ此法案ヲ出シタノデアリマスルケレドモ、其内容タルヤ先ニ御話スルヤウナ風ニ甚ダ杜撰ナモノデアアル、又今日聞ク所ニ依レバ、昨日所謂救護法ナルモノハ提案ガアリマシタガ、此切迫シタル議會ニ於テ斯ル提案ヲスルト云フコトハ、要スルニ是ハ恐ラク武藤君ニ對スル申譯デアラウト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ次第デアッテ、此政府——即チ吾々ハ社會政策、勞働立法等ニ付テ理解ガナイ此種ノ人ミノ多イ所ノ此政府ニ於テ、斯ルモノヲ拵ヘルト云フ、無キニ劣ルコトニナル、吾々ハ出來ナラバ若シ是ガ無キヨリ優ルモノデアラナラバ、之ヲ贊成シテ幾ラカ勞働者ノ保護ニ力ヲ致シタイト思タノデアリマスルケレドモ、斯ル案ハ無キニ劣ルノデアアル、是ガ出來ル爲ニ恐クハ、數年間ハ勞働

者ト云フモノ、保護ガ十分ニ行ハレナイコトニナルデアリマセウ、故ニ吾々ハ斯ル杜撰ニシテ寧ろ勞働者ノ保護ヲヤルニ付テ邪魔ニナルヤウナ法案ハ此際葬リタイノデアリマス、ノミナラズ吾々ハ之ニ同意シタ所ノ社會局ニ對シテ甚ダ氣ノ毒ニ考ヘルノデアリマス、今日社會局ガ此案ニ同意シテ、而シテ之ヲ實行シヤウト言タナラバ、私ハ茲ニ豫言シテ置キマス、恐クハ三年五年ニシテ此案ヲ實行シヤウト云フコトハ出來ナイノデアアル、三年五年ニ於テ實行スルコトガ出來ナイヤウナ案ヲ今日通過スルヨリモ、マダ一步進シタル完全ナル案ヲ拵ヘテ、之ヲ議會ニ諮ルト云フコトコソ私ハ適當デアルト思フ、唯氣ノ毒ナルコトハ、私ヲシテ言ハシムレバ社會局ノ人ハ折角社會局ガアルケレドモ殆ド其業務ガナイノデ、手ヲ拱イテ無聊ニ苦シメテ居ル、現内閣ノ如キモノニ於テハ社會立法等ニ於テハ、殆ド社會局ハ無用ノ長物ノヤウニ考ヘラレテ居ル、聞ク所ニ依レバ現内閣諸公ハ所謂豫算ノ爭奪ヲヤル際ニ、常ニ社會局ノ廢止ヲ唱ヘルサウデアアル、社會局ノ廢止ヲ唱ヘテ、社會立法ノ何タルヲ知ラヌヤウナ現内閣ノ下ニ——吾々ハ斯ノ如キ重大ナル法案ヲ、此社會立法ニ於テ理解ノナイ所ノ現内閣カラ作ッテ貰フト云フコトハ、勞働者ニ對スル侮辱デアルト考ヘルノデアアル、寧ろ完全ナルモノヲ拵ヘテ、眞ニ勞働者ヲ保護シタイト云フ點ニ於テ、吾々ハ此案ニ反對スル者デアリマス(擲手)

○森田政義君登壇

○森田政義君 私人委員長報告ノ修正案ニ贊成ヲ表スル者デアリマス、只今末松君ノ理論ヲ承ッテ居リマスルト云フト、本法第二條、連帶ノ規定ニ付テ、數次ノ請負ノ場合ニ連帶責任ヲ認メルト云フコトハ、海ニ可

笑ナモノデアルト云フ御議論ニ承リマシタガ、是ハ事業者側ノ連帯責任ヲ認メタノハ、労働者ノ災害扶助ヲ確實ナラシメンガ爲ニ認メタノデアリテ、換言スルト労働者ノ地位ヲ確保シタルモノデアアル、是ハ何デ不思議ナコトデアリマセウ、連帯債務ノ責任ヲ私ハ控除スル必要ハナイト思ヒマスガ、連帯責任ノ場合ニハ一箇ノ目的ヲ達スルト數箇ノ目的ガ達セラレナイカラ消滅スルノデアアル、何等不都合ハナイ、尙又此修正案ハ改惡ヲ加ヘタルモノデアルト云フ御議論デアアルガ、是ハ怪シカラヌ、吾々政友會ノ委員ハ如何ニスルナラバ、事業者ノ方ノ迷惑ヲ輕クシテ労働者ノ方ノ救助ヲ確實ニセンカト云フコトニ苦慮シタルデアアル、全國事業主ノ、第一條ノ土木業者ノ數ヲ調べテ見ルト云フト四万人カラアル、此四万人ノ事業主ノ中デ、資本ガ確實ニナッテ何時デモ労働者ガ災害ヲ受ケタ場合ニ、確實ニ給與ヲ爲シ得ル者ハ、一千人デアルト云フコトデアアル、シテ見ルト三万九千人ニ抱ヘラレタ所ノ労働者ノ地位ト云フモノガ、極メテ薄弱デアアル、故ニ吾々ハ一面ニ於テ之ヲ農村ニ譬ヘテ見ルト、五段歩百姓或ハ一町歩内外ノ百姓ニ向ッテ、丁度此原案通りノ義務ヲ命ズル場合ニハ、一箇年ニ於テ五段百姓、或ハ一町歩百姓ニ五百圓乃至千圓ノ負擔ヲ命ズル場合ニ於テハ、農村ハ立ッテ行カナイ、都會ニ於ケル所謂五段百姓トモ、一町歩百姓トモ譬フベキ三万九千人ノ人ニ對シテ災害ノ起ツ場合ニ、一時ニ數百圓、數千圓ノ負擔ヲ命ズルト云フコトハ、折角築キ上ゲタル彼等ノ地位ヲ奪フコトニナル、隨テ労働者ノ地位ト云フモノガ確保サレナイ、確保サレナイカラ吾々ハ第四條ノ第一項ニ於テ之ヲ保險ニ附クベシ、平生ハ僅ノ保險金ヲ拂ッテ置イテ、災害アル場合ニ之ヲ一時ニ

出ス、民政黨ノ委員カラハドウモ保險ニ附スルトハ怪シカラヌ、災害ノ危險ヲ保險業者ニ移スノデハナイカト云フ御議論モアリマシタガ、保險ノ制度ト云フモノハ決シテサウ云フモノデハナイ、一方ニ於テ危險ヲ負擔スルト同時に保險料ヲ取ッテ居ル、災害ガナカッタナラバ保險會社ハ九儲デアアル、災害ガ出タ場合ニハ彼方此方カラ集々金ヲ拂フ、相互契約デ、決シテ是ハ危險ノ轉嫁デハナイ、從來此自由労働者ニ對シマシテハ、今迄法律ハナカッタノデアリマスガ、此自由労働者ハ、所謂我國特殊ノ親分、乾兒ト云フ關係ニ依ッテ、労働者ニ災害ノ起、場合ニハ、適當ナル方法ヲ以テ救助シテ居ッタノデアリマス、是ニ於テ吾々ハ此美風モ考慮シナケレバナラナイ、此美風モ考慮シテ、第四條ト云フ修正案ヲ出シタルデアリマス、修正案ニ依リマス、保險契約ヲ義務的ニ命ジテ居ルノデアリマスガ、是ハ決シテ吾々ノミノ獨創デハナイ、之ヲ世界ノ立法ニ照シテ見マス、強制保險ノ制度ヲ採ッテ居ルモノハ數アル中デモ、私營保險會社及事業主ノ相互ノ組合ヲ認メテ居ルモノデ、丁抹、葡萄牙、智利、玖馬、北米合衆國デハ「ケンタッキー」州ガ之ヲ認メ、ソレカラ「マサチューセツ」州ガ之ヲ認メ、「テキサス」州ガ之ヲ認メテ居ル、ソレカラ保險會社トシテ、私營保險會社ノミヲ認メテ居ルノガ濠洲ノ——南濠太利、西濠太利米國デハ「コンネクチカット」洲ガ之ヲ認メテ居ル、決シテ第四條第一項ノ強制保險ヲ命ジタルハ、吾々政友會員ノ獨創ノミデハナイ、世界ノ立法ハ之ヲ認メテ居ルノデアアル、何等不思議ハナイノデアアル、ソレト同時に第二項ニ於テ、事業主ガ相互ニ保險制度ヲ執ルコトモ認メテ居ル、第三項ニ於テ事業主ガ共濟組合ヲ作ルコトモ認メテ居ル、第二項第三

項ヲ置イタト云フコトハ、事業主ノ負擔ヲ成ベク輕カラシメ、労働者ノ地位ヲ確保スルコトニ、吾々政友會議員ガ努メタト云フコトハ歷然トシテ現ハレテ居ル、是ガ何デ不完全ナル法制デアアルカ、世界ノ立法ニ照シテ恥カシカラヌ立派ナル法制デアルト私共ハ考ヘテ居ルノデアアル、尙ホ又數万ノ事業者ニ悉ク此法律ヲ適用スルト云フコトハ當ラナイ場合ガアル、例ヘバ三千圓或ハ四千圓ノ仕事ヲシテ居ル請負人ニ直ニ之ヲ命ズルト云フコトハ、非常ニ不條理デアアルカラ、勅令ニ於テ斯ウ云フ義務ヲ負擔スルモノハドウ云フ範圍ノ事業者ガ之ヲ負擔スル、又義務ノ内容ニ付テ病氣ノ場合ハドレダケ治療費ヲ出シ、又死シタ場合ニハドウ云フ費用ヲ出スト云フコトハ、却テ本法ニ規定スルヨリモ勅令ニ委任スルコトガ適當ナリト考ヘマシテ、委任スルコトニ致シマシタ、此法案ハ決シテ末松君ノ言ハレルヤウニ實行不能ノ法案デモナク、又杜撰ナ法案デモナイ、最モ實行ヲ容易ナラシムル爲メ第四條第二項第三項ヲ認メテ、労働者ノ地位ヲ確保スルト同時に、事業主ノ方ノ負擔ヲ輕減スルコトニ努メタルデアリマス、ソレト同時に總テノモノニ應用スルト云フコトハ不可能デアアルカラ、事業主ノ範圍及義務ノ範圍ト云フモノハ勅令ニ讓ルト云フ、世界何レノ國ヘ出シテモ恥シカラヌ法ナリト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、ドウカ皆サン社會ノ現狀ニ鑑ミラレマシテ、御贊成アラシコトヲ希望致シマス

○西尾末廣君 本案ヲ中心ニ致シマシテ、之ニ批評ヲ加ヘ意見ヲ加ヘル者ニ、民政黨ノ末松氏ト政友會ノ森田氏ガアリマシタガ、私ハ本案ニ對スル批評及意見ト云フ點ニ於テハ、大體ニ於テ末松君ト意見ヲ同ジクスルノデアリマス、本案ガ非常ニ立派ナモノダト森田氏ハ申シマスガ、私ハ本案ハ非常ニ身窄ラシイモノデアアル、非常ニ缺點ノ多イモノデアアル、而モ政府ノ原案ニ於キマシテハ、政府モソレノ實行ニ付テ確信ヲ持ッテ居リマシタカラ、是ノ實施期ニ付テハ九月一日ナラ實施スルト云フコトヲ明言致シテ居リマスルガ、此政友會カラ提出サレタ修正案ニ向ッテハ、政府モ尙ホ自信ヲ缺クト見エマシテ、其實施期ニ對シテマダ明言ヲシナイノデアアル、是ハ本案ガ尙ホ實行上ニ如何ニ困難ナ問題ガアルカト云フコトヲ、表明スルニ餘リアルト思フノデアリマス、左様ニ私ハ本案ヲ批評シ、之ニ對スル意見ヲ加ヘル場合ニハ、大方ハ末松氏ト意見ヲ同ジクスルノデアリマスガ、併シ其結論ニ於テハ、却テ森田氏ト結論ヲ同ジクスルト云フ奇妙ナル結果ニナルノデアリマス、此奇妙ナル結果ニナルノハ、私共ガ労働者、農民ノ利害ヲ代表シテ居ルト云フ特殊ノ立場カラ、斯ウ云フ結論ニ達スルノデアリマス、即チ本案ハ尙ホ吾々カラ見マシテ不十分タリト雖モ、尙ホ是ハ無イニ優ルモノデアリマス、是ハ矢張労働者農民ニ幾ラカノ幸福ヲ齎スモノデアアル、此不完全ニ對シテハ、尙ホ吾々ガ年々歳々議會ヲ開フコトニ依テ、尙ホ改善スル途ガアルモノト思ヒマスガ故ニ、吾々ハ本案ニ贊成スルノデアリマス

○副議長(清瀬一郎君) 是ニテ討論ハ終了致シマシタ、是ヨリ採決ニ移リマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ贊成ノ諸君ハ起立

○贊成者 起立

○副議長(清瀬一郎君) 起立者多數ト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔賛成者 起立〕
○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部
ヲ議題ト致シマス

勞働者災害扶助法案

第二讀會

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御發議ガアリ
マセヌカラ採決ヲ致シマス、本案ノ委員長
報告ハ修正デアリマス、討論ニ依テ御了解
下サツタ通り、此修正ハ事業者ニ扶助義務ニ
關スル保險契約ヲ命ズル等ノ點デアリマ
ス、委員長報告ノ修正ノ部分ニ賛成ノ諸君
ハ起立

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 多數ト認メマス、
委員長報告ノ修正ノ部分ハ可決セラレマシ
タ、其他ハ委員長報告通り御異議アリマセ
ヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ其通り決シマシタ、是ニテ本案
ノ第二讀會ハ終了シタハデアリマス

○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第三讀會ヲ開カ
レンコトヲ望ミマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直ニ第三讀會ヲ開キ、議案全部
ヲ議題ト致シマス

勞働者災害扶助法案

第三讀會

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御發議モアリ
マセヌ、本案ハ第二讀會議決ノ通り議決ス
ルニ賛成ノ諸君ハ起立

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマ
ス、仍テ本案ハ可決確定致シマシタ
○原惣兵衛君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ

提出致シマス、即チ此際日程第二十三乃至
二十七ヲ順次繰上ゲ議題トナシ、其審議ヲ
進メラレンコトヲ望ミマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 念ノ爲ニ伺ヒマス
ルガ、日程二十三、即チ酒造組合法中改正
法律案カラ、二十七、無線電信法中改正法律
案マデマスカ

○原惣兵衛君 サウデス

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ハゴザイマ
セヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——日
程第二十三、酒造組合法中改正法律案ノ第
一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求
メマス——委員長 陸山貞吉君

第二十三 酒造組合法中改正法律案

〔政府提出〕

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一酒造組合法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和四年三月九日

委員長 陸山 貞吉

衆議院議長 元田肇殿

〔陸山貞吉君登壇〕

○陸山貞吉君 本員ハ酒造組合法中改正法
律案ノ委員會ノ經過及結果ニ付テ極ク簡單
ニ御報告ヲ致シマス、本案ハ大藏省提出ノ
法律案デアリマス、其改正ノ要點ハ、酒造
組合ノ改良發達ヲ促進スルコト云フコト、サ
ウシテ實際ノ實情ニ適當スル、此事デアリ
マス、其次ニハ酒造組合ノ財の基礎ヲ鞏固
ナラシメル爲ニ、其經費及過急金ノ強制ノ

徴收ヲ許スト云フコトデアリマス、是ハ組
合長ノ請求ニ依テハ市町村ノ村税ノ例ニ依
テ徴收スルト云フコトデアリマス、第三番
目ニハ、酒造組合ノ統制ヲ確立ナラシメル
爲ニ、酒造組合ノ聯合會ヲ設ケル、是ハ府
縣ニ三分ノ二以上ノ同意者ガアルトキニ
ハ、他ノ者ヲ之ニ強制的ニ加入セシムル、
斯ウ云フ事デアリマス、又各府縣ノ聯合組
合ニ更ニ組合ノ中央會ト云フモノヲ一ノ課
マシテ、之ヲ以テ其統制スル機關ニ充テ
ルコト云フコト、其次ニハ是等ノ酒造組合或
聯合會、或ハ中央會、是等ノモノヲ政府ガ監
督スルコトヲ定メタモノデアリマス、是等
ノ總テノ規則ハ——是等ノ法律案ハ酒造組
合ガ多年要望スル所デアリマシテ、大藏省
ヨリ特ニ周到ナル審査ノ下ニ之ヲ提出サ
レタモノデアリマス、委員會ハ二回開キマ
シタガ、三宅君及中村總男君ヨリ二、三ノ質
疑及希望等ガアリマシタガ、其事ニ付キマ
シテハ此處デ省略ヲ致シマス、兎ニ角全會
一致可決確定致シマシタカラ、之ヲ御報告
致シマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 質疑討論ノ通告ハ
何レモアリマセヌ、仍テ直ニ採決致シマス、
本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌ
カ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシ
タ

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通
リ可決セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部
ヲ議題ト致シマス

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマ
ス、仍テ本案ハ可決確定致シマシタ
○原惣兵衛君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ

酒造組合法中改正法律案

第二讀會(確定議)

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御發議モゴザ
イマセヌ、第三讀會ハ省略シテ、委員長報
告ノ通り可決確定致シマシタ——日程第二
十四、資源調査法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キ
マス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長
内野辰次郎君

第二十四 資源調査法案(政府提出、
貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一資源調査法案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和四年三月十二日

委員長 内野辰次郎

衆議院議長 元田肇殿

〔内野辰次郎君登壇〕

○内野辰次郎君 資源調査法案ハ、御承知
ノ如ク資源ヲ調査スルニ當リマシテ、最モ
圓滿ニ調査ガ出來ルヤウナ手續ノ基礎ヲ定
メタモノデゴザイマス、委員會ニ於キマ
シテハ、各委員、殊ニ横堀君、鈴木文治君ガ、
最モ熱心ニ且ツ詳細ニ質問ヲ續ケラレマシ
タ、其中デ最モ大事デアルコト一ツヲ御紹
介申上ゲマスル、資源調査ト動員計畫トハ
ドンナ關係ヲ持ツカト云フ質問ニ對シマシ
テ、政府ハ資源調査ト動員計畫ナルモノ
ハ、直接ノ關係ハナイ、尤モ動員計畫ニ當
リマシテ、調査サレタ資源ヲ基調トシテ立案
サレルト云フコトハ勿論デゴザイマスル
ガ、資源調査本來ノ目的ハ、我國ニ於ケル商
業、工業、其他産業ノ進歩發展ヲ期スルト
云フコトガ本來ノ目的デアル、斯ウ云フコ

トゴザイマシタ、委員會ニ於キマシテハ慎重審議ノ結果、重要ナル法案ト致シマシテ、全會一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、右御報告致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 本案ニ關シマシテハ質疑若クハ討論ノ通告ハアリマセヌ、仍テ直ニ採決ニ入リマス、本案ノ二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成ト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 原君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

資源調査法案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、仍テ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第二十五、陪審法中改正法律案ノ一讀會ノ續ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求ムルノデアリマスガ、委員長ガ議場ニ居ラレマセヌカラ一時後廻シニ致シマス——日程第二十六及第二十七ハ同一委員ニ付託シタル議案デアリマス、仍テ一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス——第二十六、船舶職員法中改正法律案、日程第二十七、無線電信法中改正法律案、此二案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長佐々木平次郎君

第二十六 船舶職員法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一船舶職員法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和四年三月十三日

委員長 佐々木平次郎

衆議院議長元田肇殿

第二十七 無線電信法中改正法律案 (政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一無線電信法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和四年三月十三日

委員長 佐々木平次郎

衆議院議長元田肇殿

〔佐々木平次郎君登壇〕

○佐々木平次郎君 船舶職員法中改正法律案並無線電信法中改正法律案、此二案ニ付キマシテ委員會ノ經過並結果ヲ御報告申上ダマス、時間モ經テ居リマスカラ、極メテ簡單ニ申上ダヤウト思ヒマス、船舶職員法ハ明治二十九年、丁度日清戰爭ノ直後ニ出來タノデアリマスルガ、當時我國ノ船舶ハ、帆船、汽船ヲ合セマシテ、總噸數ニ於テ約三十六萬噸ニ過ギナカッタノデアリマス、其後明治三十九年ニ一箇小部分ノ改正ヲ見タノデアリマシテ、丁度三十四年ヲ經過致シテ今日ニ至ラノデアリマス、然ル所今日ハ我國ノ船舶ハ、植民地ニ在籍ノ船舶ヲ合算致シマスト云フト、約五百万噸ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ船舶ノ乘組等ニ必要デアル所ノ職員其他ノ事ニ付キマシテ

ハ、洵ニ今日時宜ニ適セナイ點ガ多イノデアリマス、ソレデアリマスルノデ、民間ヨリモソレトモ陳情請願ニナツテ居リマスルノデ、丁度一昨年ノ末ニ通信省內ニ船主、船員、水産會等ノ代表者、ソレカラ關係者、主任等ノ募集ヲ求メマシテ、サウシテ隔意ナキ意見ヲ求メマシテ、是等ノ意見ヲ參酌シテ今度提案セラレタト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、今度改正セラレマシタ内容ニ付キマシテハ、大體非常ナ好意ヲ持テ御質疑ヲナサレタヤウニ拜聴シマシタガ、唯一言申上ダテ置キタイト存ジマスルコトハ、船舶職員トナリマスルノニ、若クハ此職員トナルガ爲ニ、試験ヲ受ケマス上ニ於テ、破産ノ宣告ヲ受ケ、サウシテ之ガ回復シナイ者ハ、此資格ガ無いノデアリマス、所ガ委員ノ中ノ土屋清三郎君ハ、何故ニ破産ヲ受ケタ者ニソレ等ノ資格ヲ與ヘヌカ、之ニ付キマシテハ大變御熱心ナ御質疑デアリマシタ、政府當局ヲ申シマスノニハ、船舶ノ職員ハ貴重ナル生命財産ノ事ヲ扱フノデアリシ、航海中ニハ司法警察權モ與ヘルノデアリシ、又人事ニ付テハ出生、死亡等ノ戶籍ヲ取扱フ立場ニアル、又近クハ選舉法ノ改正ニ依リ、不在投票ノ際ニハ船員ノ投票ノ管理者トナルノデアリカラ、相成ルベクハ缺點ノナイ、正シイ人々ヲ此職員ニシタイ、斯ウ云フコトデ、今之ヲ改メル意思ハナイ、斯ウ云フコトデアリマシタ、十分審議致シマシタガ、多數ヲ以テ原案ノ通り可決ニ相成リマシタ、次ニ無線電信法中改正法律案ニ付テ申上ダマスガ、是ハ一昨年ノ十一月ニ亞米利加合衆國ノ華盛頓ニ於テ開カレタ國際無線電信會議ニ、我國ヲ代表シテ出席致シマシタ人ガ調印ヲ致サレテ、ソレデアリ改正國際電信條約、之ニ依テ法律ヲ改メル必要ガア

ル、近時我國ノ無線電信、電話ガ益、普及發達スルニ付キマシテ、通信上ノ取締、ソレカラ電波ノ統制ヲ圖ル上ニ於テ、必要ナル規定ヲ設ケタノデアリマス、是亦審議ノ結果原案通り可決致シマシタ、此段御報告申上ダマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 御諮リ致シマス、此兩案ヲ一括採決スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○原惣兵衛君 直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成ト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

〔贊成〕贊成ト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

船舶職員法中改正法律案 第二讀會(確定議)

無線電信法中改正法律案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御發議モアリマセヌヤウデアリマス、仍テ兩案ノ第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)此際先刻後廻シニ致シマシタ日程第二十五、陪審法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長井坂豐光君

第二十五 陪審法中改正法律案(政府提出)
提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一陪審法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和四年三月十二日

委員長 井坂 豊光

衆議院議長元田肇殿

〔井坂豊光君登壇〕

○井坂豊光君 陪審法中改正法律案ノ委員
會ノ經過並ニ結果ヲ極メテ簡單ニ御報告致
シマス、治安維持法ノ罪ハ陪審法第四條ニ
列記シテアリマス所ノ各種ノ犯罪ノ中デ、
内亂罪或ハ外患罪及騷擾罪等ト等シク、其
性質ガ大體ニ於キマシテ陪審手續ニ依テ審
理スルコトガ不適當デアルト云フノデアリ
マス、而シテ之ニ付キマシテ、各委員ヨリ
熱心ナル質疑應答ガゴザイマシタガ、遂ニ
採決ノ結果、第一控室ノ水谷君ガ反對致シ
タノミデ、他ハ全部本案ニ賛成致シタノデ
アリマス、此段御報告致シマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 本案ニ關シテハ質
疑ノ通告ト反對論ノ通告ガアリマス、ケレ
ドモ何レモ議場ニ居ラレマセヌ、仍テ拋棄
サレタモノト認メマス、即チ直ニ採決致シ
マス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君
ハ起立

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマ
ス、本案ハ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○原惣兵衛君 直ニ本案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告通
リ可決セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ直ニ第三讀會ヲ開キマス、
議案全部ヲ議題ト致シマス

陪審法中改正法律案 第三讀會

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 別ニ御異議ナシト
認メマス、仍テ直ニ第三讀會ヲ開キマス、
議案全部ヲ議題ト致シマス

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 起立多數ト認メマ
ス、仍テ本案ハ可決確定致シマシタ

○原惣兵衛君 日程變更ノ緊急動議ヲ提出
致シマス、即チ此際日程第七乃至第十一及
第十六第十七順次線上ダテ議題トナ
シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔賛成者 起立〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程ハ原君ノ動議ノ如ク變更サ
レマシタ、日程第七大禮記念帝室博物館復
興翼賛會事業費ノ補助ニ關スル法律案ノ第
一讀會ヲ開キマス

第七 大禮 帝室博物館復興翼賛會事業
費ノ補助ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

大禮 帝室博物館復興翼賛會事業費ノ
補助ニ關スル法律案

昭和四年度ニ於テ大禮 帝室博物館復興翼
賛會ノ事業費ニ對スル補助金ニ充用スル
爲造幣局資金ノ内三百五十萬圓ヲ限リ一
般會計ニ繰入ルルコトヲ得

〔政府委員大口喜六君登壇〕

○政府委員(大口喜六君) 大禮記念帝室博
物館復興翼賛會事業費ノ補助ニ關スル法律
案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ説明致シマ
ス、今上陛下御即位ノ大禮ヲ記念致シマス
ル爲ニ、東京帝室博物館ヲ復興致シマシテ、
之ヲ帝室ニ獻上シテ、帝室ノ文化的御事業
ヲ翼賛シ奉ル爲ニ、先般大禮記念帝室博物
館復興翼賛會ガ組織セラレタノデアリマス、
而シテ其復興ニ要シマスル經費ハ、約
八百五十萬圓ノ見込デゴザイマシテ、内五
百萬圓ハ之ヲ全國有志者ノ寄附ニ俟チ、三
百五十萬圓ハ之ヲ政府ノ補助ニ依リマシテ、
該事業ノ達成ヲ期セントスルノ計畫デアリ
マス、民間ニ於ケル寄附ハ確實ノ見込デアリ
マスカラ、前記補助金額ヲ昭和四年度追加
豫算トシテ今回提案致シマシタ、而シテ其
財源ハ之ヲ造幣局資金ニ屬シテ居リマス現
金ヲ以テ充當スルコト、致シマシテ、右資

關稅定率法中改正法律案

關稅定率法別表輸入稅表中左ノ通改正ス

第三十二號ヲ左ノ如ク改ム

三 茶

一 紅茶

二 紅茶粉

三 包種茶

四 其ノ他

每百斤 八八・一〇

每百斤 二九・五〇

每百斤 六・〇〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員
ノ選舉

○原惣兵衛君 本案ハ議長指名九名ノ委員
ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(清瀬一郎君) 原君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程
第九及第十ハ同種關聯セル議案デアリマス
カラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌ
カ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第九 關稅定率法中改正法
律案、日程第十、大正十三年法律第二十四
號中改正法律案、此兩案ヲ一括シテ其第一
讀會ヲ開キマス、大口大藏政務次官

第九 關稅定率法中改正法律案(政府
提出)

關稅定率法別表輸入稅表中左ノ通改正ス

第三十二號ヲ左ノ如ク改ム

三 茶

一 紅茶

二 紅茶粉

三 包種茶

四 其ノ他

每百斤 八八・一〇

每百斤 二九・五〇

每百斤 六・〇〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

每百斤 一〇・六〇

第四十四號中「七・二〇」ヲ「二・一六〇」ニ改ム
第四十六號中「一七・五〇」ヲ「二・六三〇」ニ改ム
第四十七號中「一三・三〇」ヲ「二・四〇」ニ改ム
第五十四號中「二〇・五〇」ヲ「三・九三〇」ニ改ム
第七十二號第一項甲ヲ左ノ如ク改ム

甲 塗リタルモノ
イ タンニン鞣ノモノニシテ黑色無地ノモノ
ロ 其ノ他
從 價 四 割
從 價 二 割

第八十四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
八四ノ二「ガット」(テニスラケット用ノモノ)
第三百九十二號第一項ヲ左ノ如ク改ム
從 價 二 割 五 分

一 印刷シタルモノ
甲 轉寫用ノモノ
乙 其ノ他
每 百 斤 三 九 三 〇 割
從 價 五 割

第三百九十三號中「三割」ヲ「五割」ニ改ム
第四百三十九號第二項甲中「碍子」ヲ「電氣用ノモノ」ニ改ム
第四百五十七號第二項乙ヲ左ノ如ク改ム
從 價 二 割 五 分

乙 其ノ他
イ 電氣用ノモノ
ロ 其ノ他
從 價 二 割 五 分
從 價 四 割

第五百六十號第一項中「每箇」ヲ「從價」ニ「七・四〇」ヲ「四割」ニ改ム
第六百十二號第一項甲ヲ左ノ如ク改ム
從 價 三 割
從 價 二 割

甲ノ一 花梨木及黃楊木
甲ノ二 鐵刀木、紅木、紫檀及黑檀(縹黑檀ヲ除ク)
同號第二項丁ヲ左ノ如ク改ム
每 百 斤 〇 五 〇 割

丁 花梨木及黃楊木
戊 其ノ他
從 價 四 割
從 價 二 割 五 分

第六百四十號第一項中「及同附屬品」ヲ「其ノ他ノ戶外運動具及同附屬品」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十 大正十三年法律第二十四號中改正法律案「贅澤品等ノ輸入税ニ關スル件」(政府提出) 第一讀會
大正十三年法律第二十四號中改正法律案
從 價 二 割 五 分

大正十三年法律第二十四號中左ノ通改正ス
別表輸入税表番號第三十二號、第三十三號、第三十六號、第四十四號、第四十六號、第四十七號及第五十四號ノ項ヲ削ル
同第六十九號ノ項中「(兔毛皮並絨ササル綿羊皮及山羊皮ヲ除ク)」ヲ「(兔毛皮、貓毛皮、兔毛皮並絨ササル綿羊皮及山羊皮ヲ除ク)」ニ改ム
同第七十二號ノ項一甲中「塗リタルモノ」

ヲ「塗リタルモノ」(一 甲イヲ除ク)ニ改ム
同第三百三十八號、第三百三十九號、第三百九十一號、第三百九十二號、第三百九十三號、第四百十四號及第四百二十四號ノ項ヲ削ル
同第四百三十九號ノ項中「(碍子ヲ除ク)」ヲ「(電氣用ノモノ及二 乙ノ内素焼ノモノヲ除ク)」ニ改ム
同第四百五十七號ノ項中「(二 甲ヲ除ク)」ヲ「(二 甲及二 乙イヲ除ク)」ニ改ム
同第五百六十號ノ項ヲ削ル
同第六百十二號ノ項ヲ左ノ如ク改ム
六二二 木材

一 單ニ切り、挽キ又ハ割リタルモノ(甲ノ一ヲ除ク)
二 其ノ他
戊ノ内 鐵刀木、紅木、紫檀及黑檀(縹黑檀ヲ除ク)
同第六百四十號ノ内ノ項ヲ左ノ如ク改ム
六四〇 ビリヤート、テニス、クリケット、象棋其ノ他ノ遊戲具及同附屬品(一ヲ除ク)
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
〔政府委員大口喜六君登壇〕

○政府委員(大口喜六君) 大正十三年法律第二十四號、即チ贅澤品等ノ輸入税ニ關シマスル法律ハ、國民奢侈ノ弊風ヲ抑制スルと同時に、我が國際貸借ノ改善ニ資スル目的ノ下ニ制定セラレタモノデアリマシテ、立法當時ニ於キマシテハ、課税品ノ範圍を相當廣汎ハ互テ居タノデアリマスガ、法律實施ノ結果ニ徴シマシテ、大正十四年第十

數種ノ品目ヲ除外シタノデアリマス、尙現在ノ狀況ニ於キマシテ、指定品目中ニハ其用途等ヨリ觀察致シマシテ、之ヲ除外スルノ適當ト認ムルモノガアルノデアリマス、即チ茲ニ提案シテゴザイマスル茶其他二十有餘ノ物品ハ、食料品トシテ一般ニ使用セラレルモノデアリマス、又體育又ハ文化發育用ノモノ、又ハ工業的ノ用途ニ供セラレルモノ、或ハ又輸出品ノ原料ニ供セラレルモノ等デアリマスノデ、是等ヲ本法指定品中ヨリ削除スルノ適當ト認メタ次第デアリマス、右削除致シマシタ結果ハ、是等ノ物品ニ對シマシテハ、一般關稅率ガ適用サレルコトニナルノデアリマスガ、大正十五年ニ一般關稅率改正ノ際ニ於キマシテハ、十割關稅ノ課税品ニ對スル稅率ハ中止ノ狀態ニアタノデ、何等ノ改正ヲモ加ヘナカッタ關係上、前述ノ物品中ニハ、其生産輸入並ニ需給ノ狀況等ヲ考ヘマシテ、一般關稅率ニ適當ナル改正ヲ加ヘル必要ノモノガアリマス、仍チ茲ニ此兩改正法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告モアリマセス、仍チ日程第十一、右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十一 右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉
○原惣兵衛君 兩案ヲ一括シテ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
〔贊成〕(贊成)ト呼フ者アリ
○副議長(清瀬一郎君) 原君ノ動議ニ御異議アリマセカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○副議長(清瀬一郎君) 御異議ナシト認メマス、仍チ原君ノ動議ノ如ク決シマシタ

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告モアリマセス、仍チ日程第十一、右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告モアリマセス、仍チ日程第十一、右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告モアリマセス、仍チ日程第十一、右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告モアリマセス、仍チ日程第十一、右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告モアリマセス、仍チ日程第十一、右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告モアリマセス、仍チ日程第十一、右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○副議長(清瀬一郎君) 質疑ノ通告モアリマセス、仍チ日程第十一、右各案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○原惣兵衛君 殘餘ノ日程ハ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長（清瀬一郎君） 御異議ナシト認メマス、仍テ本日ハ是ニテ散會致シマス、次會ノ日程ハ追テ公報ヲ以テ御通知申上ダマス

午後六時四十八分散會

衆議院議事速記録第三十二號中正誤

頁 段 行 誤 正

七二八 二二六 第二十二 第二十四

七一九頁三段大正九年法律第五十三號中改正法律案ニ對スル修正案中左ノ通修正スノ次ニ左ノ一行ヲ脱ス

「第一條削除」及「別表ヲ削ル」ヲ削ル